

継続的な改善活動のために！

2022

在学生・卒業生・教職員

KIT総合アンケート調査結果 [報告書 (抜粋)]

学校法人 金沢工業大学

KIT総合アンケート調査結果について

学長 大澤 敏

令和3年の大学進学率は54.9%に達し、大学教育のユニバーサル化が続いています。また、18歳人口激減期に突入し、本学入学者の考え方、気質も大きく変化しています。これに予測困難な社会情勢が加わり、社会から必要とされる大学を標榜する本学は、常に教育の質を分析し、不断の改革を行う必要があります。科学技術立国として世界の中で日本が発展するための理工系総合大学として存続し続けるためには、社会の変化に対応しながら、イノベーションを創出できる人材の育成が不可欠です。一方で、教育の質保証や卒業生や在学生の本学に対する満足度等に関しては、従来から不明な点が多いのが現状であります。新入生から卒業生までを網羅したKIT総合アンケート結果は、本学の教育の改善に対して多くの示唆を与えるものです。

金沢工業大学の教育目標は、Society5.0時代に必要なイノベーション力を身に付けた「自ら考え行動する技術者の育成」です。学生は本学の教育システムの中で学び、基礎知識と技能を確実に修得し、それを基に、思考力・判断力・表現力を養い、主体的に行動する人材として社会で活躍することになります。最も大切なことは、1日150科目以上開講される授業と課外活動の質、それに係わる教職員の行動であり、これが学生の成長にどのようにつながっているのかについて、学生・卒業生・教員・職員の区分で分析し、如何なる改善をなすべきかを知り、それを基にした教育改革を進める必要があります。

通常、この種のアンケートは自己点検・自己評価の下に行われる訳ですが、本学では第三者の調査・分析会社に調査結果の評価分析を依頼いたしましたので、より客観性のある報告書になり得たものと考えております。

本アンケートはこれからも継続して実施すると共に、今回得られた結果を踏まえて本学の教育へフィードバックしながら、卒業生・修了生・在学生の更なる満足度の向上に資することに致したく思っておりますので、忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸いです。

最後になりましたが、本アンケートにご協力いただきました関係各位に対しまして、心より感謝申し上げます。

※本報告書(抜粋)のページ番号は、報告書(全文)の目次に対応しているため、連動しておりません。

目次

<1>	本調査の全体像	1
<2>	目的・目標意識、満足度、1年間の振り返りに関して	9
<3>	授業、遠隔(オンライン)授業、学習支援に関して	15
<4>	学生生活に関して	21
<5>	進学、就職、卒業時の能力に関して	33
<6>	KIT-IDEALSに関して	53
<7>	卒業・修了生アンケートに関して	59
<8>	教職員アンケートに関して	65
<9>	全体のまとめ	73
<10>	調査票見本	159

<1-1> 調査の目的と概略

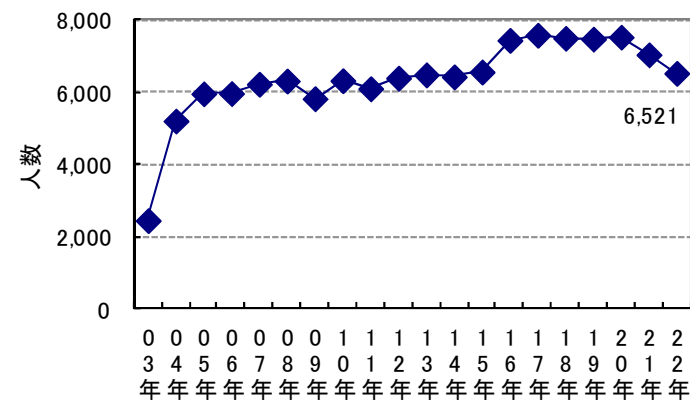
■ 調査目的

- 本調査は金沢工業大学(以下、KIT)を取り囲む関係者の中から、「在學生(新入生～卒業・修了直前)」「卒業・修了生」「教員」「職員」を対象として、KITに対する評価や満足度を聞き、過去の回答と比較しながら現状を把握することを主目的としている。
- 上記の各層が「KITをどのように見ているか?」「各々の見方にはどのような違いがあるのか?」「以前とどのように変わっているのか?」といった基礎的な情報を把握し、今後の学校運営、広報の検討に活用できるようとりまとめている。
- 本調査は2003年より実施しており、今回が19回目となる。同一内容で比較できる質問に関しては時系列変化で分析している。
- 2022年より「新入生」は別報告書としてまとめている。ただし、在學生と共通の質問(基本属性と2問)は本報告書で比較している。

■ 調査方法

調査時期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2022年2月～4月に実施。 ・ 在學生への調査期間は、2005年の調査より、年度当初(4月)から年度末(2月)に変更している。
調査方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「在學生」は学内で配布、「教職員」はメールで配信し、回収ボックスで回収した。「卒業・修了生」は郵送によって配布、回収した。 ・ すべて『無記名式』とした。
回収数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の全回収数は6,521サンプルであった。 ・ 属性別の回収数は下記の通り。
調査主体	学校法人 金沢工業大学
集計分析	(有)アイ・ポイント

■ 回答者数推移(企業担当者をのぞく)



■ 年度別回収数

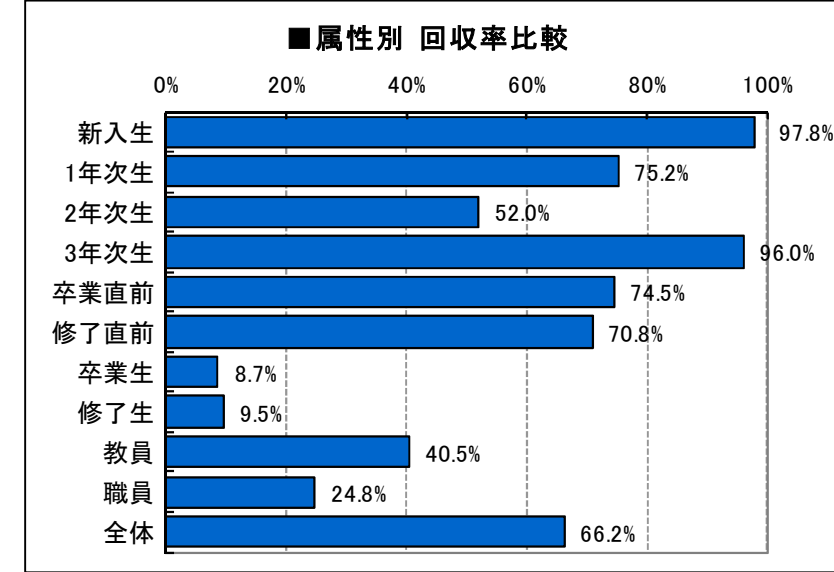
対象者	調査時点での属性	03年	04年	05年	06年	07年	08年	09年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年
新入生	入学直後	724	1,672	1,610	1,747	1,642	1,652	1,568	1,723	1,607	1,745	1,886	1,614	1,664	1,604	1,541	1,641	1,592	1,627	1,458	1,551
1年次生	1年次終了時点	106	1,007	1,379	1,364	1,505	1,461	1,369	1,293	1,411	1,299	1,562	1,587	1,447	1,519	1,361	1,384	1,438	1,395	1,435	1,107
2年次生	2年次終了時点	49	792	1,533	1,313	1,267	1,455	1,146	1,185	1,022	1,321	1,059	1,337	1,545	1,439	1,497	1,422	1,321	1,389	1,318	854
3年次生	3年次終了時点	106	449	441	599	768	793	643	760	781	756	741	769	744	1,520	1,312	1,350	1,387	1,349	1,274	1,457
卒・修直前	卒業・修了直前	976	914	610	549	669	664	711	960	808	873	829	790	865	970	1,509	1,364	1,424	1,439	1,241	1,243
卒業・修了生	卒業・修了生	163	107	97	80	90	57	110	137	149	146	144	104	125	124	121	138	124	131	153	120
教員	在職中の教員	143	133	151	157	136	118	118	112	115	108	118	131	80	134	127	106	102	120	90	113
職員	在職中の職員	187	131	134	153	144	109	155	148	202	139	143	93	91	122	106	86	78	71	63	76
企業担当者	就職企業	—	—	485	—	—	660	—	—	686	—	—	872	—	—	846	—	—	—	—	—
全体(企業除く)		2,454	5,205	5,955	5,962	6,221	6,309	5,820	6,318	6,095	6,387	6,482	6,425	6,561	7,432	7,574	7,491	7,466	7,521	7,032	6,521

※2014年より、「卒業・修了直前」は「卒業直前」と「修了直前」に、「卒業・修了生」は「卒業生」と「修了生」に分けて調査票を作成したが、件数としては合わせた数で表示している。

■属性別回収率

属性	配布数	回収数	回収率
新入生	1,586	1,551	97.8%
1年次生	1,473	1,107	75.2%
2年次生	1,642	854	52.0%
3年次生	1,517	1,457	96.0%
卒業直前	1,470	1,095	74.5%
修了直前	209	148	70.8%
卒業生	1,174	102	8.7%
修了生	189	18	9.5%
教員	279	113	40.5%
職員	306	76	24.8%
全体	9,845	6,521	66.2%

※属性別回収率の「配布数」は実際に調査票を配布した数となる。



■学部別・学科別回収率(新入生、1年次生、2年次生、3年次生、卒業直前)

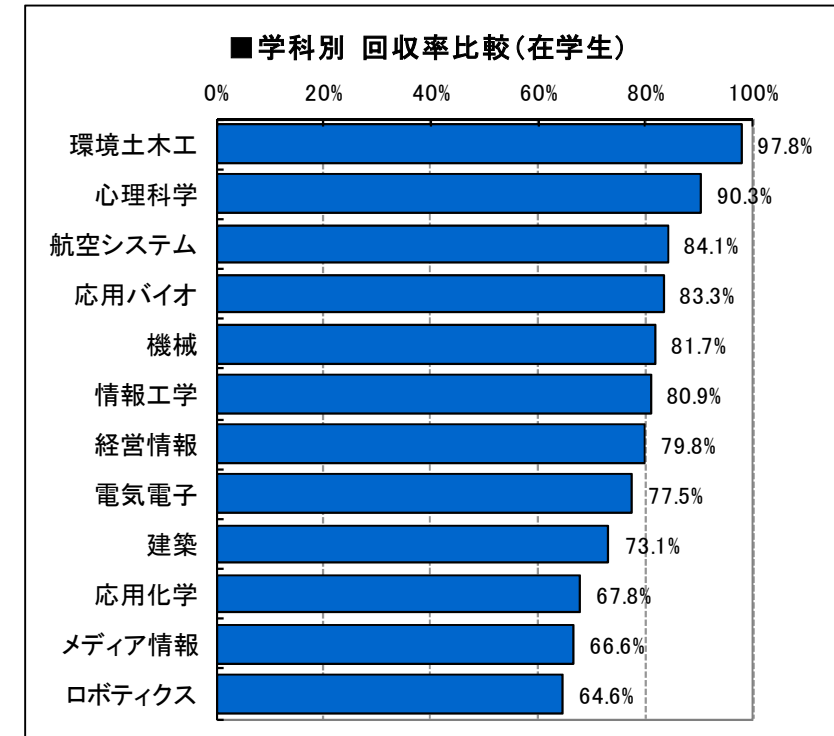
学部	学部別 在籍者数	学部別 回収数	学部別 回収率	学科	学科別 在籍者数	学科別 回収数	学科別 回収率
工学部	4,495	3,610	80.3%	機械	947	774	81.7%
				航空システム	251	211	84.1%
				ロボティクス	491	317	64.6%
				電気電子	1,171	907	77.5%
				情報工学	1,171	947	80.9%
				環境土木工	464	454	97.8%
情報 フロンティア 学部	1,349	998	74.0%	メディア情報	775	516	66.6%
				経営情報	347	277	79.8%
				心理科学	227	205	90.3%
建築学部	1,128	825	73.1%	建築	1,128	825	73.1%
バイオ・化学部	716	543	75.8%	応用化学	345	234	67.8%
				応用バイオ	371	309	83.3%
全体	7,688	5,976	77.7%	全体	7,688	5,976	77.7%

※2022年からは、在学生(新入生、1年次生、2年次生、3年次生、卒業直前)はすべて12学科となっている。

※2022年は、コロナ禍による回収スケジュールの都合により、「経営情報学科」1年次の回収ができなかった。

※卒業生は14学科であるが、回収数(102名)も少ないため、上記の表には加えていない。

※回収率に関しては、学科無回答の88名は除外して集計している。



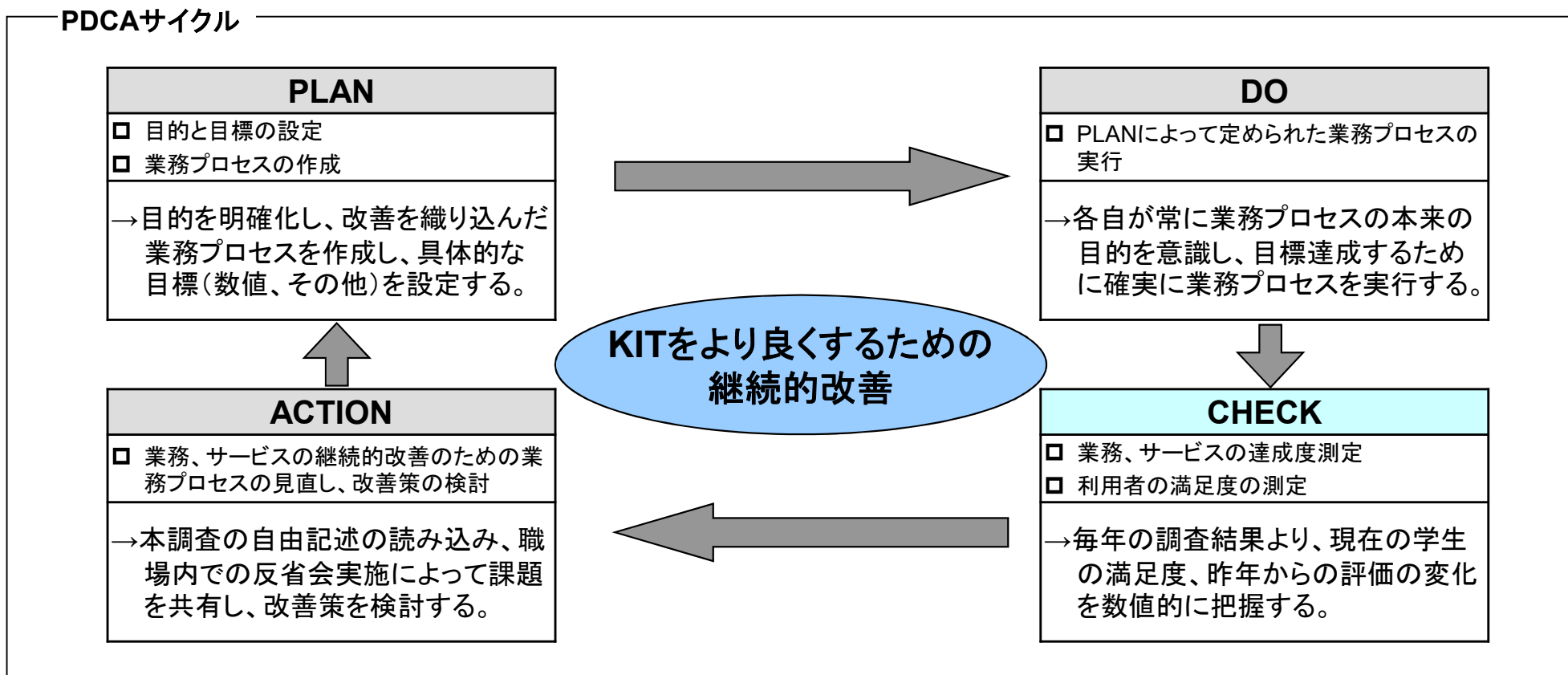
■集計に関して

分野	注意点
分析に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・「目的・目標意識」「総合満足度」などの、重要な指標に関しては「単純集計」「年度別比較」の他に「男女別」「学年別」「学科別」などの属性別のグラフを提示し、分析を行っているが、その他の項目に関しては「単純集計」「年度別比較」のみの分析とし、属性別に関しては巻末にグラフだけを掲載している。 ・「新入生」アンケートに関しては、入試広報などに活用するために属性別の集計も分析している。また、「卒業・修了生」「教職員」についても属性別の分析を行っている。
無回答に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・特に但し書きがない場合は、無回答は集計から除外している。
加重平均に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・各調査項目を属性毎に比較するため、加重平均値を多く活用している。 ・今回の調査では、選択肢を「そう思う～どちらかといえばそう思う～どちらかといえばそう思わない～そう思わない」などのように4択式で構成した。なお、「あてはまらない、分からない」は無回答として処理した。 ・加重平均は上記の選択肢に、+10点、+5点、-5点、-10点を掛けて回答者数で除して算出した。従って、最高点が10点で最低点がマイナス10点となる。 ・「あてはまらない、分からない」「無回答」は回答者数に含めていない。
グラフに関して	<ul style="list-style-type: none"> ・折れ線グラフは主に時系列変化を見る際に利用されるが、この報告書では加重平均を属性毎に比較する際に本来の棒グラフでは見にくくなるため、折れ線グラフで表現しているものもある。
誤差に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・報告書内のデータの「集計値」や「合計値」は小数点第1位までの表示となっているが、これは小数点第2位を四捨五入したものとなっている。「肯定的な意見の合計値」などもこのルールに従っているため、「集計値」と「合計値」の四捨五入の判断が異なり、最大で0.1の差となっているケースもあるが、これは誤差として、そのままとしている。
属性別比較に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・報告書内では属性別比較を行っているが、「全体集計」と「属性別比較」の結果が異なっているケースもある。これは、「全体集計」ではすべてのデータが集計対象となるが、属性が未回答の場合は「属性別集計」では集計対象とならないためであり、これらの数値は、そのまま表示している。
学科別集計に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・今回、在学生（「新入生」「1年次生」「2年次生」「3年次生」「卒業直前」）はすべて12学科で、「卒業生」だけが14学科であったが、学科別集計に関しては下記の通りに12学科体制に調整して集計している。 ・14学科体制の「電気電子工学科」と「電子情報通信工学科」は12学科体制の「電気電子工学科」として集計し、同様に「建築デザイン学科」と「建築学科」は「建築学科」として集計している。

<1-2> 調査の位置づけ

■PDCAサイクルの中での本報告書の位置づけ

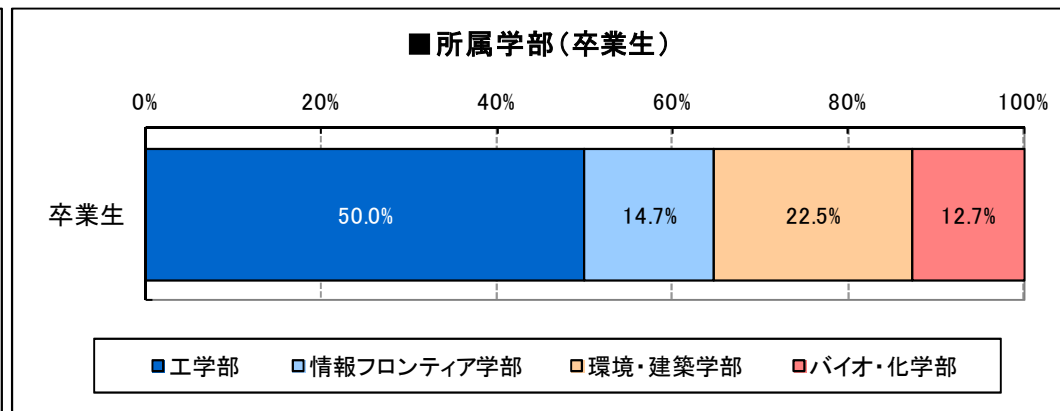
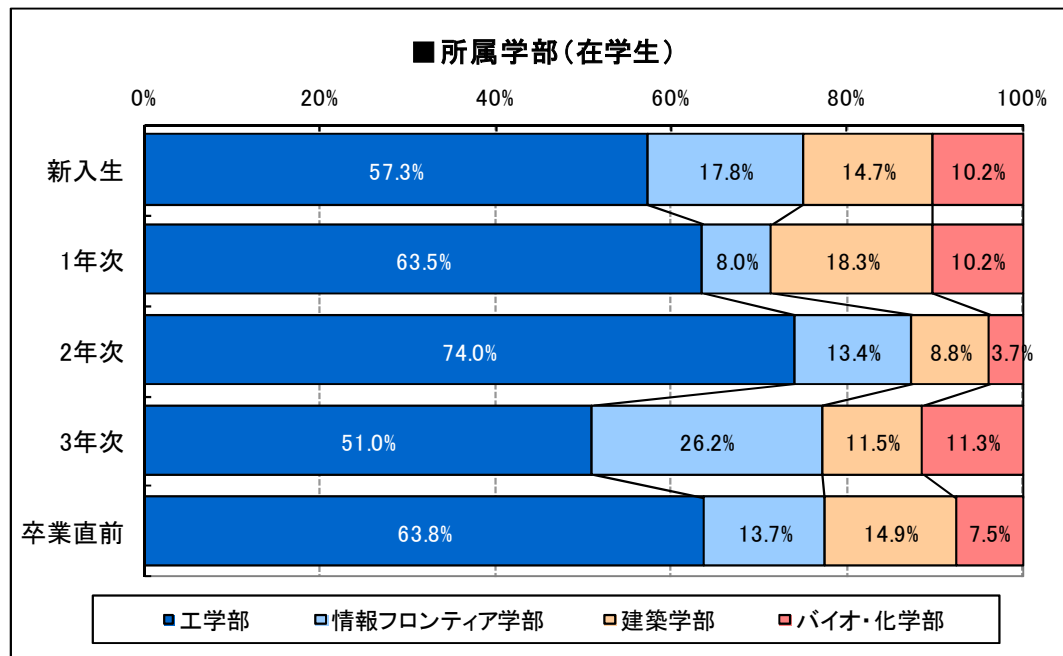
本報告書は前出の目的に基づいて作成されているが、具体的なPDCAサイクルの中では下記のように位置づけられる。



- 今回の調査によって得られた「KIT関係者のKITに対する評価、満足度」は、上記「PDCAサイクル」の中の「CHECKステップ」に相当する。
- 「PDCAサイクル」は一時的なものではなく、継続的な改善を目指すものである。従って「他の施設や機能と比較して評価がどうであったか？」という相対的な結果を見るよりも、「昨年と比較して評価がどう変化したのか?」「自らが設定した目標は達成したのか?」といった変化を見る方が、よりPDCAのサイクルに則した見方ができるものと思われる。
- また、今後の改善策を検討するためには「自由記述」が有効であり、多くのヒントが含まれているものと思われる。
- 本調査企画は昨年から改善を重ねて内容を見直しているため、質問方法、選択肢などが異なる部分もあるが、今後はこれらの違いをできるだけ少なくし、より比較検討が行いやすい内容にしていく予定である。

<1-3> 在学生・卒業生の基本属性

■ 所属学部、学科



■ 所属学科

	機械工学科	航空システム工学科	ロボティクス学科	電気電子工学科	情報工学科	環境土木工学科	メディア情報学科	経営情報学科	心理科学科	建築学科	応用化学科	応用バイオ学科	総計
新入生	12.2%	2.6%	4.8%	15.3%	15.6%	6.7%	10.2%	5.1%	2.5%	14.7%	5.1%	5.1%	100.0%
1年次生	13.9%	3.6%	7.9%	14.4%	17.9%	5.9%	4.5%	0.0%	3.4%	18.3%	4.5%	5.6%	100.0%
2年次生	16.4%	4.4%	3.6%	19.5%	20.1%	10.0%	3.6%	7.9%	1.9%	8.8%	1.5%	2.3%	100.0%
3年次生	11.1%	2.9%	4.1%	13.1%	11.2%	8.6%	13.2%	7.2%	5.8%	11.5%	4.4%	7.0%	100.0%
卒業直前	12.8%	5.1%	6.3%	15.2%	17.1%	7.4%	8.2%	2.9%	2.7%	14.9%	2.9%	4.6%	100.0%

	機械工学科	航空システム工学科	ロボティクス学科	電気電子工学科	電子情報通信工学科	情報工学科	メディア情報学科	経営情報学科	心理情報学科	建築デザイン学科	建築学科	環境土木工学科	応用化学科	応用バイオ学科	総計
卒業生	11.8%	6.9%	8.8%	12.7%	0.0%	9.8%	8.8%	2.9%	2.9%	7.8%	9.8%	4.9%	6.9%	5.9%	100.0%

※学科別集計に関しては12学科体制に調整して集計している。詳細は「<1-1> 調査の目的と概略」の「■集計に関して」を参照のこと。また、ここでは「無回答」は除外して集計している。

■出身地域

■在学生の出身地域

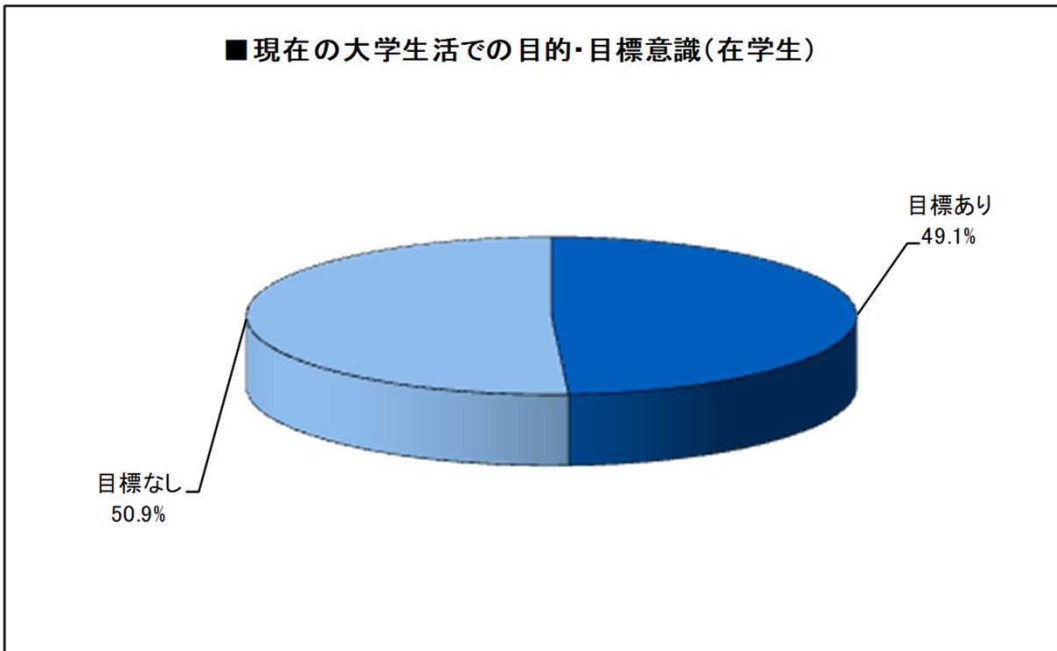
	北海道・東北	関東	甲信越	北陸	東海	関西	中国・四国	九州・沖縄	全体
1年次生	43	67	157	513	165	102	43	11	1,101
	3.9%	6.1%	14.3%	46.6%	15.0%	9.3%	3.9%	1.0%	100.0%
2年次生	36	42	119	387	161	60	31	11	847
	4.3%	5.0%	14.0%	45.7%	19.0%	7.1%	3.7%	1.3%	100.0%
3年次生	56	104	178	670	221	137	55	21	1,442
	3.9%	7.2%	12.3%	46.5%	15.3%	9.5%	3.8%	1.5%	100.0%
卒業直前	42	66	169	504	176	78	35	20	1,090
	3.9%	6.1%	15.5%	46.2%	16.1%	7.2%	3.2%	1.8%	100.0%
修了直前	4	8	20	51	35	18	8	2	146
	2.7%	5.5%	13.7%	34.9%	24.0%	12.3%	5.5%	1.4%	100.0%
全体	181	287	643	2,125	758	395	172	65	4,626
	3.9%	6.2%	13.9%	45.9%	16.4%	8.5%	3.7%	1.4%	100.0%

※新入生は47都道府県で聞いており、新入生だけの報告書に記載している。

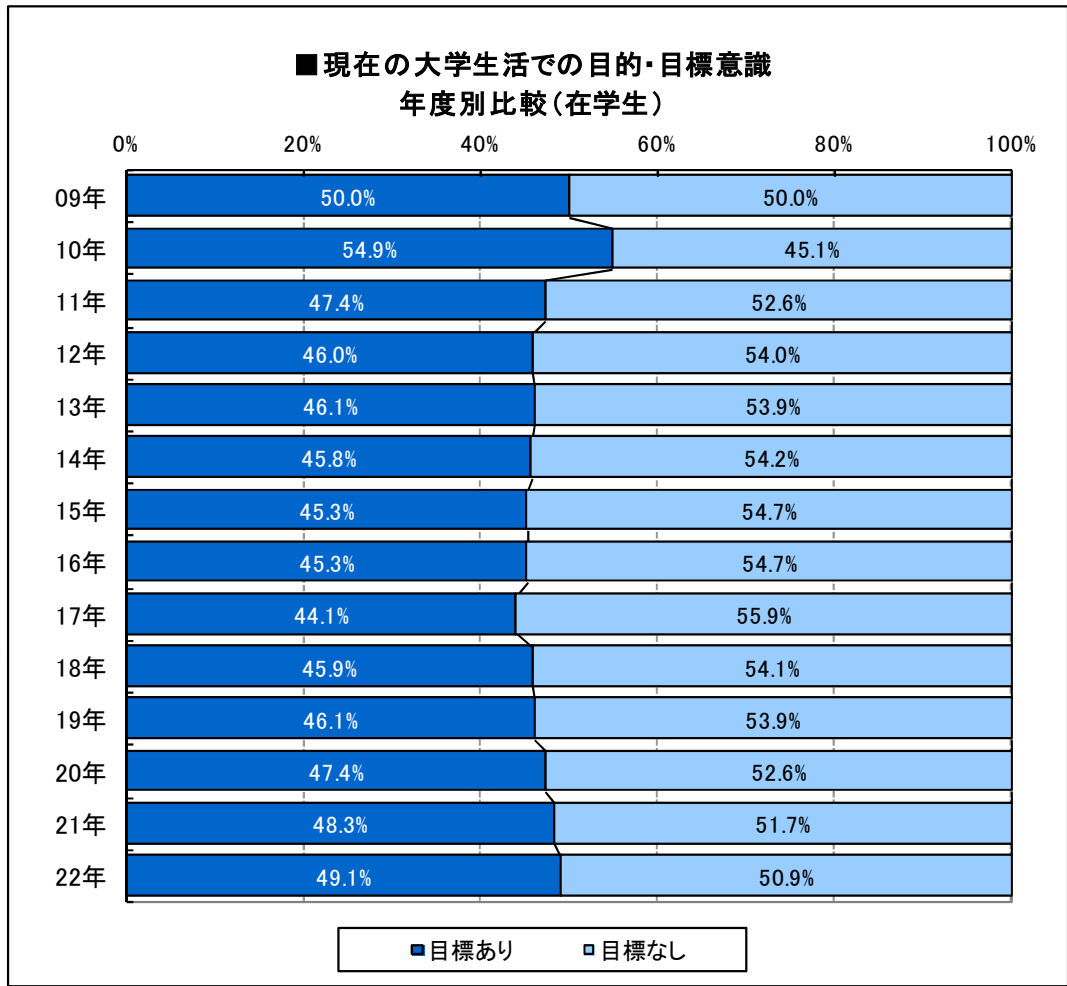
<2-1> 在学中の目的・目標意識

■現在の目的・目標意識

- 「大学生活を送る上での目的・目標の有無」に関しては、「目標あり」が49.1%、「目標なし」が50.9%であり、ほぼ半々の割合であった。
- 年度別比較では、「目標あり」は前回は0.8ポイント上回り、11年以降で最多となっていた。



目標あり(49.1%) < 目標なし(50.9%)



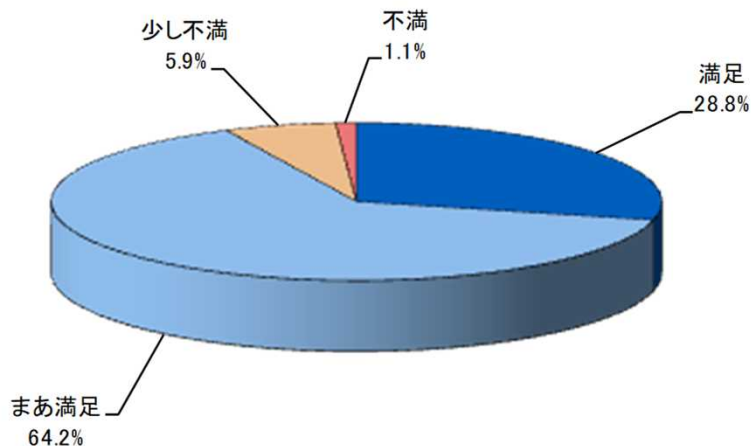
※この質問は「新入生」「在学生(卒・修直前を含む)」「卒業生」「修了生」に聞いているが、このページのグラフは年度別の比較が可能な「在学生」のみを対象として比較しており、次項以降のグラフは「新入生」「卒業生」「修了生」も含めて比較をしている。

<2-2>KITの総合満足度

■KIT全体に関する満足度

- 「KIT全体に関する満足度」では、「満足」が28.8%、「まあ満足」が64.2%で、合わせると93.0%と大多数が満足という回答であった。そして不満という回答の合計は7.0%にとどまっていた。
- KITの総合満足度の質問文は、08年までは「今のKITに満足していますか？」と聞いており、09年には質問を行わなかった。そして、10年からは「KIT全体に関する満足度」として、「満足」～「不満」を選ぶ聞き方に変更している。
- 質問が統一された10年以降の変化を見ると、満足という回答は12年までは横ばいであったが、13年以降は例外はあるものの基本的には増加傾向が続いていた。そして、今回(22年)は前回は5.4ポイントと大幅に上回り、過去最高の満足度となっていた。内訳を見ると「満足」は前回は9.9ポイントと大幅に上回っており、強く満足している学生が多い点も特徴的であった。

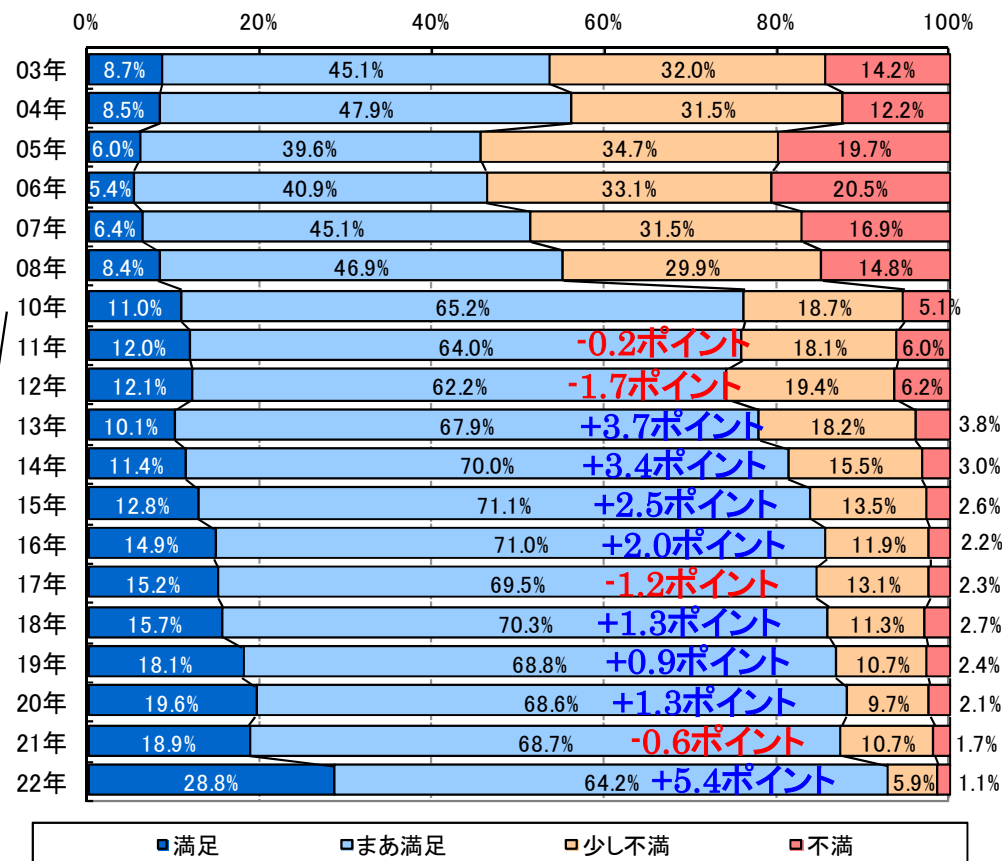
■KIT全体に関する満足度(在学生)



満足している(93.0%) > 不満を持っている(7.0%)

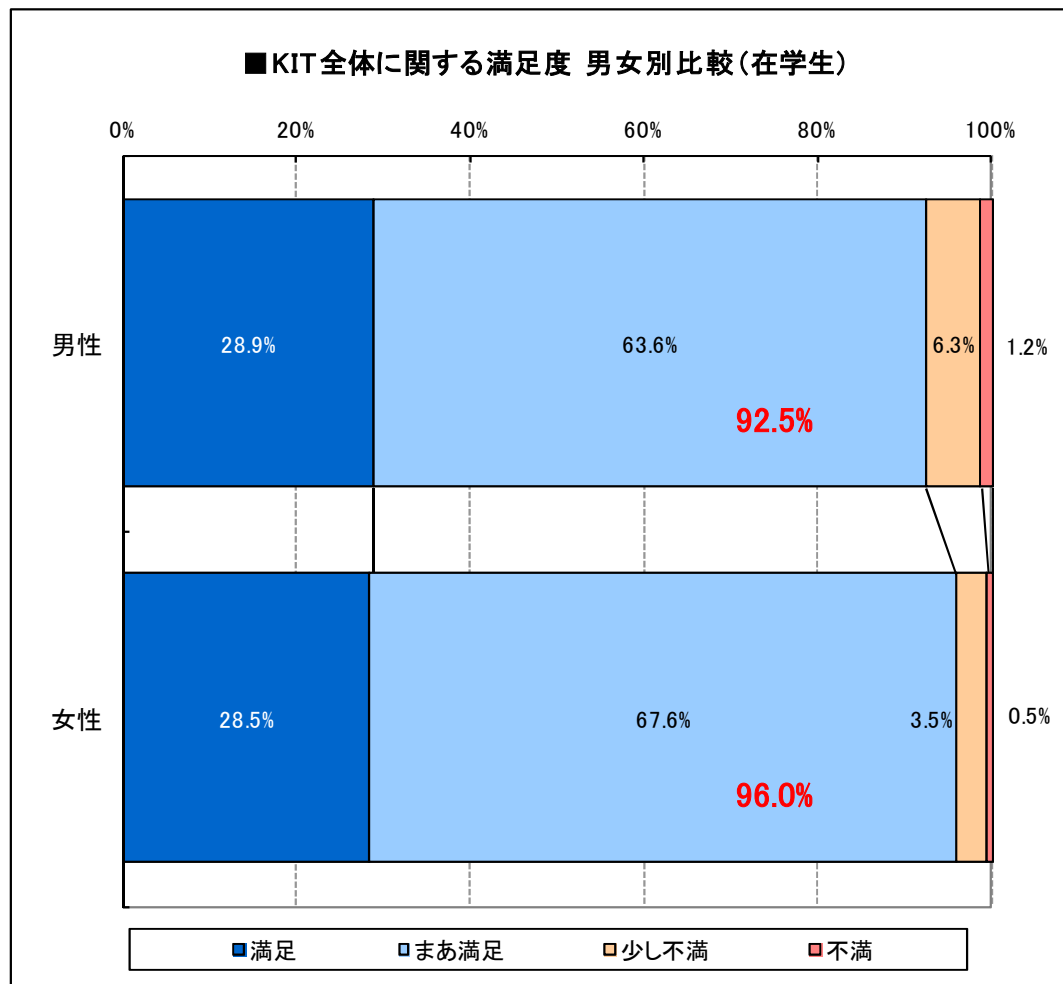
10年から聞き方が
変わっている

■KIT全体に関する満足度 年度別比較(在学生)



■KIT全体に関する満足度 男女別比較

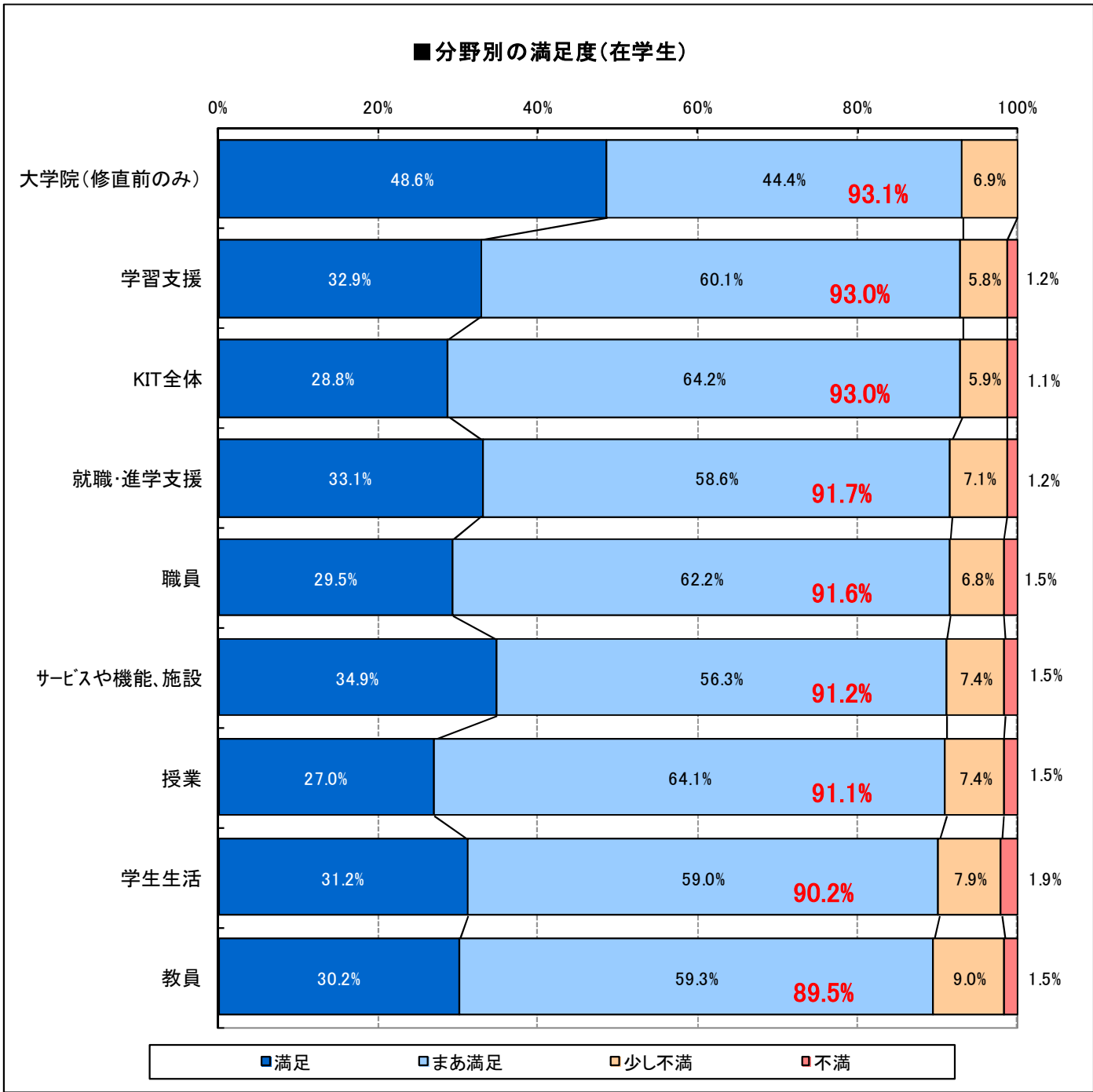
- 満足度を男女別に比較すると、「男性」が92.5%、「女性」が96.0%であり、「女性」の方が3.5ポイント多かった。



<2-3>分野別の満足度

■分野別満足度

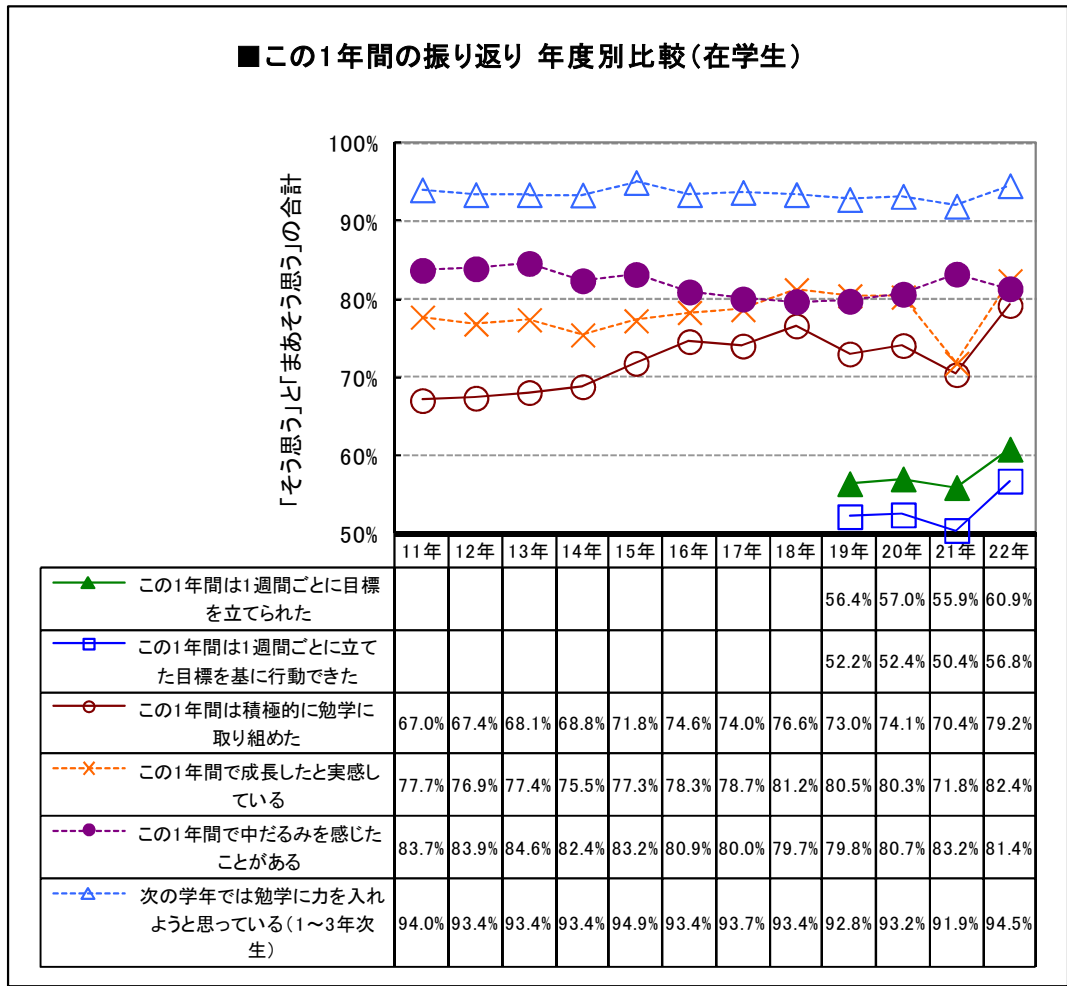
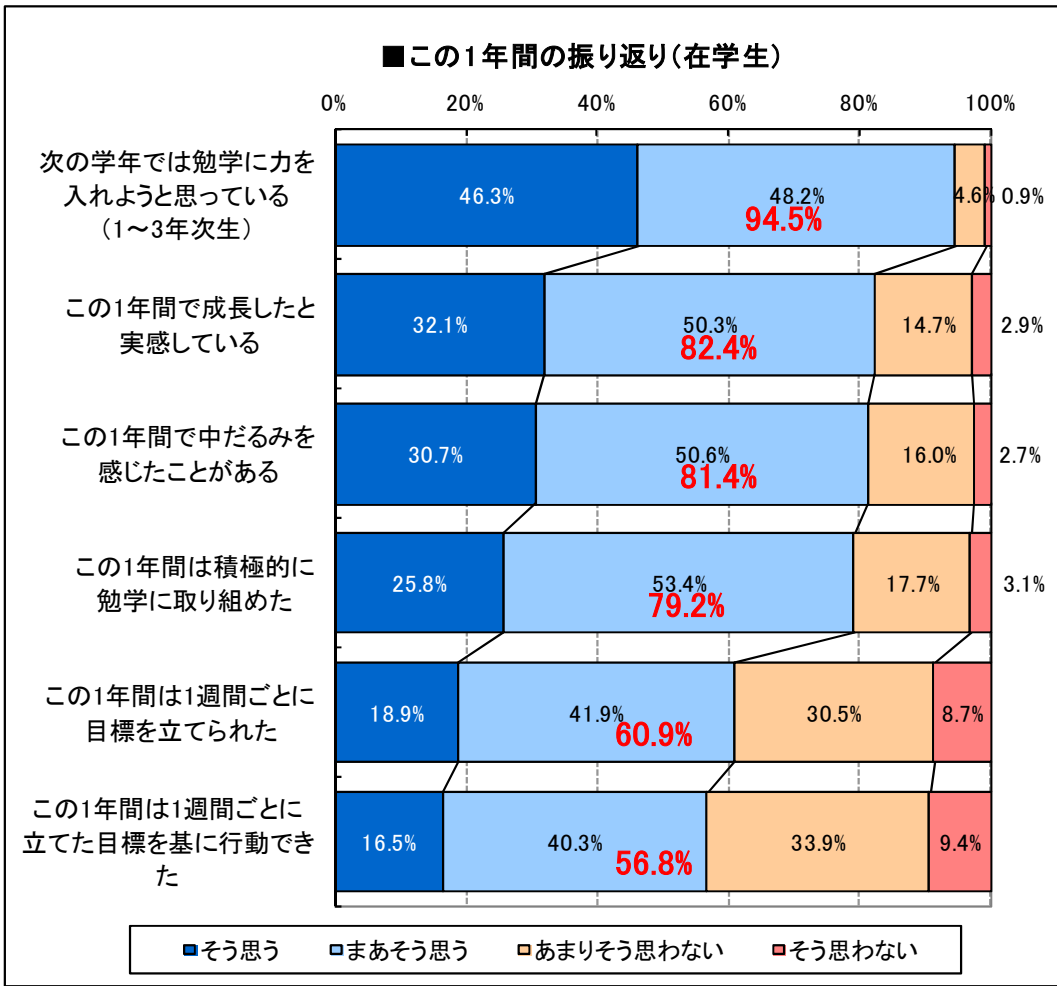
- 大学生活の9分野の満足度で、最も高かったのは「大学院」の93.1%であった。この項目は「修了直前」のみに聞いているが、「満足」が48.6%と目立って多く、強く満足している様子がうかがえた。
- 上記に次いで、「学習支援」と「KIT全体」が93.0%、「就職・進学支援」が91.7%、「職員」が91.6%と続いていた。
- 一方、満足度が最も低かったのは「教員」の89.5%であった。これも十分に高い満足度であるが、唯一、9割を下回っていた。



<2-4>この1年間の振り返り

■この1年間の振り返り 年度別比較

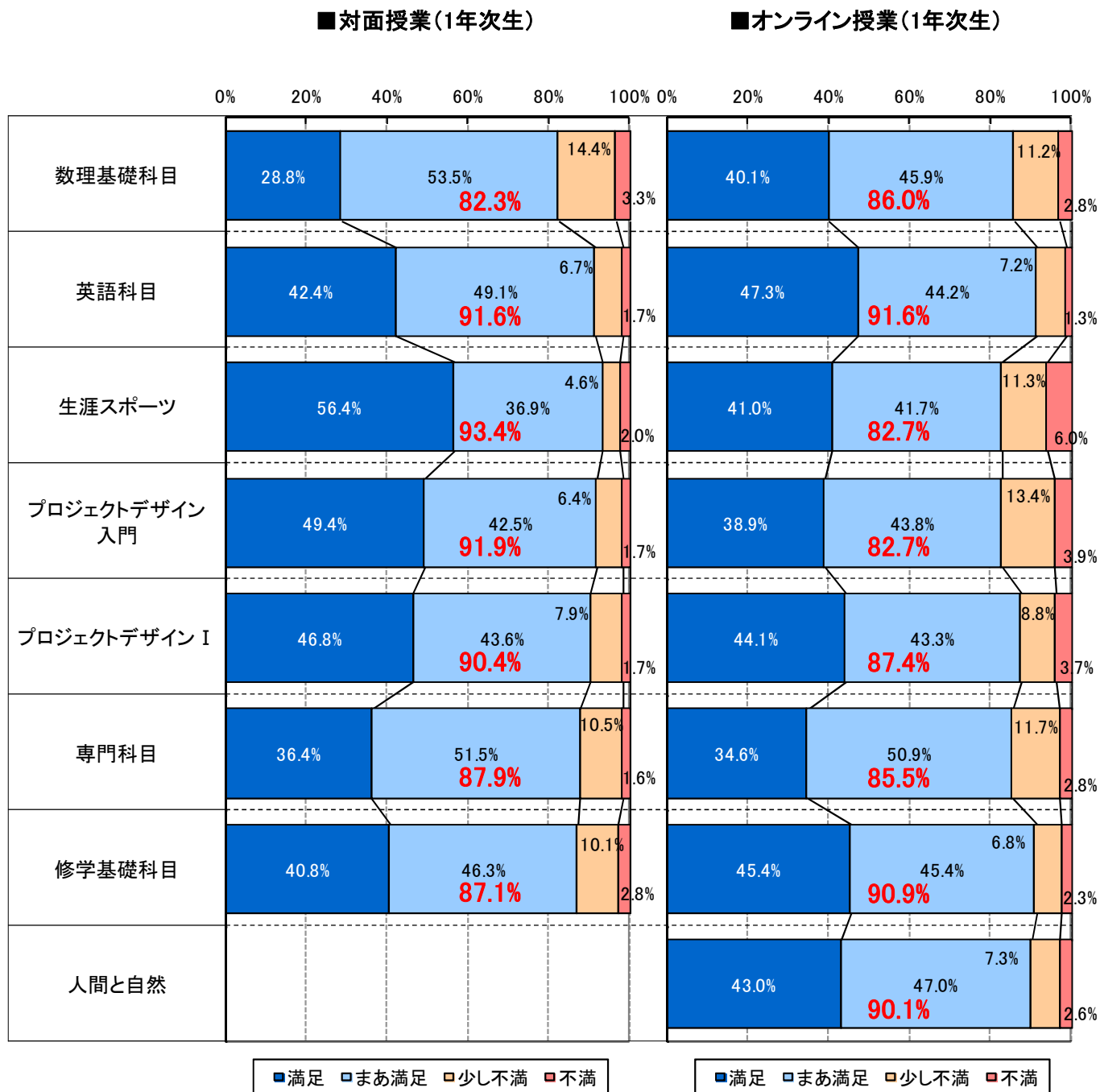
- 「この1年間の振り返り」で肯定的な意見が最も多かったのは「次の学年では勉学に力を入れようと思っている」の94.5%であった。これは1～3年次生」だけに聞いた項目であるが、「そう思う」が46.3%になるなど、次の学年に向けての強い意気込みが感じられた。
- 上記に次いで、「この1年間で成長したと実感している」が82.4%、「この1年間で中だるみを感じたことがある」が81.4%で続いており、成長を実感している学生と中だるみを感じている学生が、いずれも8割ということであった。
- 一方、「この1年間は1週間ごとに立てた目標を基に行動できた」と「この1年間は1週間ごとに目標を立てられた」で肯定的な意見が少なく、目標を立てることと、それに基づく行動に対する苦手意識が感じられた。
- 年度別比較を見ると、「この1年間で中だるみを感じたことがある」というネガティブな回答はわずかに減少し、その他はすべて前回は上回っており、「積極性」「成長実感」「目標に基づいた行動」など、全体的には良い状況になっていると言える。



<3-1>授業の満足度

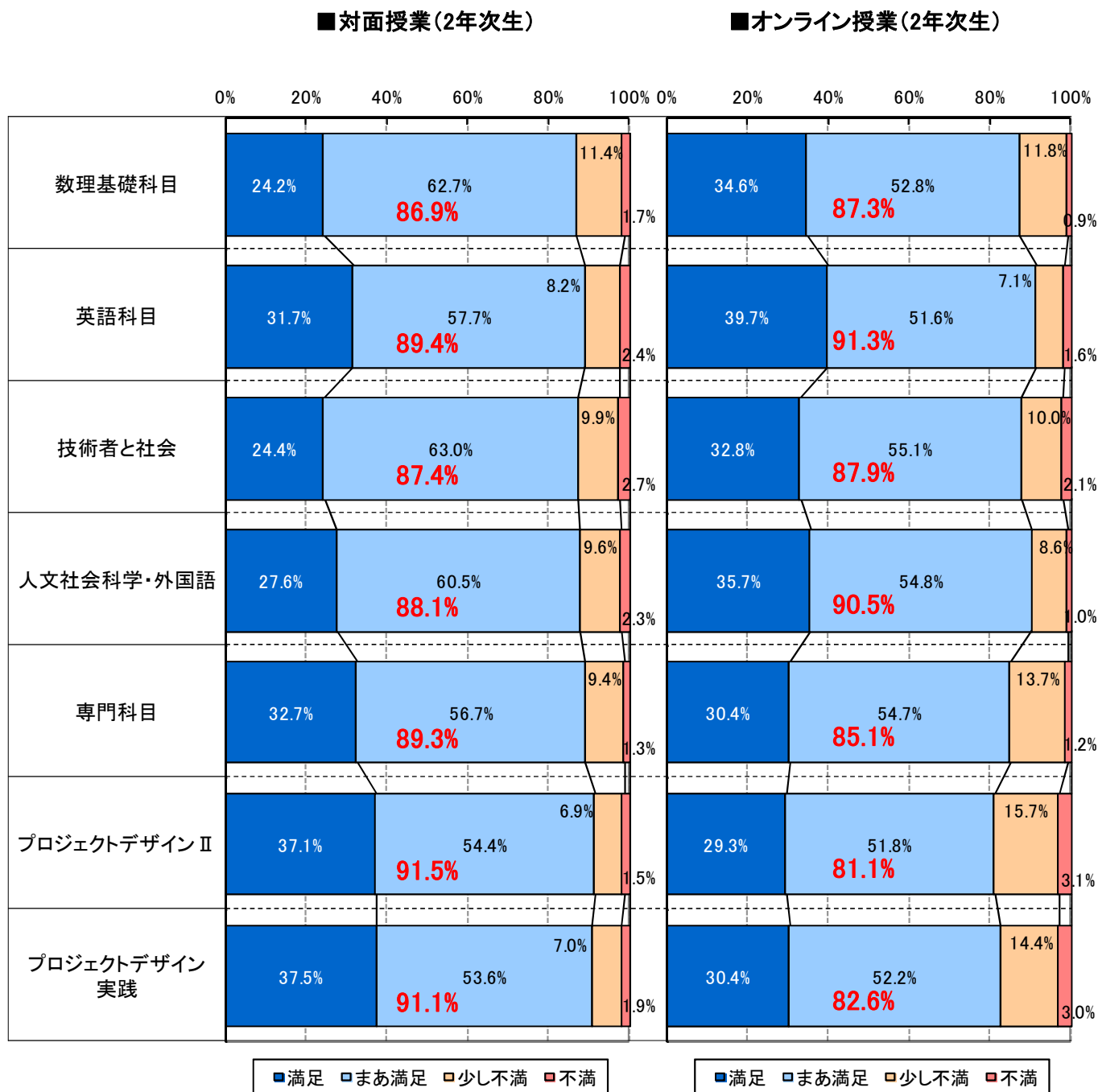
■授業の満足度 1年次生

- 「1年次生」の「対面授業」で最も満足度が高かったのは「生涯スポーツ」の93.4%であり、「満足」が56.4%と半数を超えていた。次いで、「プロジェクトデザイン入門」が91.9%、「英語科目」が91.6%と続いていた。一方、最も低かったのは「数理基礎科目」の82.3%であったが、8割以上が満足しており、決して低い満足度ではなかった。
- 「オンライン授業」で最も満足度が高かったのは「英語科目」の91.6%であった。次いで、「修学基礎科目」が90.9%、「人間と自然」が90.1%と続いていた。そして、最も低かったのは「生涯スポーツ」と「プロジェクトデザイン入門」の82.7%であったが、これらも十分に高い満足度であった。
- 「対面授業」と「オンライン授業」の両方を聞いている科目の評価を比較すると、「英語科目」は同じであったが、「数理基礎科目」と「修学基礎科目」は「オンライン授業」の満足度の方が高く、その他は「対面授業」の満足度の方が高かった。また、内訳を見ると「オンライン授業」では「満足」の割合に大きな差がないという特徴が見られた。



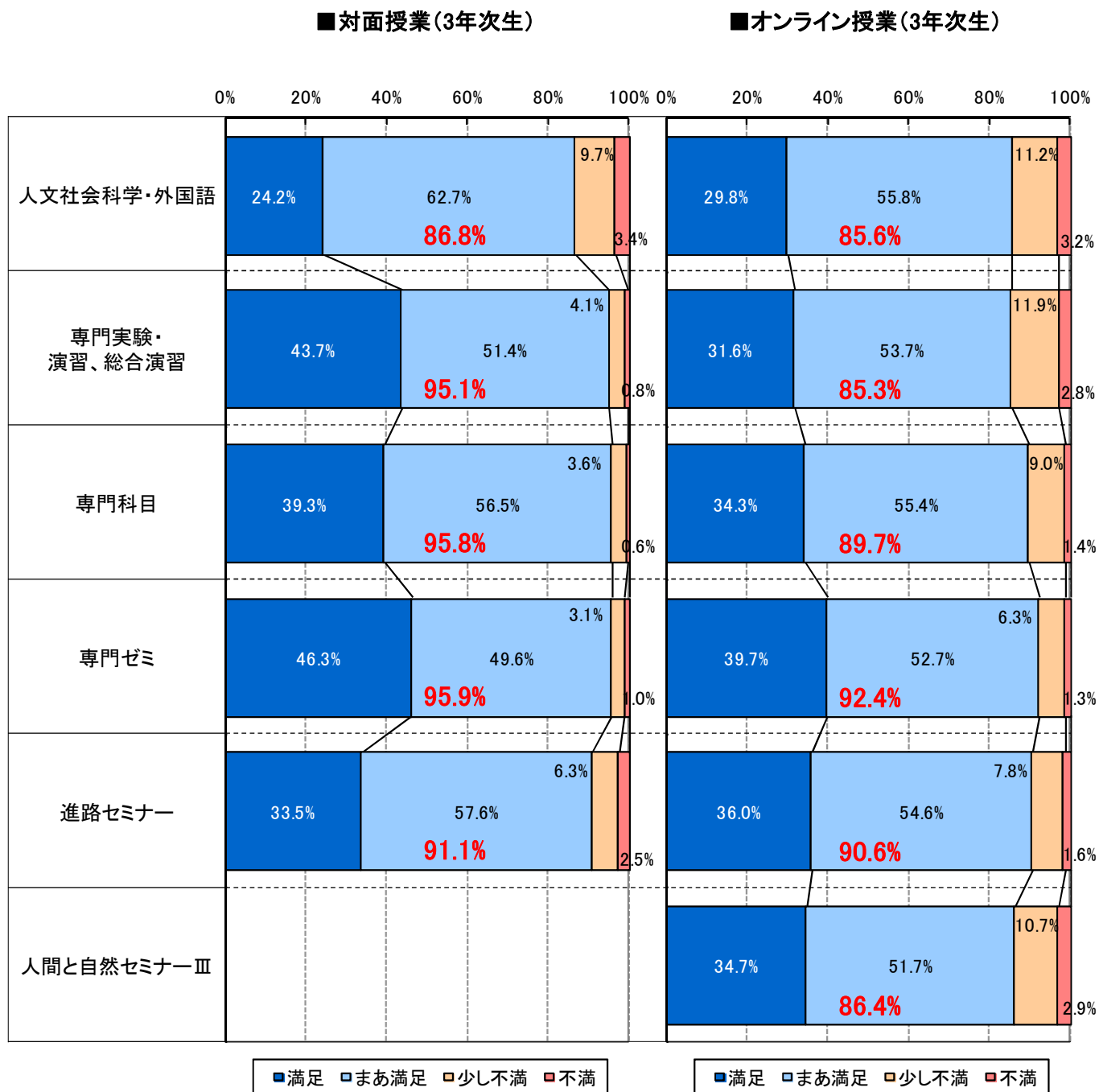
■授業の満足度 2年次生

- 「2年次生」の「対面授業」で最も満足度が高かったのは「プロジェクトデザインⅡ」の91.5%であり、「プロジェクトデザイン実践」が91.1%で続いていた。この2科目は「満足」の割合も同じように多く、似た評価となっていた。そして、最も低かった「数理基礎科目」でも86.9%であり、いずれも高い満足度であった。
- 「オンライン授業」で最も満足度が高かったのは「英語科目」の91.3%であり、「人文社会科学・外国語」が90.5%、「技術者と社会」が87.9%で続いていた。そして、最も低かったのは「プロジェクトデザインⅡ」の81.1%であり、「オンライン授業」も全体的に満足度は高かった。
- 「対面授業」と「オンライン授業」の比較をみると、「専門科目」「プロジェクトデザインⅡ」「プロジェクトデザイン実践」の3科目は「オンライン授業」の満足度の方が高かった。これを見ると、専門性の高い科目に関しては「対面授業」の満足度の方が高くなると言えそうであった。



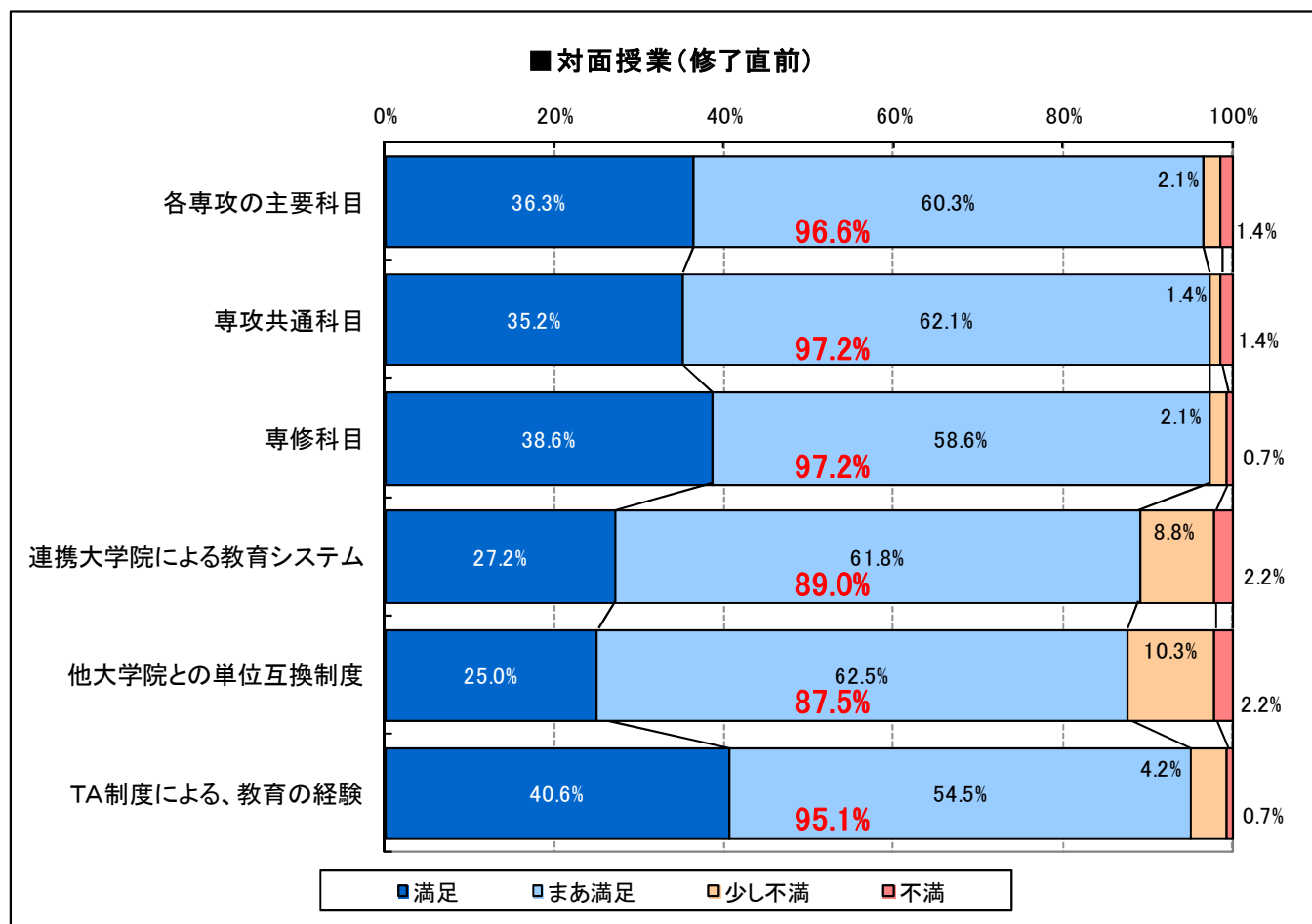
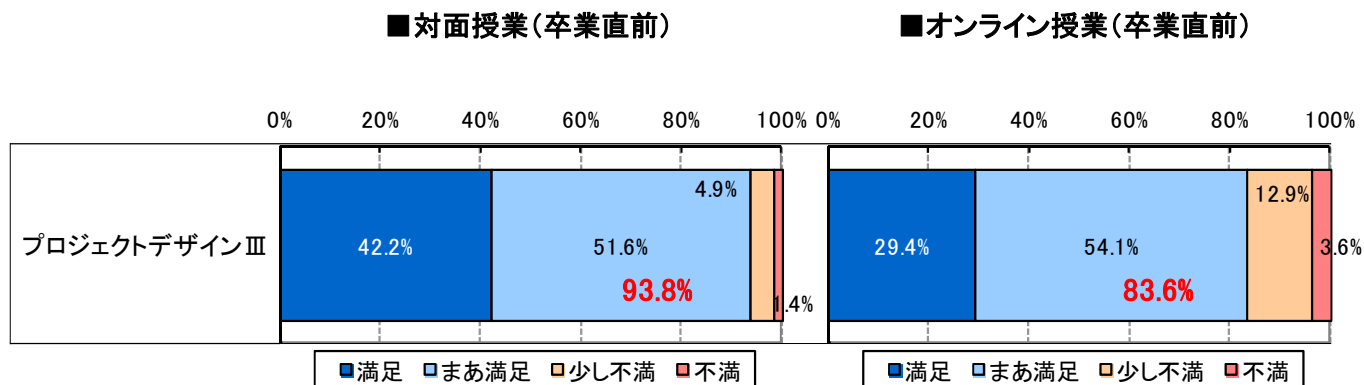
■授業の満足度 3年次生

- 「3年次生」の「対面授業」で最も満足度が高かったのは「専門ゼミ」の95.9%であり、「専門科目」が95.8%、「専門実験・演習、総合演習」が95.1%で続いており、いずれも非常に高い満足度であった。一方、最も低かったのは「人文社会科学・外国語」の86.8%であった。
- 「オンライン授業」でも、最も満足度が高かったのは「専門ゼミ」の92.4%であった。そして、「進路セミナー」が90.6%、「専門科目」が89.7%で続いていた。一方、最も低かったのは「専門実験・演習、総合演習」の85.3%であった。
- 「対面授業」と「オンライン授業」の比較をみると、「対面授業」の満足度の方が高く、専門性が高くなる「3年次生」の科目は「対面授業」の満足度が高くなると言えそうであった。



■授業の満足度 卒業・修了直前

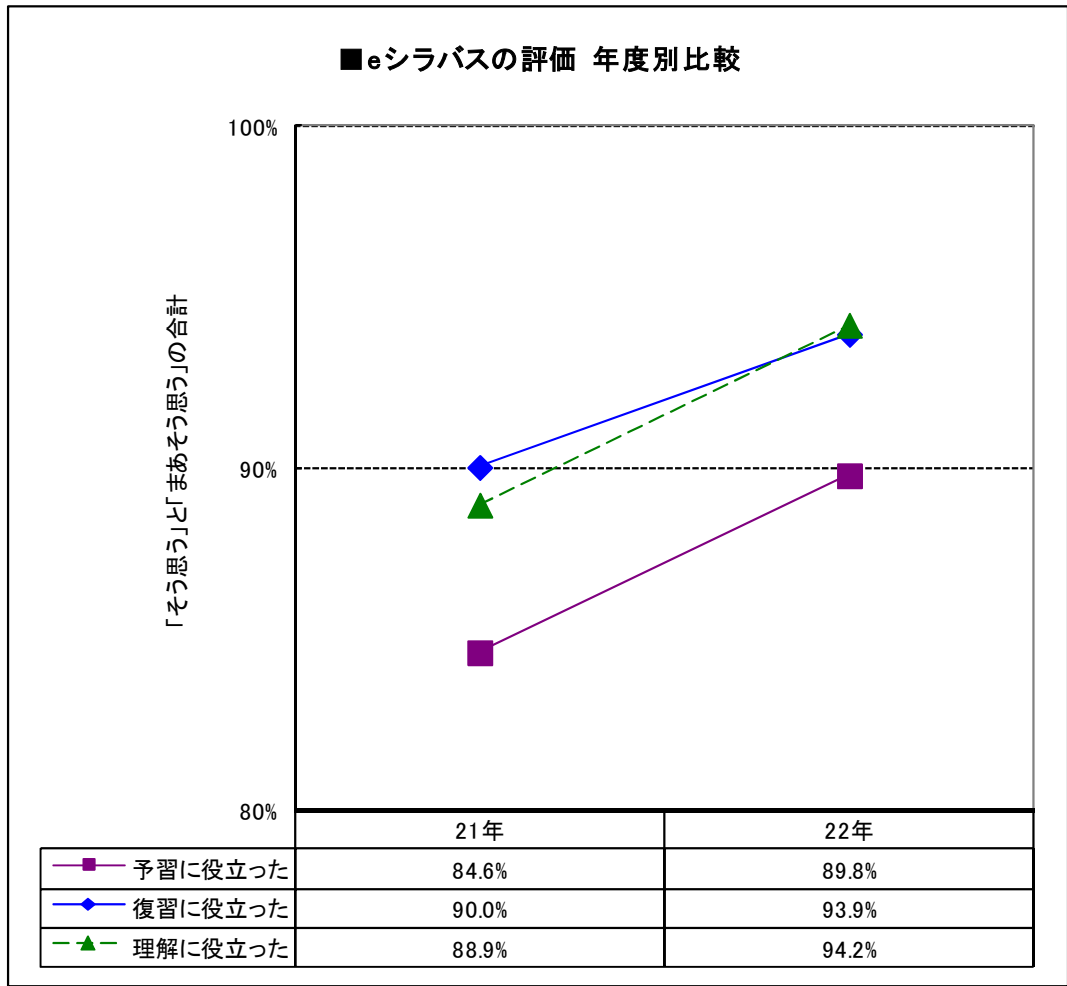
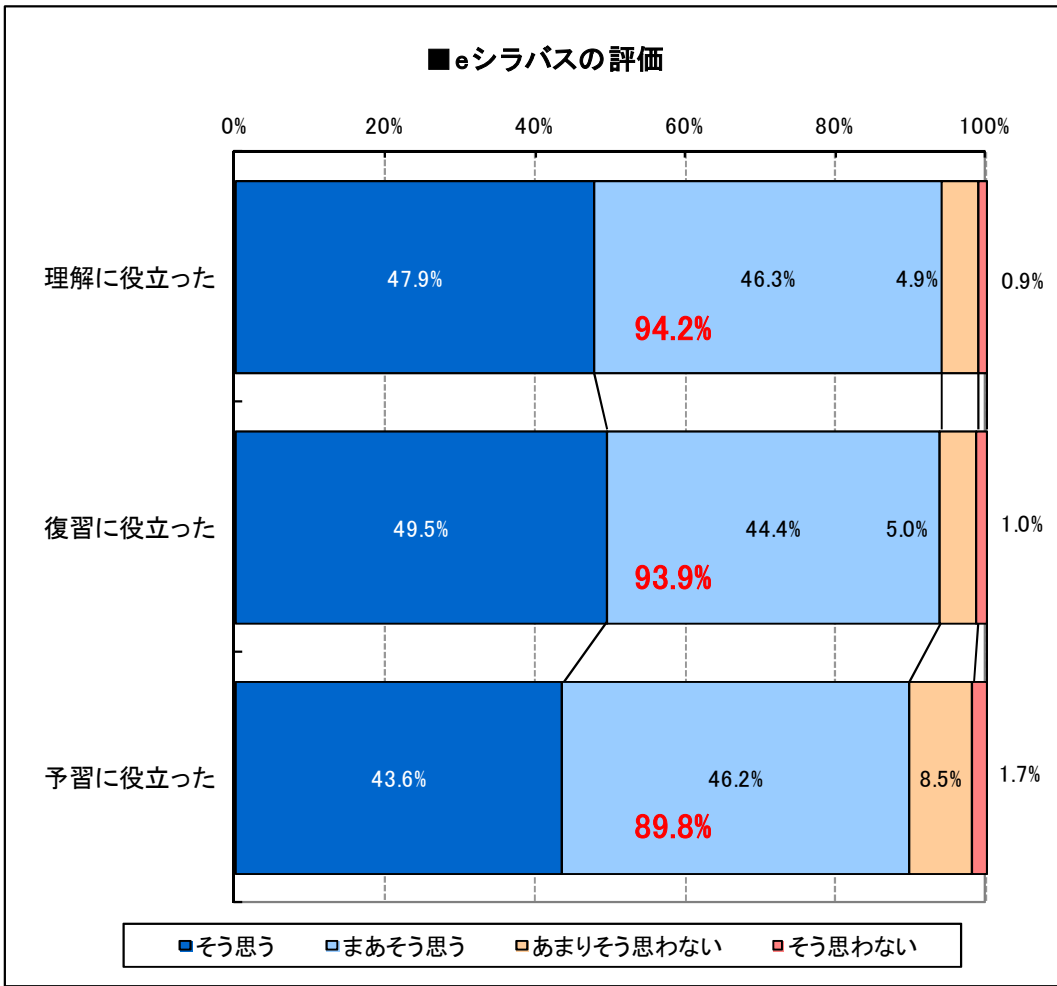
- 「卒業直前」の授業は「プロジェクトデザインⅢ」の1科目だけであるが、「対面授業」の満足度は93.8%、「オンライン授業」の満足度は83.6%で、「対面授業」の方が高かった。
- 「修了直前」はすべて「対面授業」であった。最も満足度が高かったのは「専攻共通科目」と「専修科目」の97.2%であり、「各専攻の主要科目」が96.6%、「TA制度による、教育の経験」が95.1%で続いていた。
- 一方、満足度がやや低めであったのは「他大学院との単位互換制度」の87.5%と「連携大学院による教育システム」の89.0%であったが、この2科目はいずれも「満足」が少ない点が共通していた。



<3-2>遠隔(オンライン)授業の評価

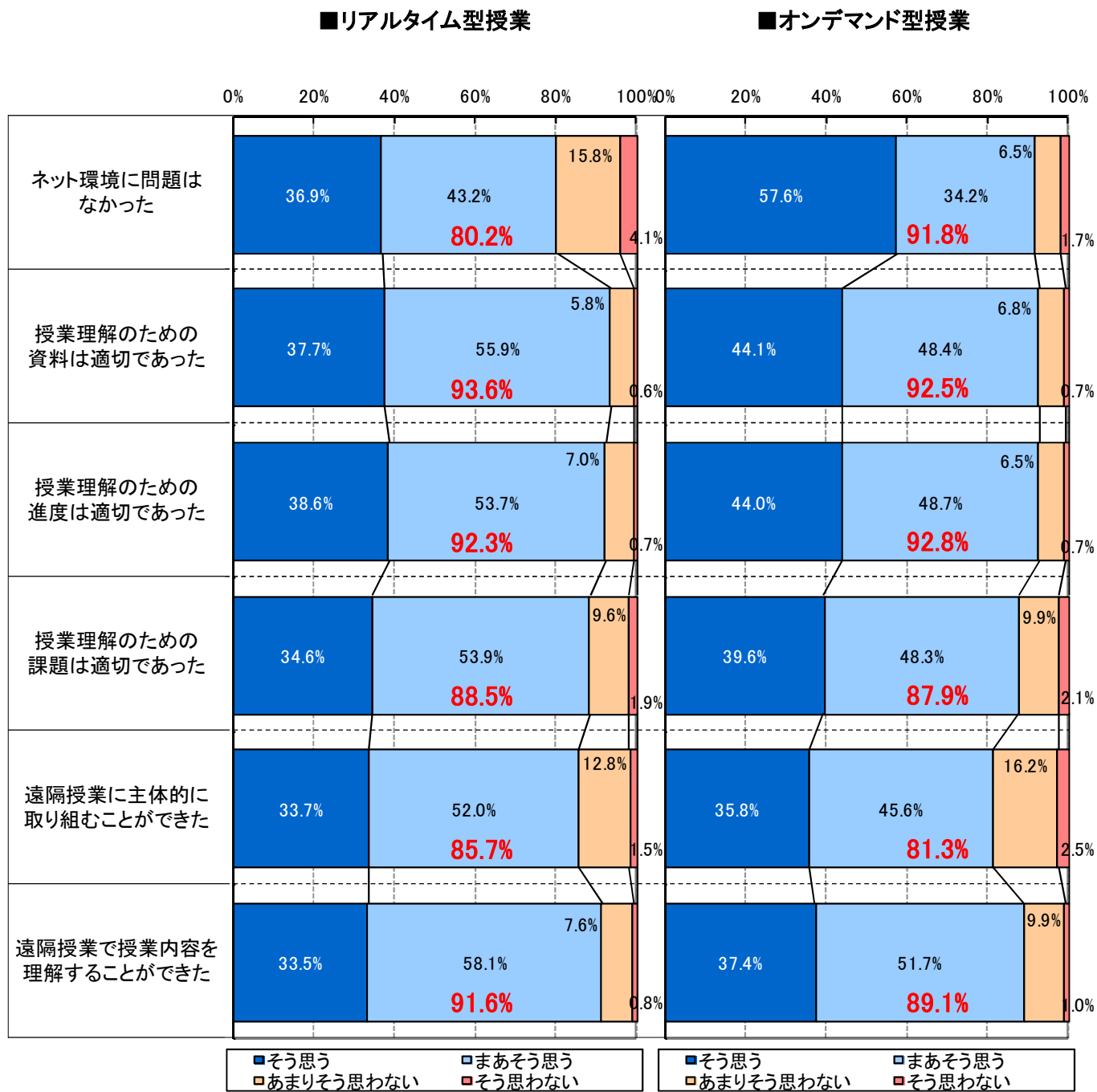
■eシラバスの評価 年度別比較

- eシラバスの評価は3つの指標で聞いているが、「理解に役立った」では94.2%が肯定的な意見であり、「復習」が93.9%、「予習」が89.8%で続いており、いずれも非常に高い評価となっていた。
- eシラバスの評価を聞くのは2回目であるが、3指標共に前回を上回っていた。
- 今回より、男女別比較、学年別比較、学科別比較のグラフは資料編に収めている。



■遠隔(オンライン)授業の進め方や内容の評価

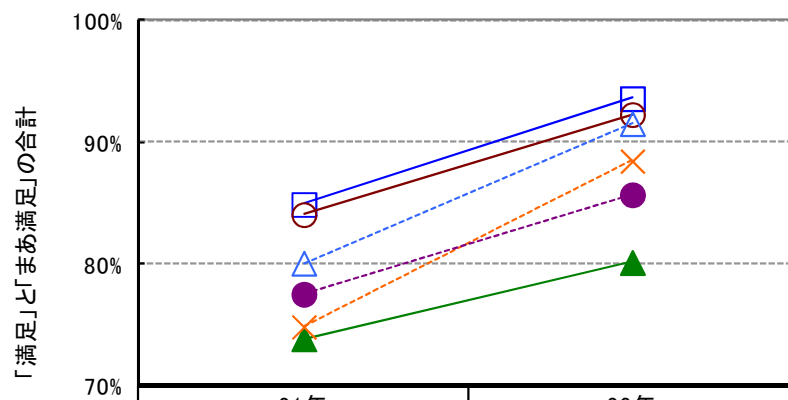
- 「リアルタイム型授業」の評価で肯定的な意見が最も多かったのは、「授業理解のための資料は適切であった」の93.6%であり、「授業理解のための進捗は適切であった」が92.3%、「遠隔授業で授業内容を理解することができた」が91.6%で続いていた。そして、「課題」なども含めて、遠隔授業の内容としてはいずれも高い評価であった。一方、肯定的な意見が最も少なかったのは「ネット環境に問題はなかった」の80.2%であり、約2割がリアルタイム型授業のネット環境に課題を感じたと答えていた。
- 「オンデマンド型授業」で肯定的な意見が最も多かったのは「授業理解のための進捗は適切であった」の92.8%であり、「授業理解のための資料は適切であった」が92.5%、「ネット環境に問題はなかった」が91.8%で続いていた。一方、最も少なかったのは「遠隔授業に主体的に取り組むことができた」の81.3%であり、約2割がオンデマンド型の遠隔授業に主体的に取り組めなかったと答えていた。
- 「リアルタイム型授業」と「オンデマンド型授業」の評価を比較すると、差が見られたのは「ネット環境」であり、「オンデマンド型では課題は少ないが、リアルタイム型で課題を感じる」という傾向が見られた。また、差は小さいが、「オンデマンド型で主体性がやや弱まる」という傾向が見られた。
- 今回より、男女別比較、学年別比較、学科別比較のグラフは資料編に収めている。



■遠隔(オンライン)授業の進め方や内容の評価 年度別比較

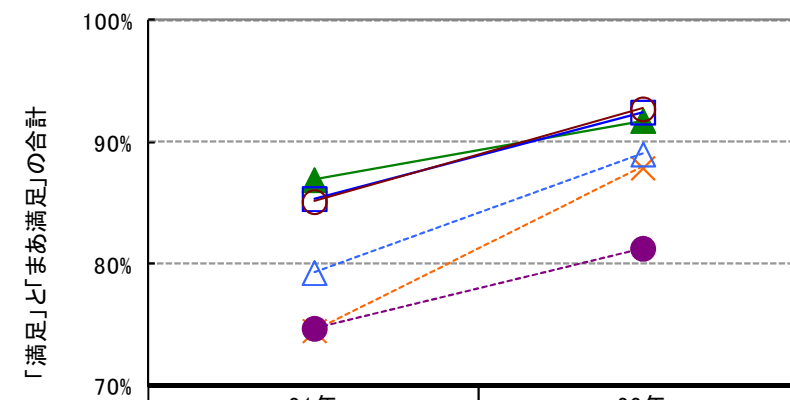
- 遠隔(オンライン)授業の進め方や内容の評価は2回目であるため、年度別比較を行った。
- 「リアルタイム型授業」「オンデマンド型授業」のすべての項目が前回の評価を上回っており、授業の質の向上が進んでいるようであった。

■リアルタイム型授業の評価 年度別比較



	21年	22年
▲ ネット環境に問題はなかった	73.9%	80.2%
□ 授業理解のための資料は適切であった	84.9%	93.6%
○ 授業理解のための進度は適切であった	84.1%	92.3%
× 授業理解のための課題は適切であった	74.9%	88.5%
● 遠隔授業に主体的に取り組むことができた	77.5%	85.7%
△ 遠隔授業で授業内容を理解することができた	80.1%	91.6%

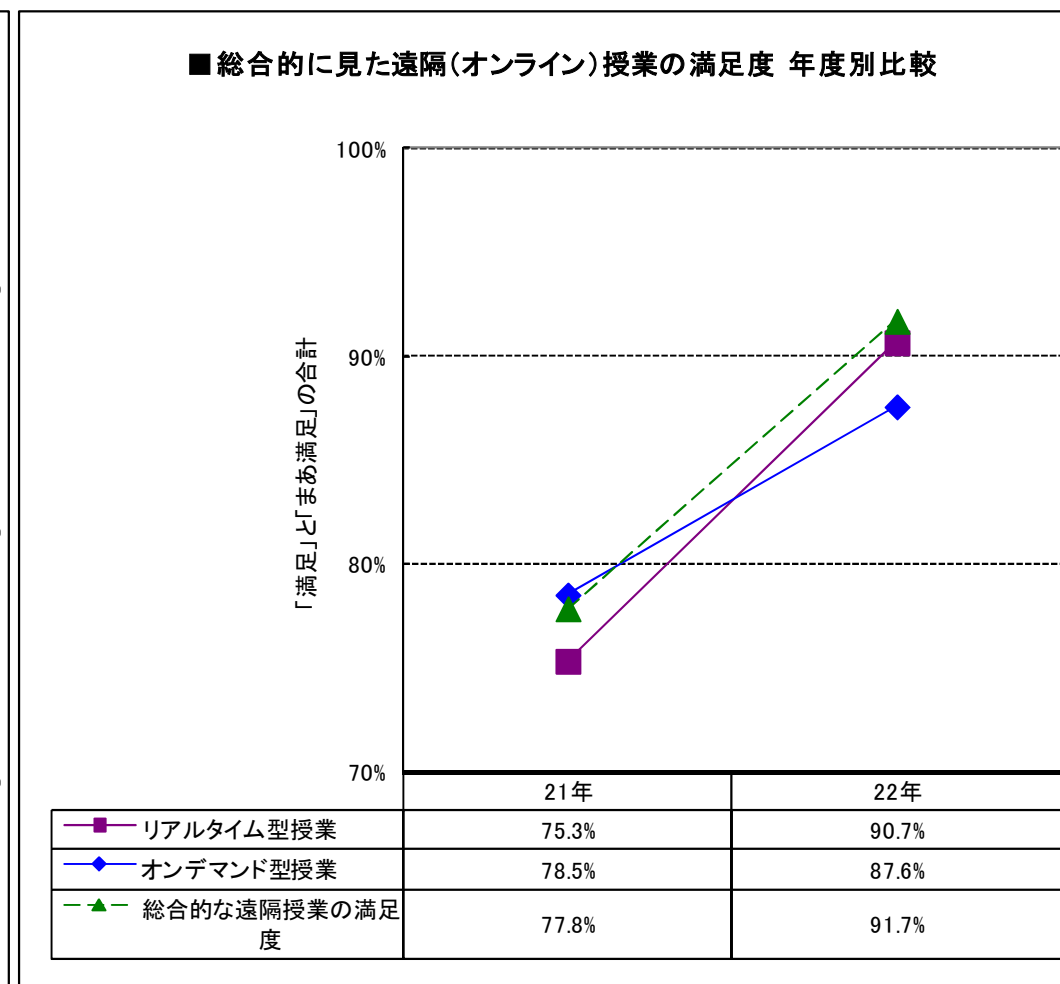
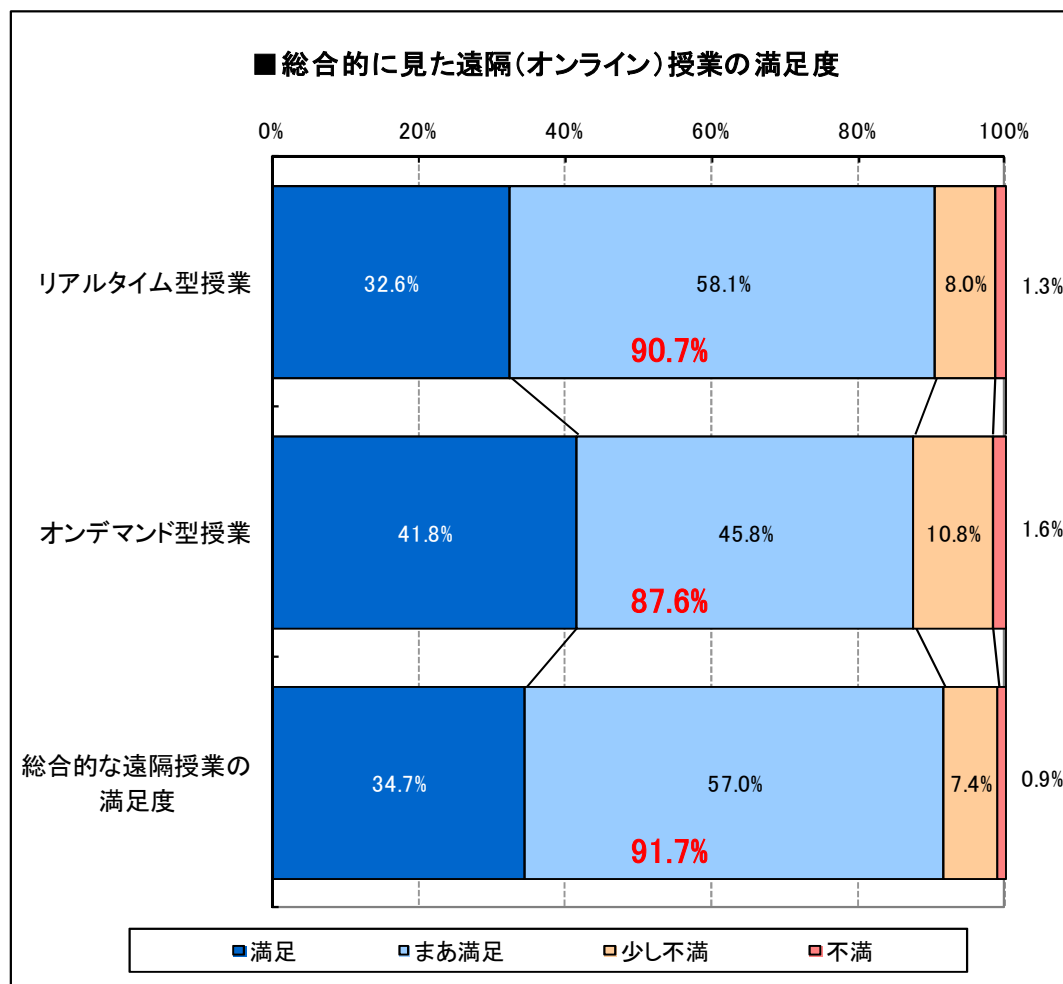
■オンデマンド型授業の評価 年度別比較



	21年	22年
▲ ネット環境に問題はなかった	87.0%	91.8%
□ 授業理解のための資料は適切であった	85.4%	92.5%
○ 授業理解のための進度は適切であった	85.2%	92.8%
× 授業理解のための課題は適切であった	74.6%	87.9%
● 遠隔授業に主体的に取り組むことができた	74.7%	81.3%
△ 遠隔授業で授業内容を理解することができた	79.3%	89.1%

■総合的に見た遠隔(オンライン)授業の満足度 年度別比較

- 「リアルタイム型授業」(Zoomなどを使用した授業)の満足度を見ると、「満足」が32.6%、「まあ満足」が58.1%であり、合わせると90.7%と大多数が満足と答えていた。一方、「教材配信型(オンデマンド型)授業」(Power Pointなどを使用した授業)では、「満足」が41.8%、「まあ満足」が45.8%で、合わせると87.6%が満足と答えており、「リアルタイム型授業」の方がわずかに満足度が高かった。ただし、「満足」だけを見ると「オンデマンド型授業」の方が多く、強く満足している様子が見えかけた。
- 「総合的な遠隔授業の満足度」では、「満足」が34.7%、「まあ満足」が57.0%であり、遠隔授業全体に対しては91.7%が満足していた。
- 遠隔授業の満足度を聞くのは2回目であるが、いずれも前回の満足度を大きく上回っており、「総合的な遠隔授業の満足度」は13.9ポイントと、大幅に向上していた。
- 今回より、男女別比較、学年別比較、学科別比較のグラフは資料編に収めている。

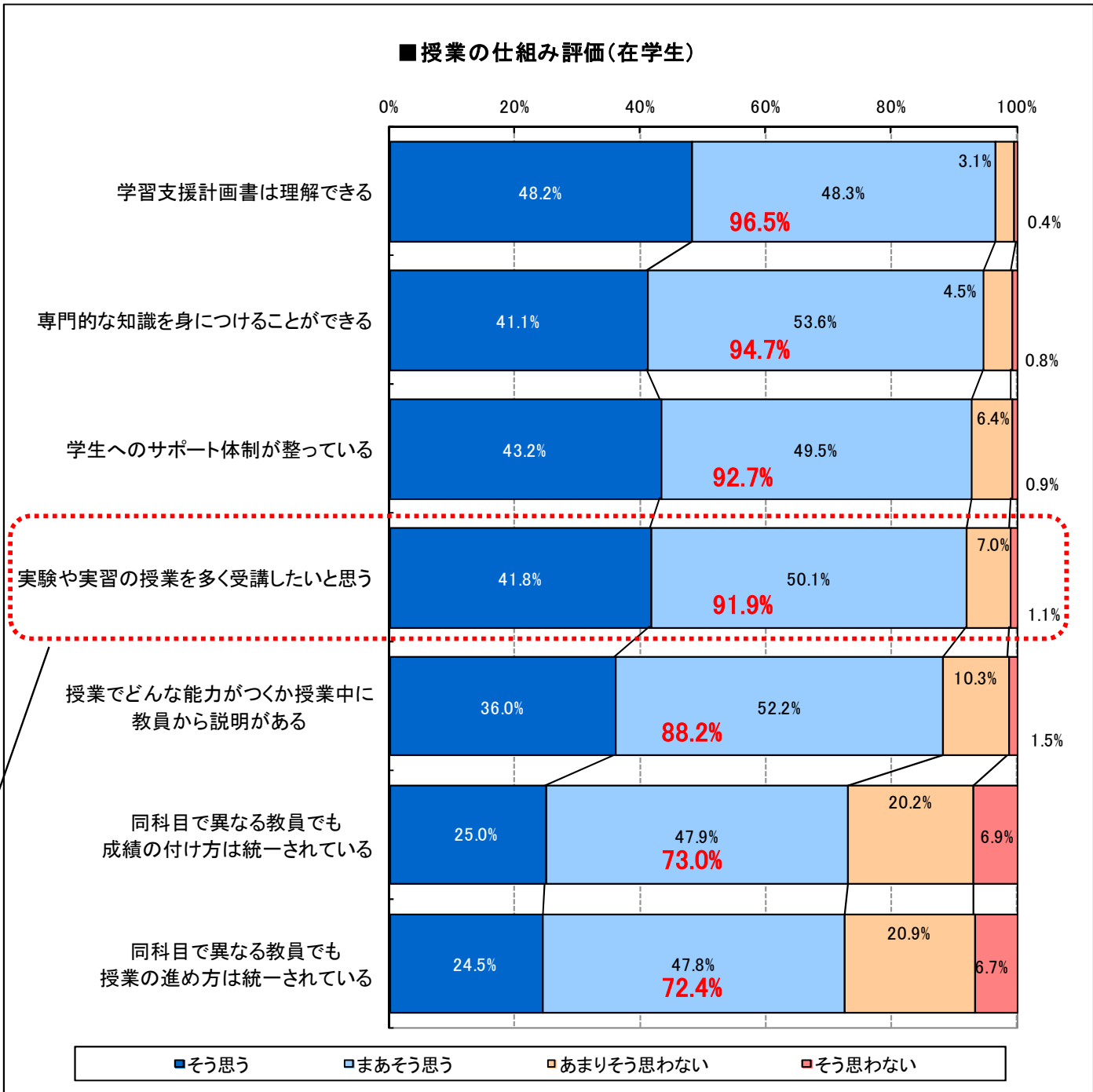


<3-3> 授業の仕組み評価

■ 授業の仕組み評価

- 授業の仕組みの評価には、現状の評価を聞く6つの質問と、要望を聞く1つの質問が混在している。
- 現状の評価を聞く質問で肯定的な意見が最も多かったのは「学習支援計画書は理解できる」の96.5%であり、「専門的な知識を身につけることができる」が94.7%、「学生へのサポート体制が整っている」が92.7%で続いており、この3項目は「そう思う」が4割を超えるなど、非常に高い評価となっていた。
- 一方、最も評価が低かったのは「同科目で異なる教員でも授業の進め方は統一されている」の72.4%であった。似た内容である「同科目で異なる教員でも成績の付け方は統一されている」は73.0%であり、「同科目で異なる教員の対応」に対する不満の大きさが感じられた。
- 要望を聞く質問は「実験や実習の授業を多く受講したいと思うか？」であるが、91.9%が肯定的な回答であり、強い要望が感じられた。

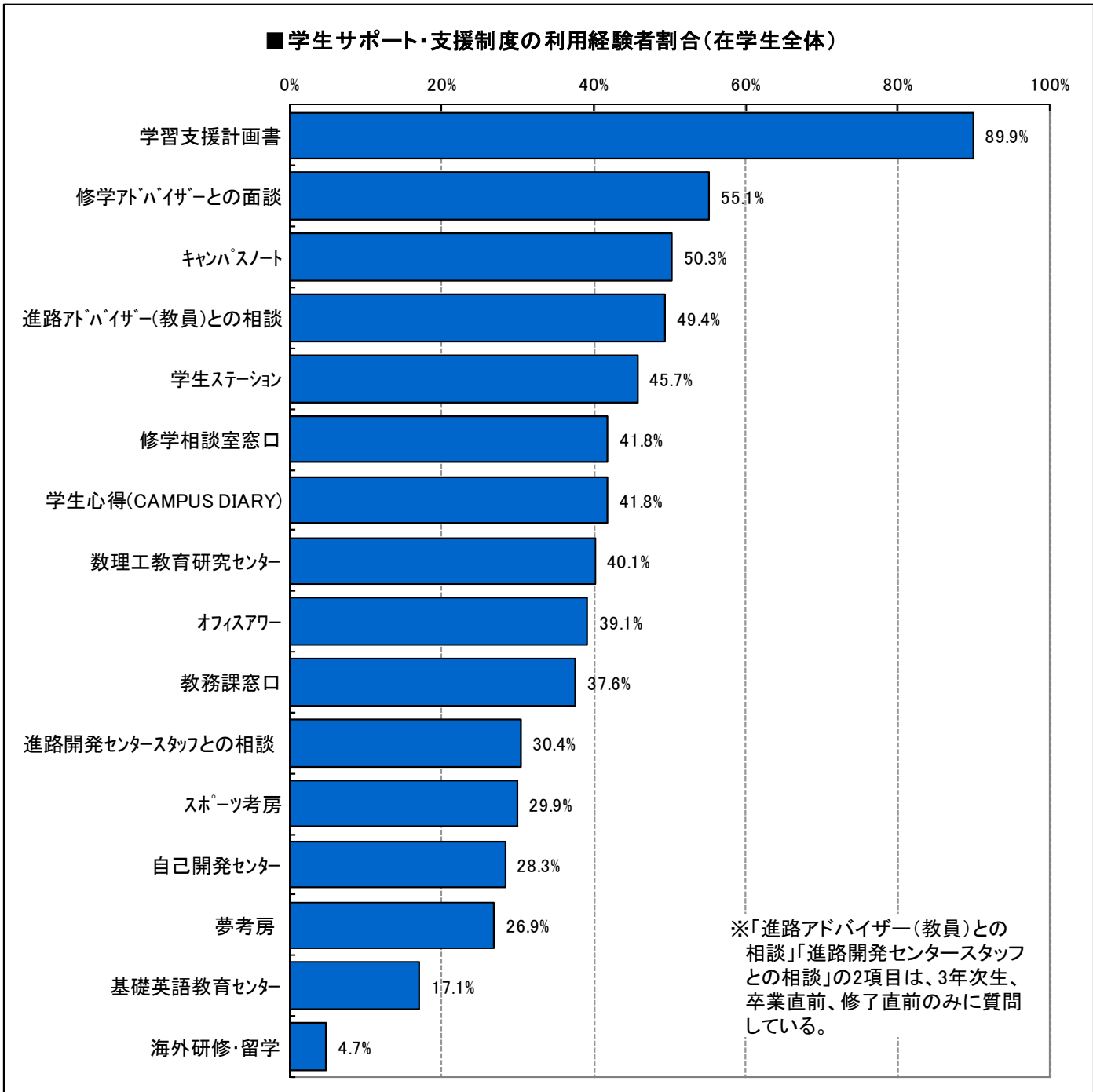
要望を聞く質問



<4-1> 学生サポート・支援制度の利用状況

■ 学生サポート・支援制度の利用経験者割合

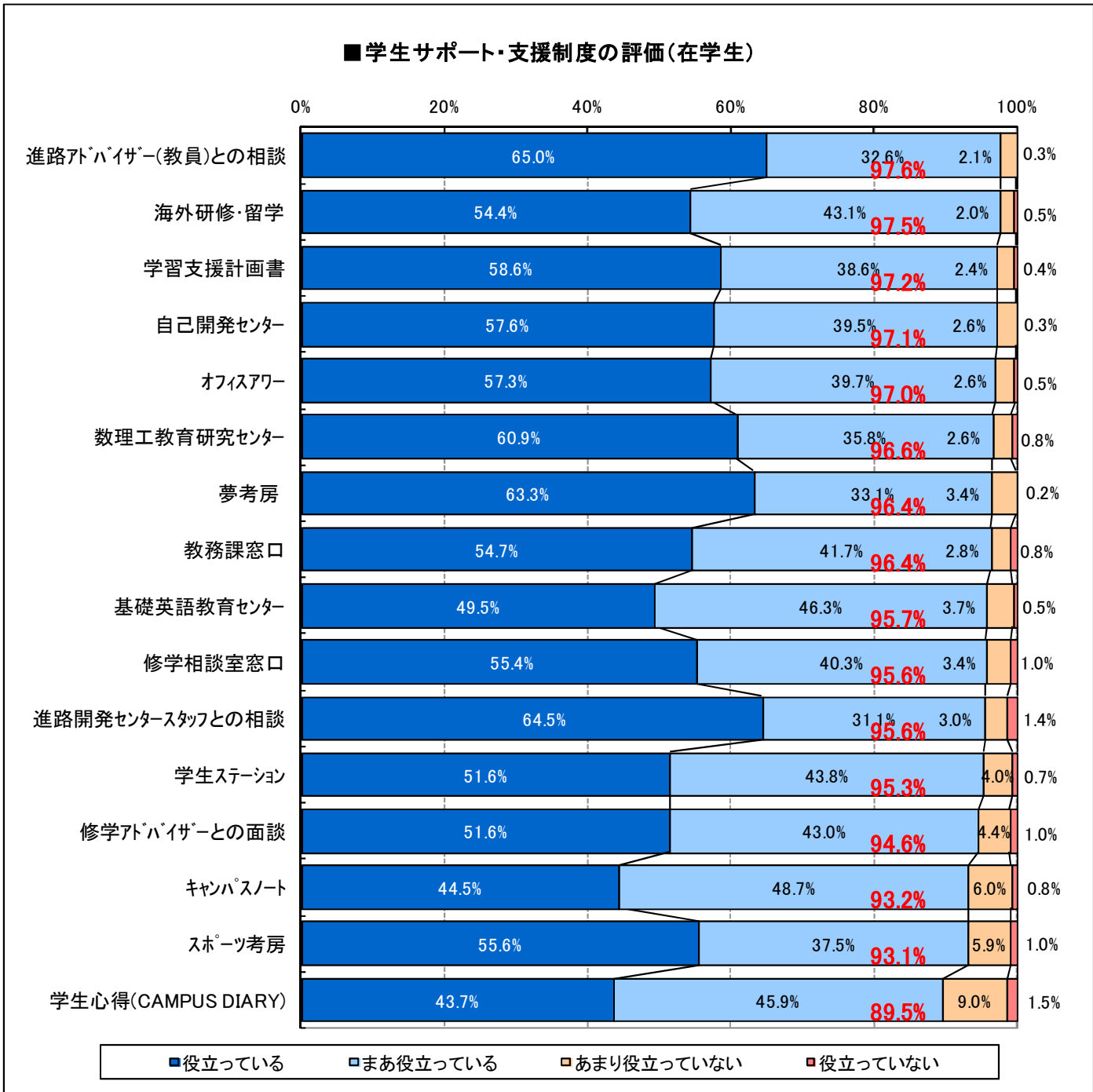
- 学生サポート・支援制度で利用経験者が最も多かったのは「学習支援計画書」の89.9%であり、他の項目と比べて多さが目立っていた。
- 上記に次いで、「修学アドバイザーとの面談」が55.1%、「キャンパスノート」が50.3%、「進路アドバイザー(教員)との相談」が49.4%、「学生ステーション」が45.7%と続いていた。
- 一方、利用経験者が最も少なかったのは「海外研修・留学」の4.7%であり、こちらも他の項目と比べて少なさが目立っていた。



<4-2> 学生サポート・支援制度の評価

■ 学生サポート・支援制度の評価

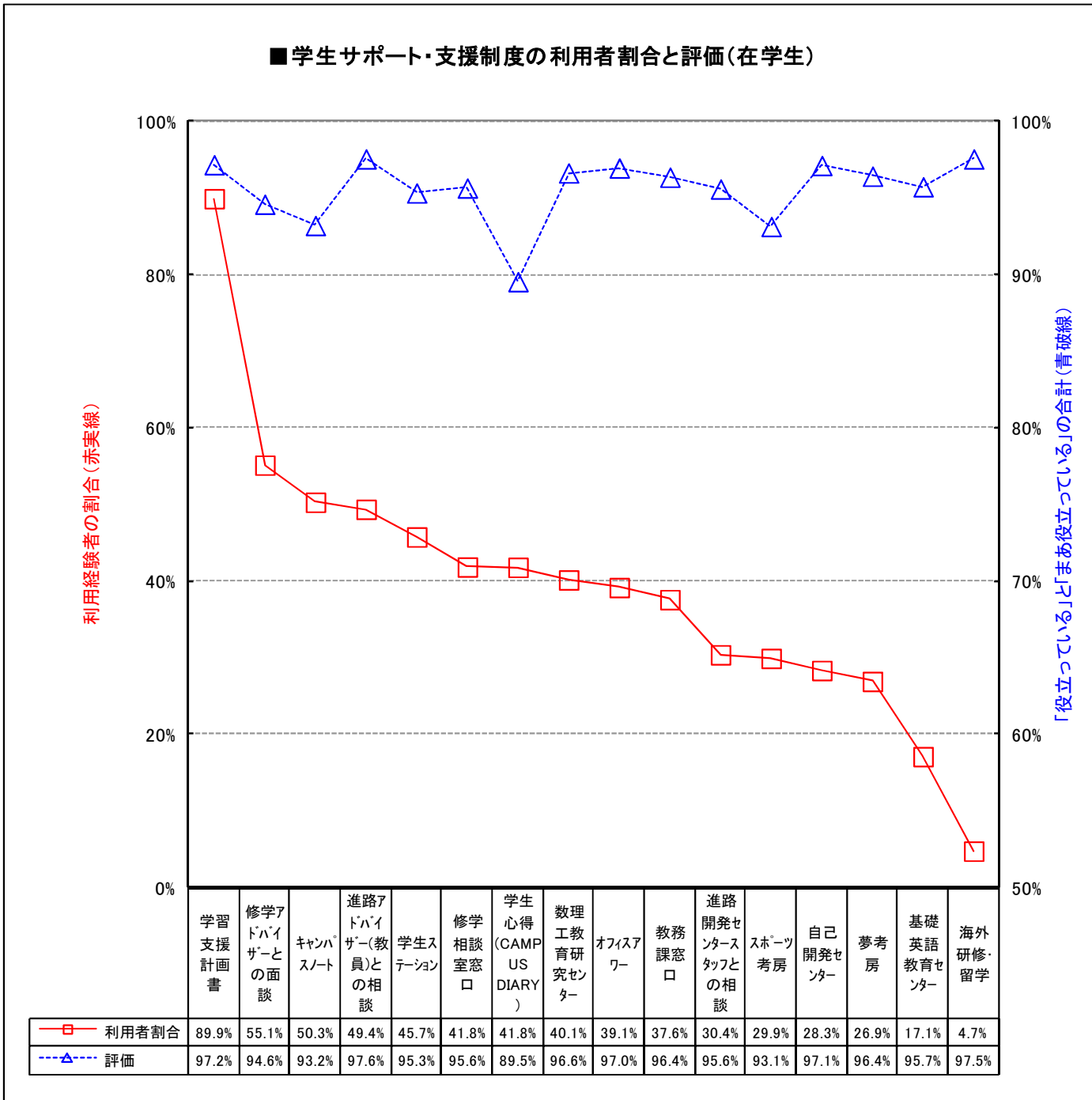
- 「学生サポート・支援制度」を「利用している」と答えた学生に、各々のサポート・支援策の評価を聞いたところ、いずれも非常に高い評価となっていた。
- 最も評価が高かったのは、「進路アドバイザー(教員)との相談」の97.6%であり、「海外研修・留学」が97.5%、「学習支援計画書」が97.2%、「自己開発センター」が97.1%、「オフィスアワー」が97.0%と続いており、いずれもほとんどが肯定的な意見であった。
- 最も評価が低かったのは「学生心得(CAMPUS DIARY)」の89.5%であったが、これもほぼ9割が肯定的な意見であり、非常に高い評価と言える。



<4-3> 学生サポート・支援制度の利用者割合と評価

■ 学生サポート・支援制度の利用者割合と評価の比較

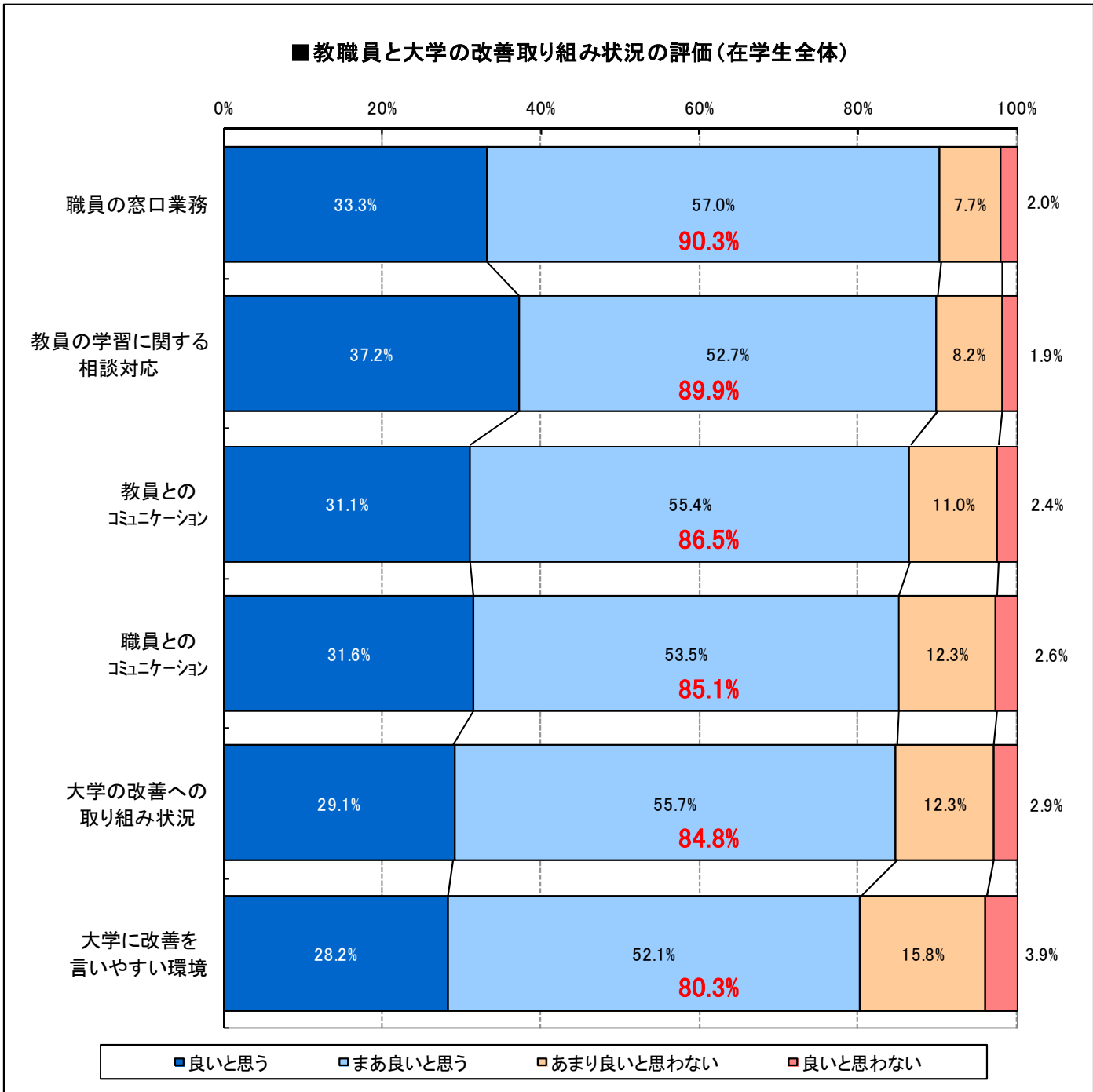
- 学生サポート・支援制度の利用経験者の割合と内容評価を1つのグラフにまとめて、関係性を見ている。赤い実線は利用経験者の割合で、グラフの左側の数値軸に対応しており、青い破線は「役立っている」と「まあ役立っている」の合計で、右の数値軸に対応している。
- 利用経験者の割合を見ると、「学習支援計画書」の89.9%の多さと、「海外研修・留学」の4.7%の少なさが突出していた。
- 一方、評価を見ると、「学生心得(CAMPUS DIARY)」の肯定的な意見が9割をわずかに下回るものの、全体的に非常に高い評価であり、大きな課題は見当たらなかった。



<4-4>教職員と大学の改善取り組み状況の評価

■教職員と大学の改善取り組み状況の評価

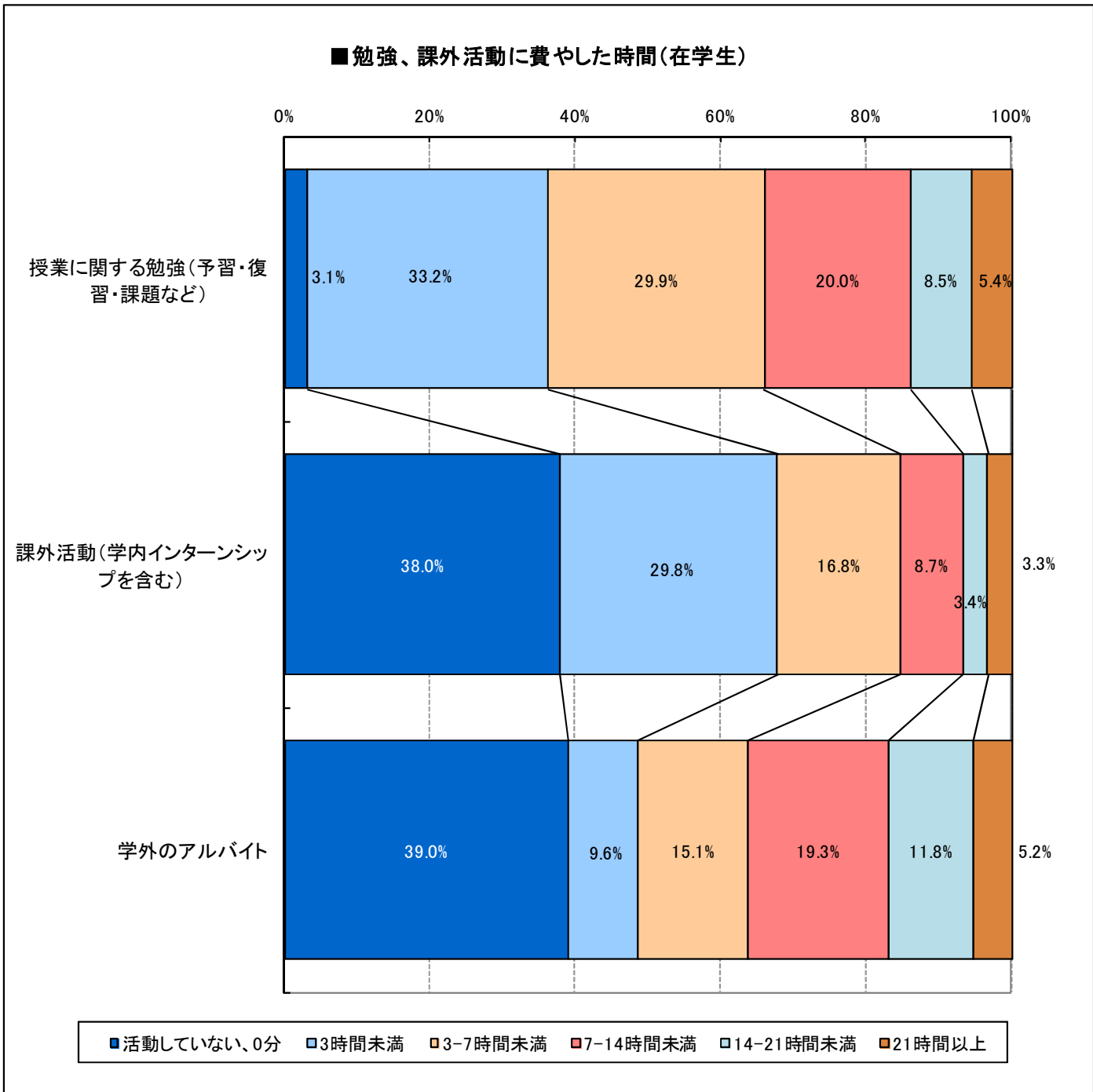
- 教職員と大学の改善取り組み状況の評価で肯定的な意見が最も多かったのは「職員の窓口業務」の90.3%であり、「教員の学習に関する相談対応」が89.9%、「教員とのコミュニケーション」が86.5%で続いていた。内訳を見ると「教員の学習に関する相談対応」で「良いと思う」が37.2%と多さが目立っていた。
- 一方、肯定的な意見が最も少なかったのは「大学に改善を言いやすい環境」の80.3%であった。他の項目と比べるとやや低さが目立っていたが、評価としては決して低いものではなかった。



<4-5> 勉強、課外活動に費やした時間

■ 勉強、課外活動に費やした時間

- 勉強、課外活動に費やした時間は、「普段の1週間の生活の中で費やした時間(1週間の合計)はどの程度でしょうか?」という質問文で、3つの分野に関して聞いている。
- 「授業に関する勉強(予習・復習・課題など)」では、「活動していない、0分」が3.1%、「3時間未満」が33.2%、「3-7時間未満」が29.9%であった。そして、「7-14時間未満」が20.0%、「14-21時間未満」が8.5%、「21時間以上」が5.4%であり、「1日に1時間以上(1週間に7時間以上)」の合計は33.9%であった。
- 「課外活動(学内インターンシップを含む)」では、「活動していない、0分」が38.0%と非常に多く、「3時間未満」が29.8%、「3-7時間未満」が16.8%であり、それ以降の「1日に1時間以上」の合計は15.4%であった。
- 「学外のアパート」でも「活動していない、0分」が39.0%と非常に多かった。そして、「3時間未満」が9.6%、「3-7時間未満」が15.1%であり、「1日に1時間以上」の合計は36.3%であった。
- ここまでを見ると、約4割が「課外活動(学内インターンシップを含む)」と「学外のアパート」に参加しておらず、3割以上が「学外のアパート」と「授業に関する勉強」に「1日に1時間以上」を費やしていた。

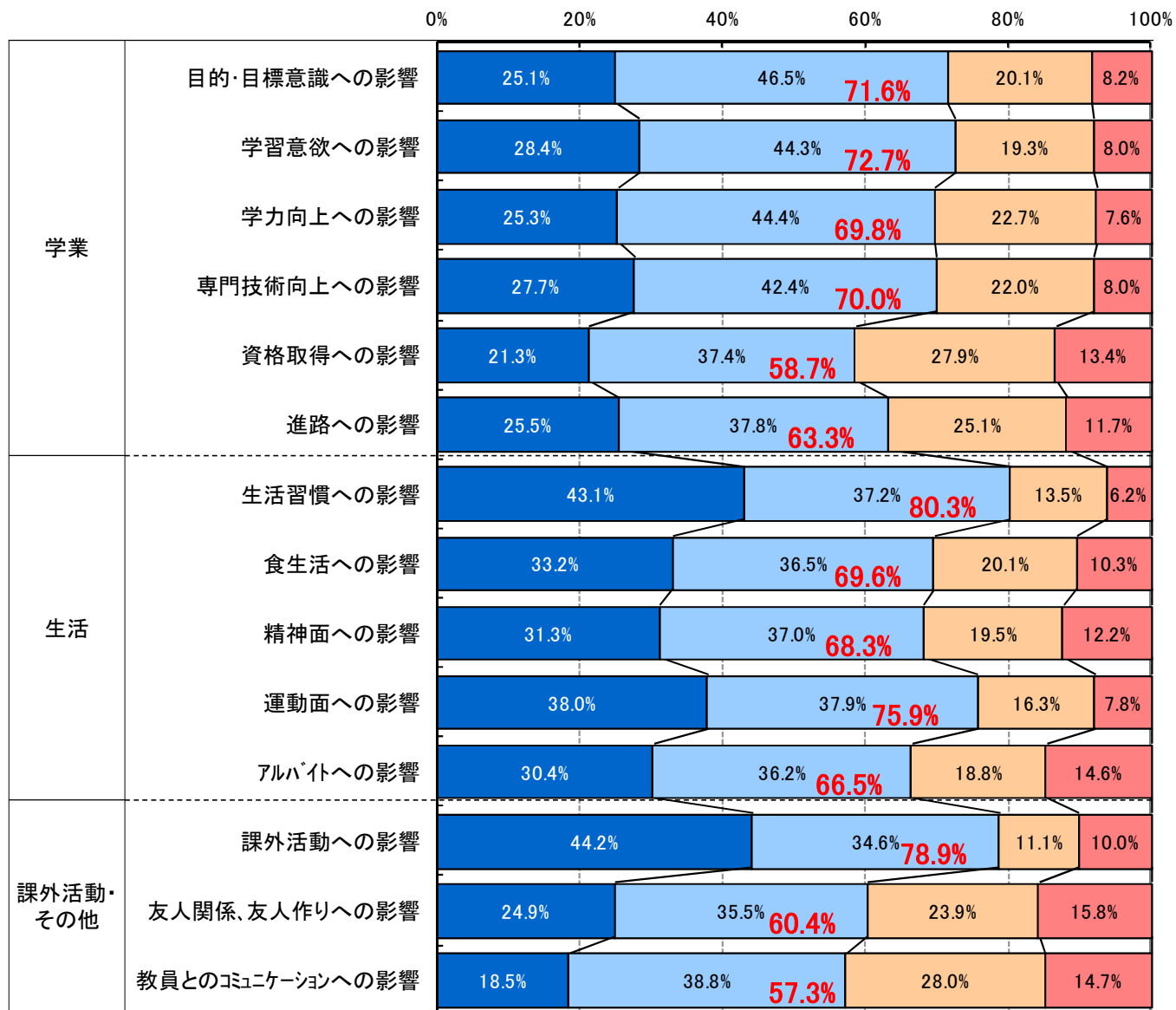


<4-6> 学生生活へのコロナ禍の影響

■ 学生生活へのコロナ禍の影響

- 学生生活へのコロナ禍の影響は、「学業」「生活」「課外活動・その他」の各分野に関して、「影響があった」～「影響はなかった」の4択で聞いている。
- 「学業」の中で「影響があった」と「やや影響があった」の合計が最も多かったのは「学習意欲への影響」であり、72.7%が影響があったと答えていた。そして、「目的・目標意識への影響」が71.6%、「専門技術向上への影響」が70.0%、「学力向上への影響」が69.8%であり、ここまでの4項目は似た傾向となっていた。そして、影響が最も少なかったのは「資格取得への影響」の58.7%であった。
- 「生活」の中で影響が大きかったのは「生活習慣への影響」の80.3%、「運動面への影響」の75.9%であり、いずれも「影響があった」が多い点が特徴的であった。そして、「食生活」「精神面」「アルバイト」への影響があったという回答は7割弱であり、似た傾向となっていた。
- 「課外活動・その他」の中では「課外活動への影響」が78.9%であり、「影響があった」の44.2%は全項目で最も多かった。
- 3つの分野を通して見ると、影響が大きかったのは「生活習慣」「課外活動」「運動面」などであり、影響が少なかったのは「教員とのコミュニケーション」「資格取得」「友人関係、友人作り」などであった。

■ 学生生活へのコロナ禍の影響

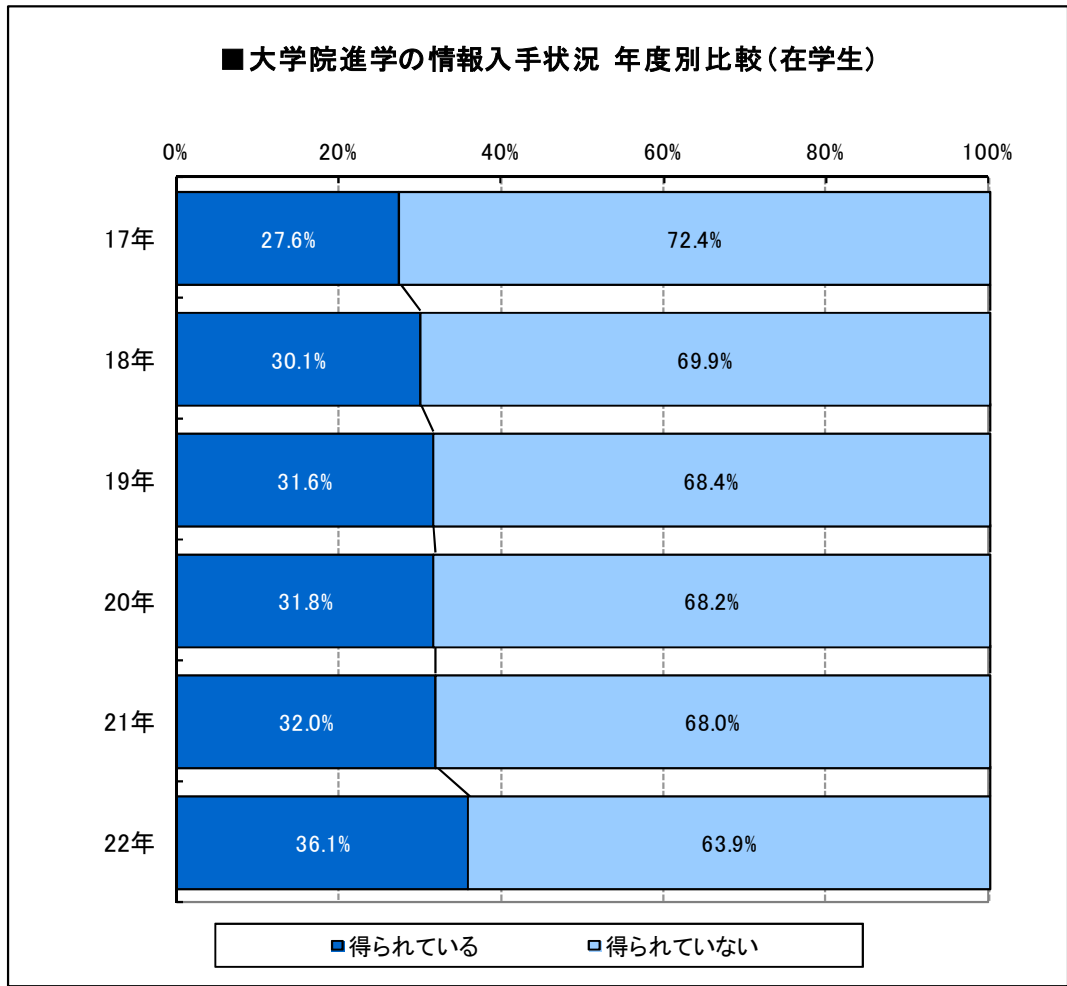
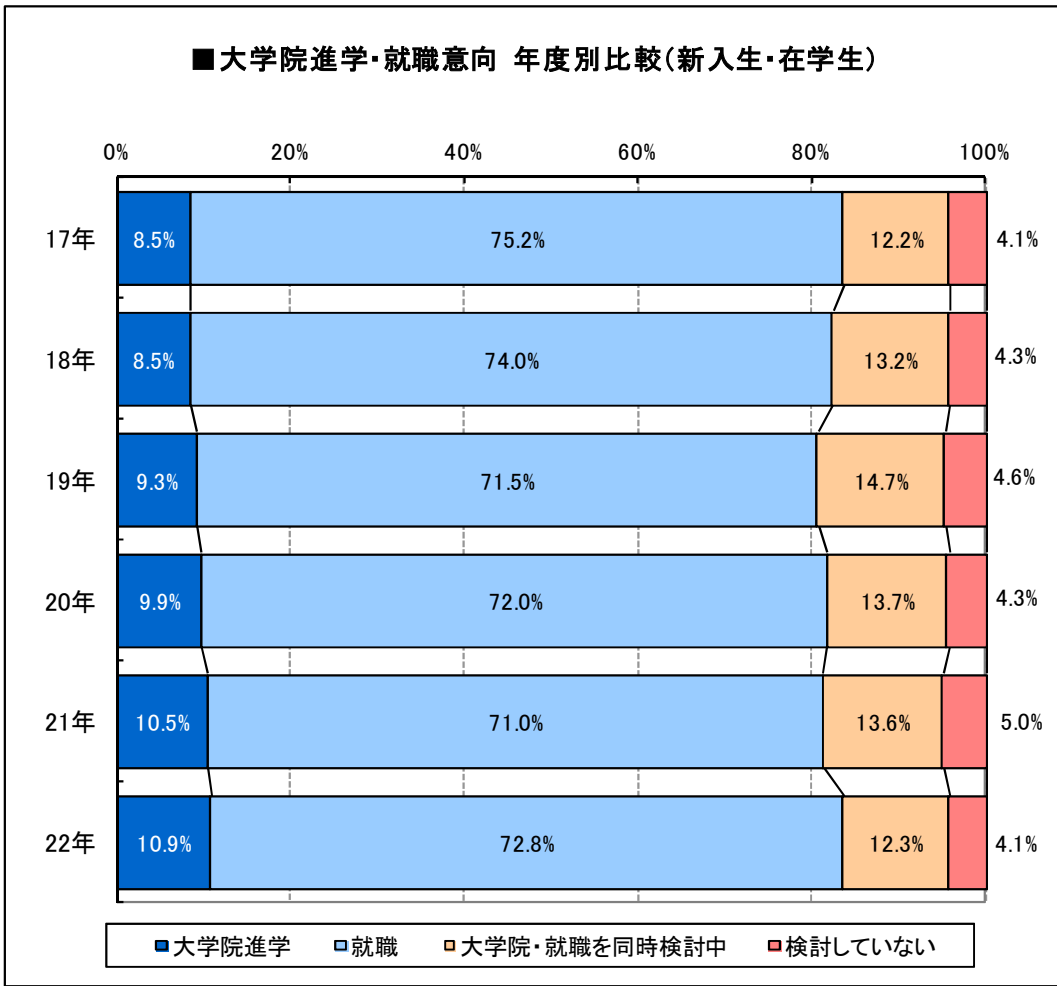


■ 影響があった □ やや影響があった □ あまり影響はなかった □ 影響はなかった

<5-1> 大学院への進学・就職意向、情報の入手状況

■ 大学院進学・就職意向、情報の入手状況

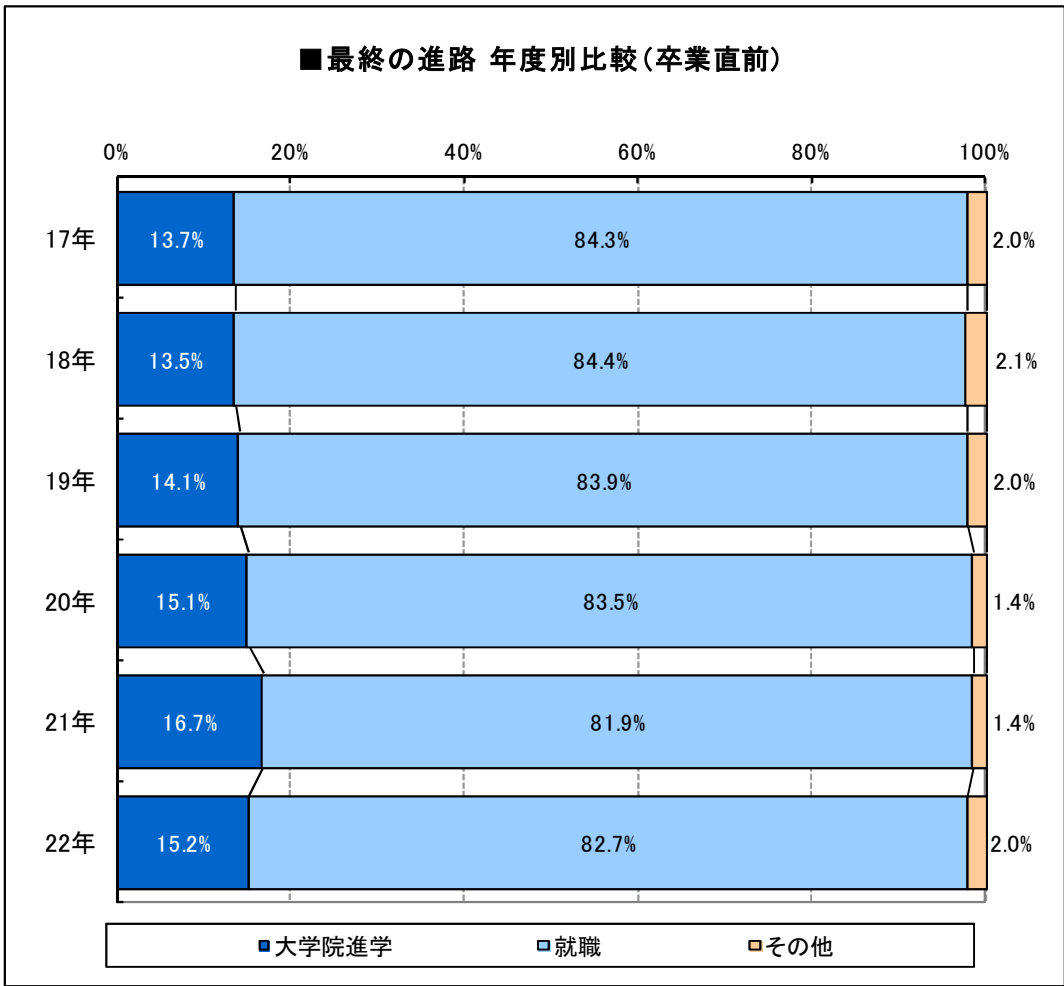
- 今回の「大学院進学・就職意向」を見ると、「就職」が72.8%、「大学院・就職を同時検討中」が12.3%、「大学院進学」が10.9%、「検討していない」が4.1%であり、年度別には大きな変化はないものの、「大学院進学」の増加傾向と、「大学院・就職を同時検討中」の減少傾向が続いていた。
- 「大学院進学の情報は何処から得られていますか？」という質問に対しては、「得られている」が36.1%、「得られていない」が63.9%であった。21年までは「得られている」の微増傾向が続いていたが、今回は4.1ポイントとやや大きな増加となっていた。



<5-2> 最終の進路

■最終の進路

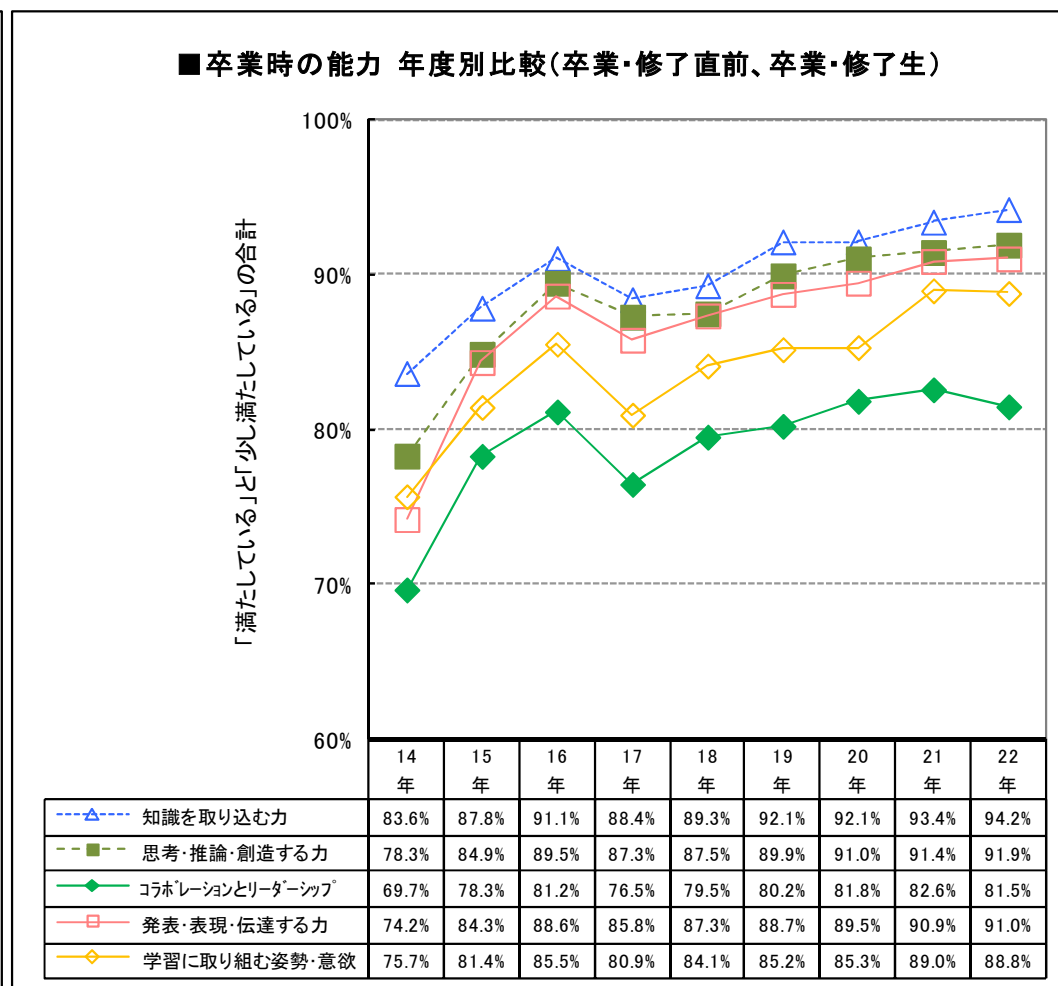
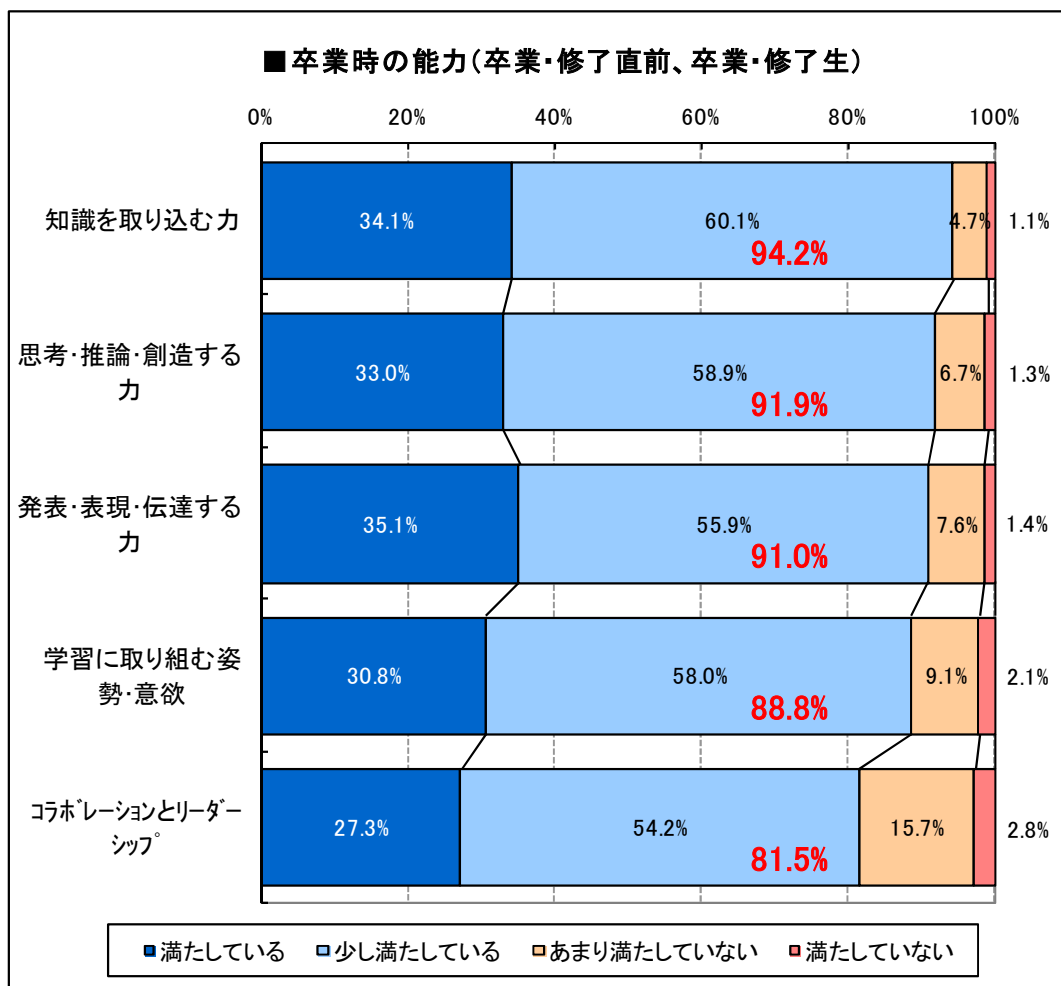
● 「卒業直前」の学生だけに「最終の進路」を聞いているが、最も多かったのは「就職」の82.7%であり、「大学院進学」が15.2%、「その他」が2.0%となっていた。「大学院進学」は18年から増加傾向が続いていたが、今回は1.5ポイントの減少となっていた。



<5-3>卒業時の能力

■卒業時の能力 年度別比較

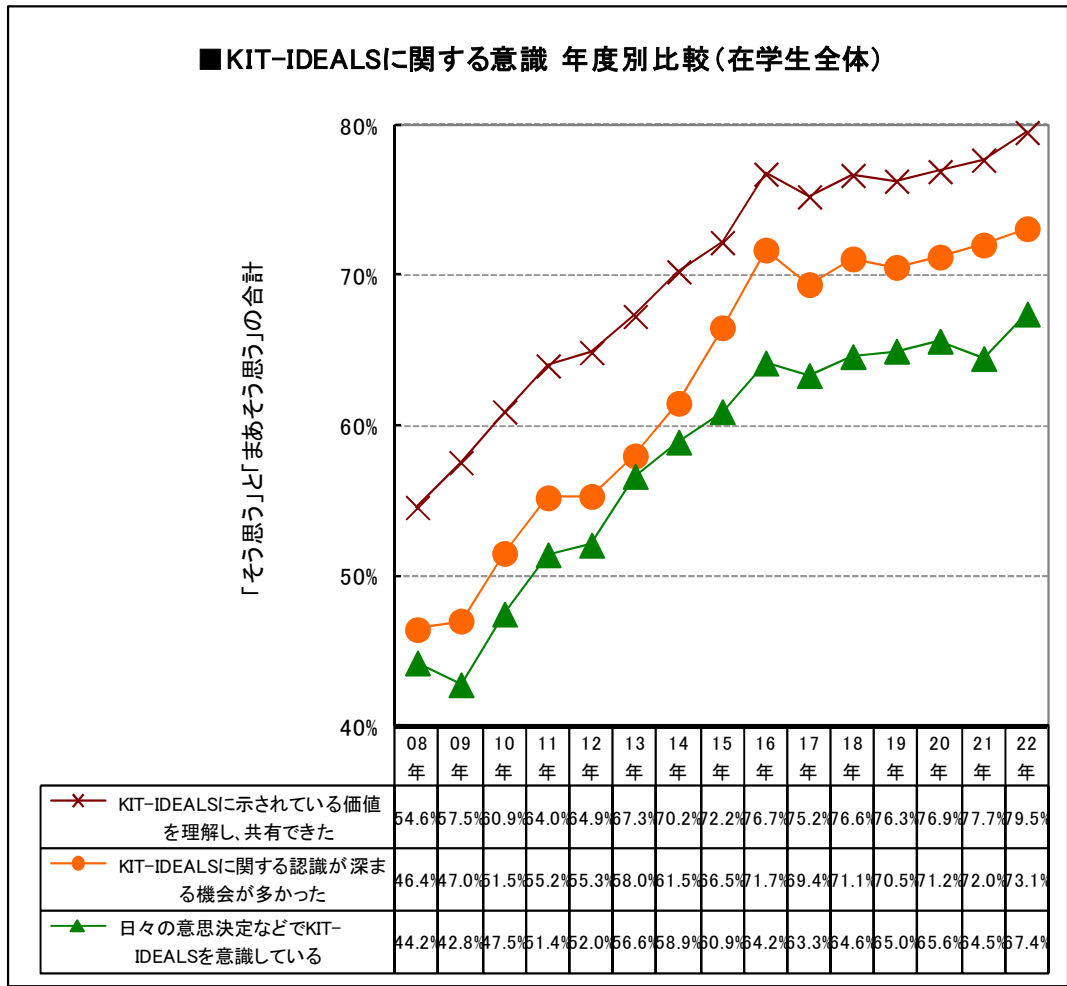
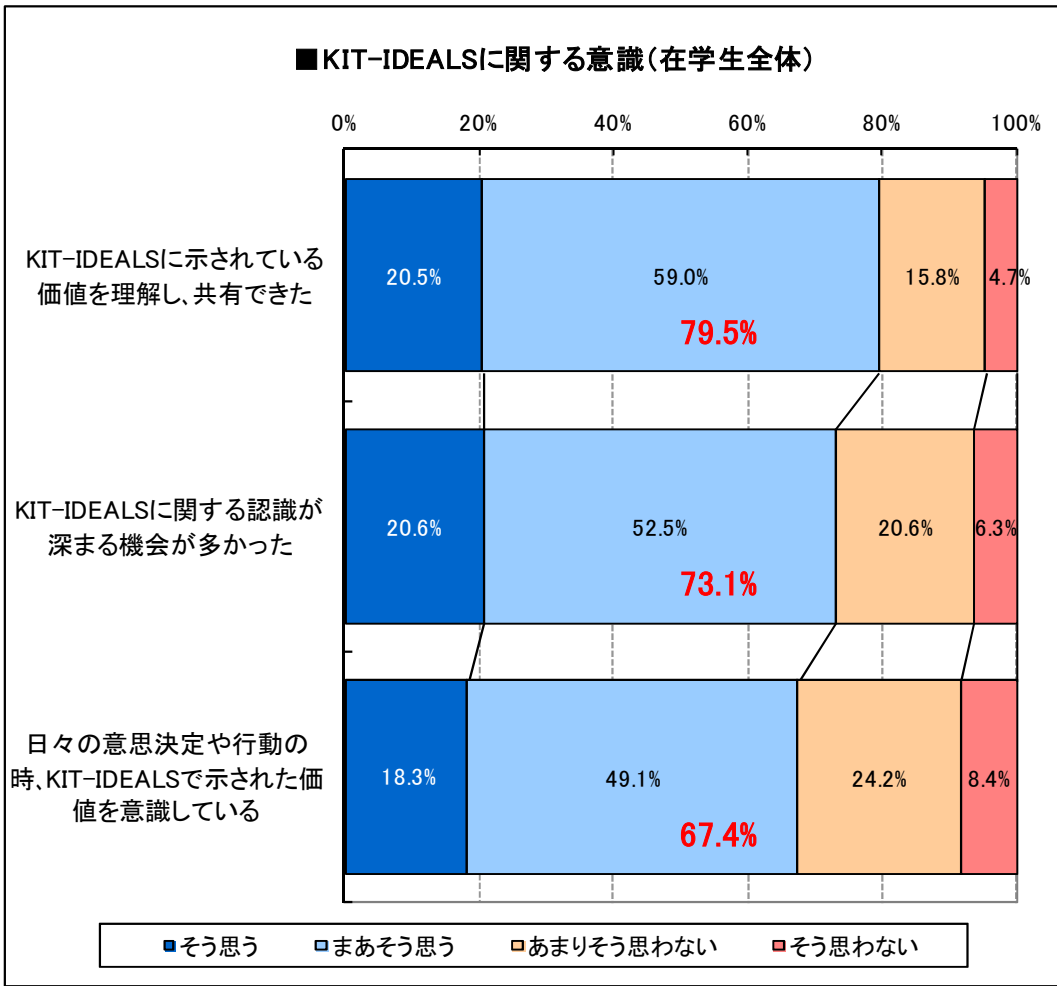
- 「卒業時の能力」は「卒業・修了直前」「卒業・修了生」に対して自己評価を聞いているが、肯定的な意見が最も多かったのは、「知識を取り込む力」の94.2%であり、「思考・推論・創造する力」が91.9%、「発表・表現・伝達する力」が91.0%で続いていた。そして、最も少なかったのは「コラボレーションとリーダーシップ」の81.5%であり、約2割が満たしていないという回答であった。
- 年度別比較を見ると、全体的に2017年からわずかに向上する傾向が続いていたが、今回は「コラボレーションとリーダーシップ」と「学習に取り組む姿勢・意欲」が前回は下回っていた。そして、それ以外は継続的な増加が続いていた。



<6-1> KIT-IDEALSに関する意識

■KIT-IDEALSに関する意識、年度別比較

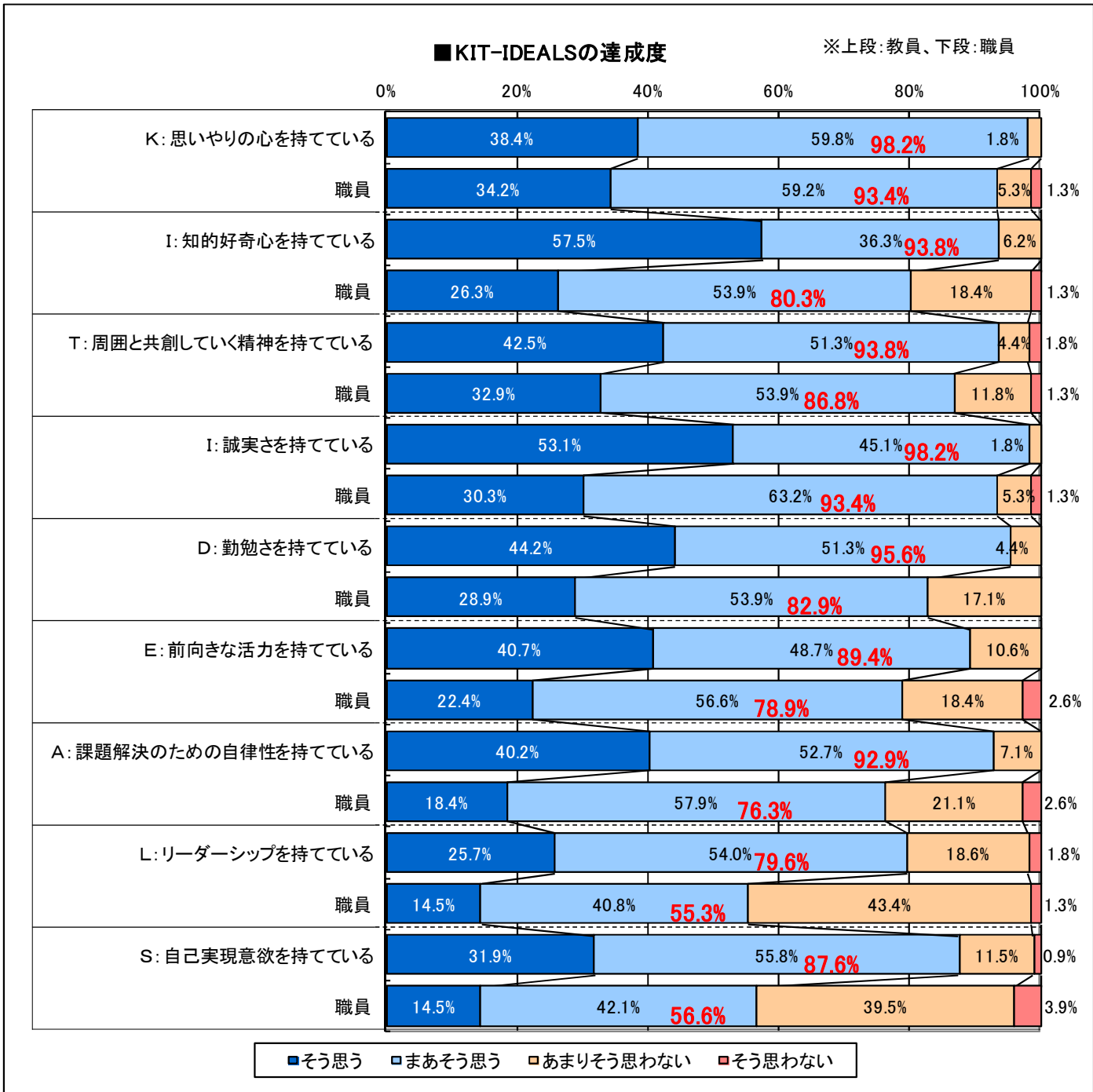
- 在学生のKIT-IDEALSに関する質問で肯定的な意見が最も多かったのは、「KIT-IDEALSに示されている価値を理解し、共有できた」の79.5%であった。次いで、「KIT-IDEALSに関する認識が深まる機会が多かった」が73.1%、「日々の意思決定や行動の時、KIT-IDEALSで示された価値を意識している」が67.4%で続いていた。
- 年度別の比較を見ると、3項目共に前年を上回っていずれも過去最高となっていた。「KIT-IDEALSに関する認識が深まる機会が多かった」では、調査開示時の08年と比較すると26.7ポイントと大幅な向上となっており、それにもなって他の指標も向上しているものと思われる。



<6-2>教職員のKIT-IDEALSの達成度

■教職員のKIT-IDEALSの達成度

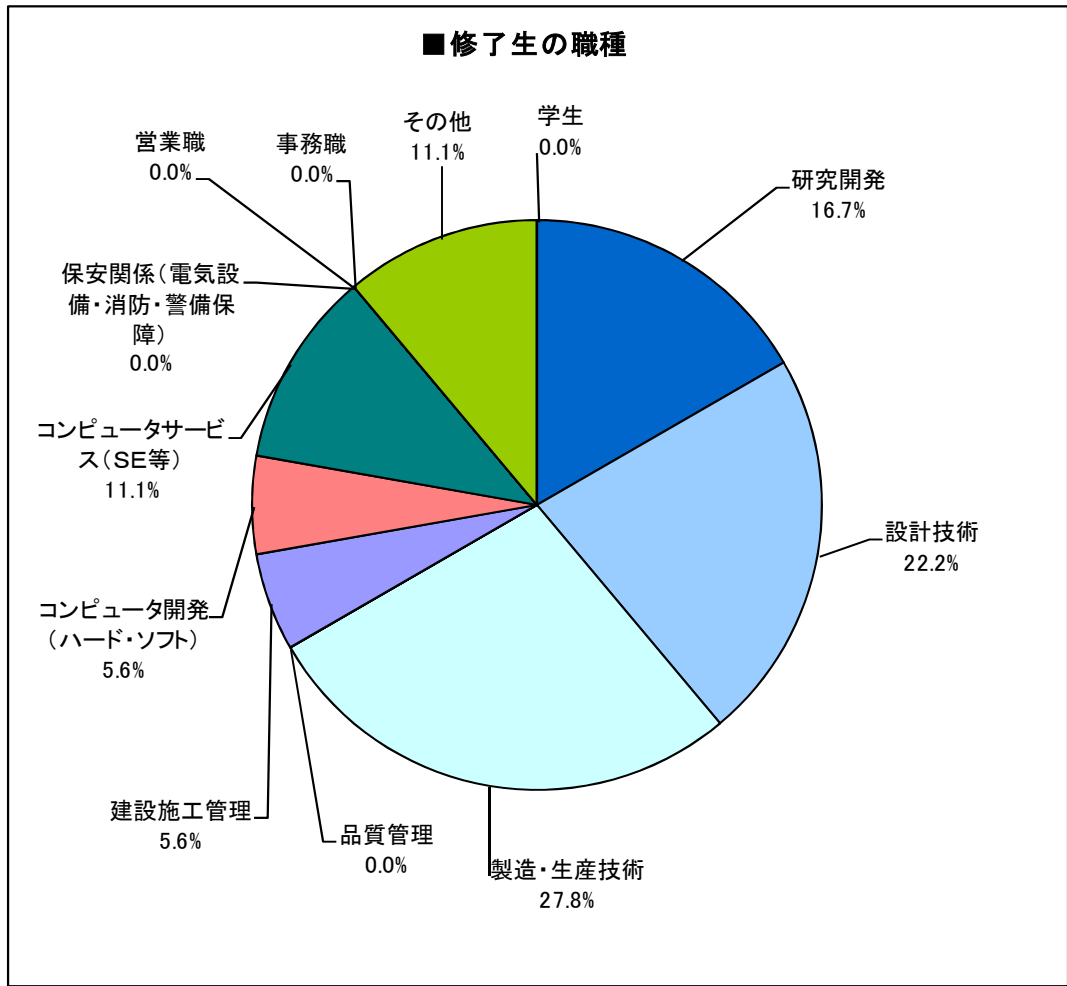
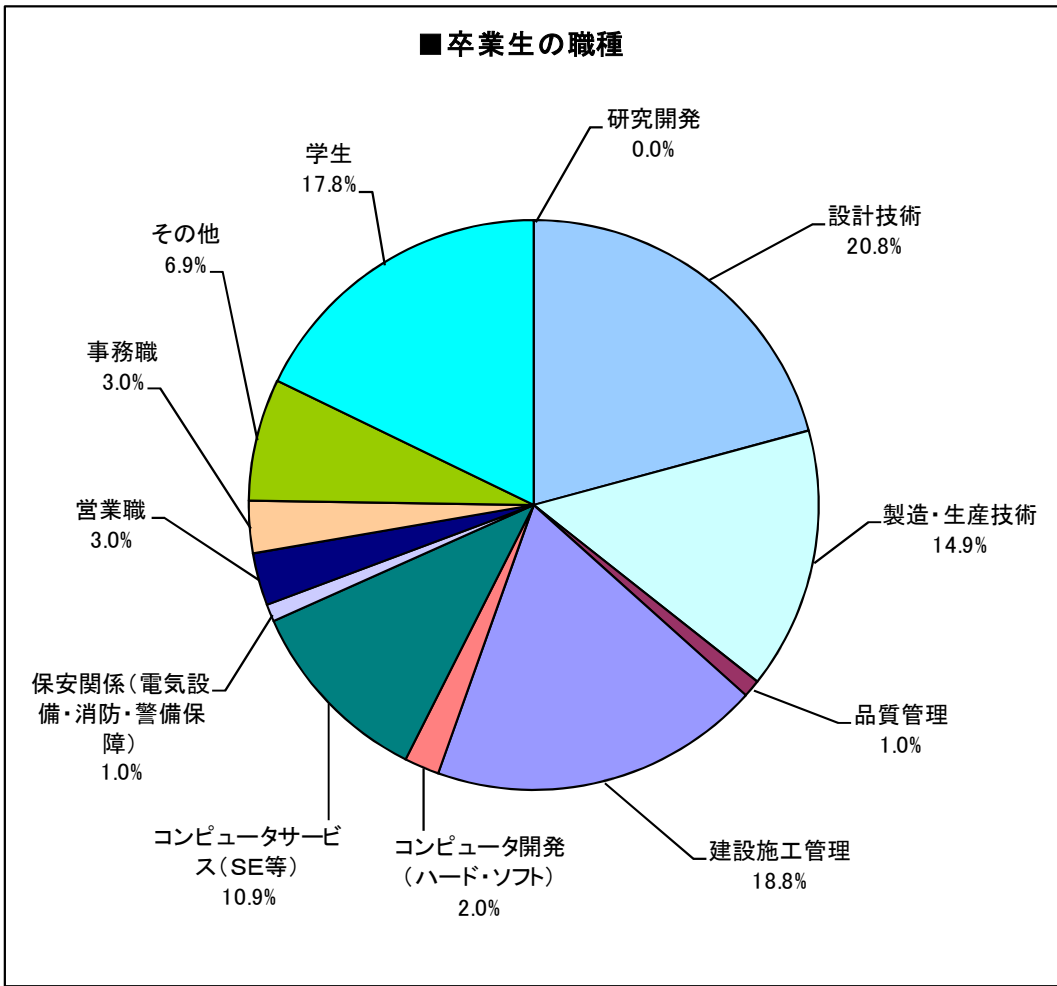
- 教職員にはKIT-IDEALSに関して9項目の質問をしており、学生と比較できる項目はない。
- 全体的な傾向を見ると、肯定的な意見の合計はすべての項目で「教員」の方が多く、達成度が高くなっていた。
- 「教員」で達成度が最も高かったのは、「K:思いやりの心を持っている」と「I:誠実さを持っている」の98.2%であり、「D:勤勉さを持っている」が95.6%、「I:知的好奇心を持っている」と「T:周囲と共創していく精神を持っている」が93.8%で続いていた。ただし、「そう思う」だけを見ると「I:知的好奇心を持っている」の57.5%、「I:誠実さを持っている」の53.1%が目立っていた。一方、最も低かったのは「L:リーダーシップを持っている」の79.6%であり、「教員」の回答の中では低さが目立っていた。
- 「職員」はすべて「教員」を下回っていたが、「K:思いやりの心を持っている」と「I:誠実さを持っている」はいずれも93.4%であり、「教員」と変わらない達成度となっていた。一方、「職員」では達成度が非常に低いものがあり、「L:リーダーシップを持っている」は55.3%、「S:自己実現意欲を持っている」は56.6%と、「教員」とは大きな差がついていた。



<7-1>卒業・修了生の基本属性

■現在の職種

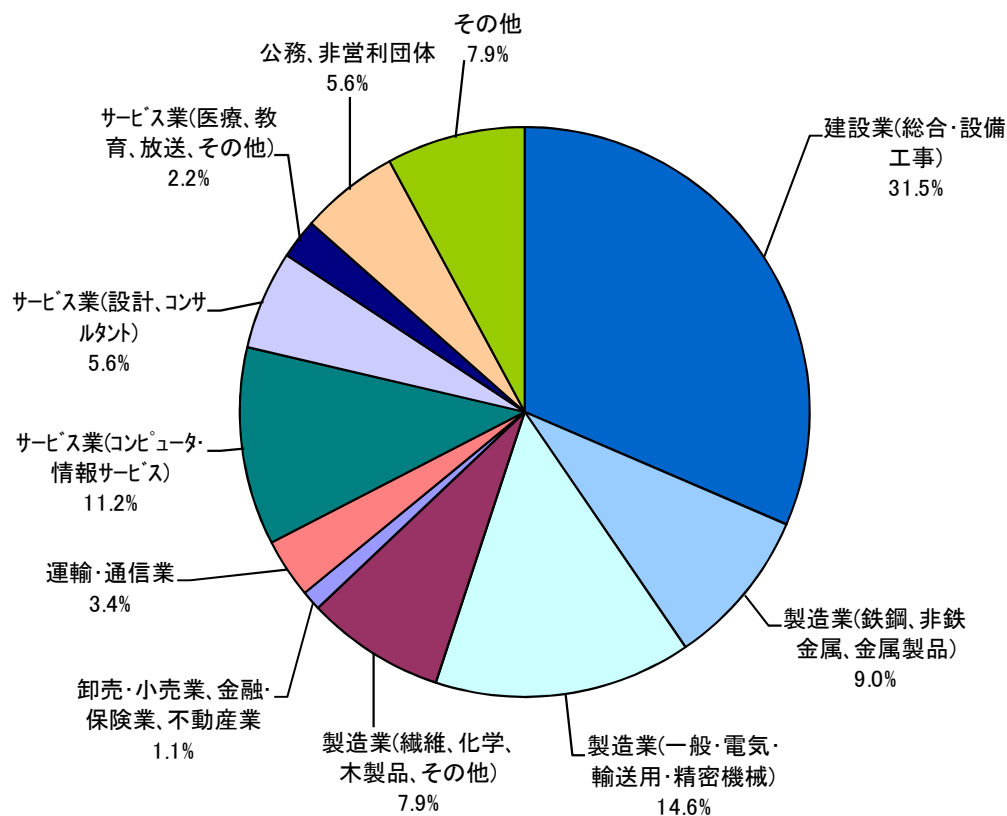
- 卒業生の職種では「設計技術」が20.8%で最も多く、次いで、「建設施工管理」が18.8%、「学生」が17.8%、「製造・生産技術」が14.9%、「コンピュータサービス(SE等)」が10.9%と続いていた。
- 修了生の職種では「製造・生産技術」が27.8%で最も多く、次いで、「設計技術」が22.2%、「研究開発」が16.7%、「コンピュータサービス(SE等)」と「その他」が11.1%と続いていた。



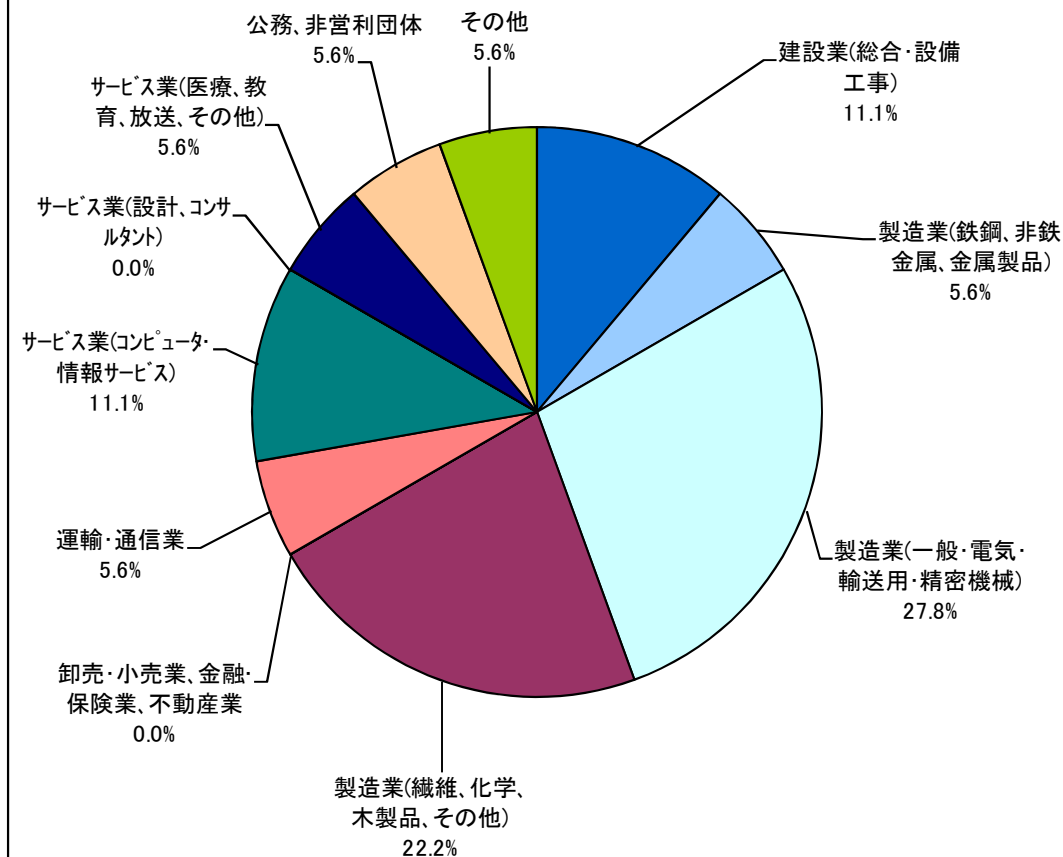
■現在の会社の業種

- 卒業生の会社の業種では「建設業(総合・設備工事)」が31.5%で1/3程度を占めており、次いで「製造業(一般・電気・輸送用・精密機械)」が14.6%、「サービス業(コンピュータ・情報サービス)」が11.2%、「製造業(鉄鋼、非鉄金属、金属製品)」が9.0%と続いていた。
- 修了生では「製造業(一般・電気・輸送用・精密機械)」が27.8%で最も多く、次いで、「製造業(繊維、化学、木製品、その他)」が22.2%、「建設業(総合・設備工事)」と「サービス業(コンピュータ・情報サービス)」が11.0%と続いていた。

■卒業生の会社の業種



■修了生の会社の業種

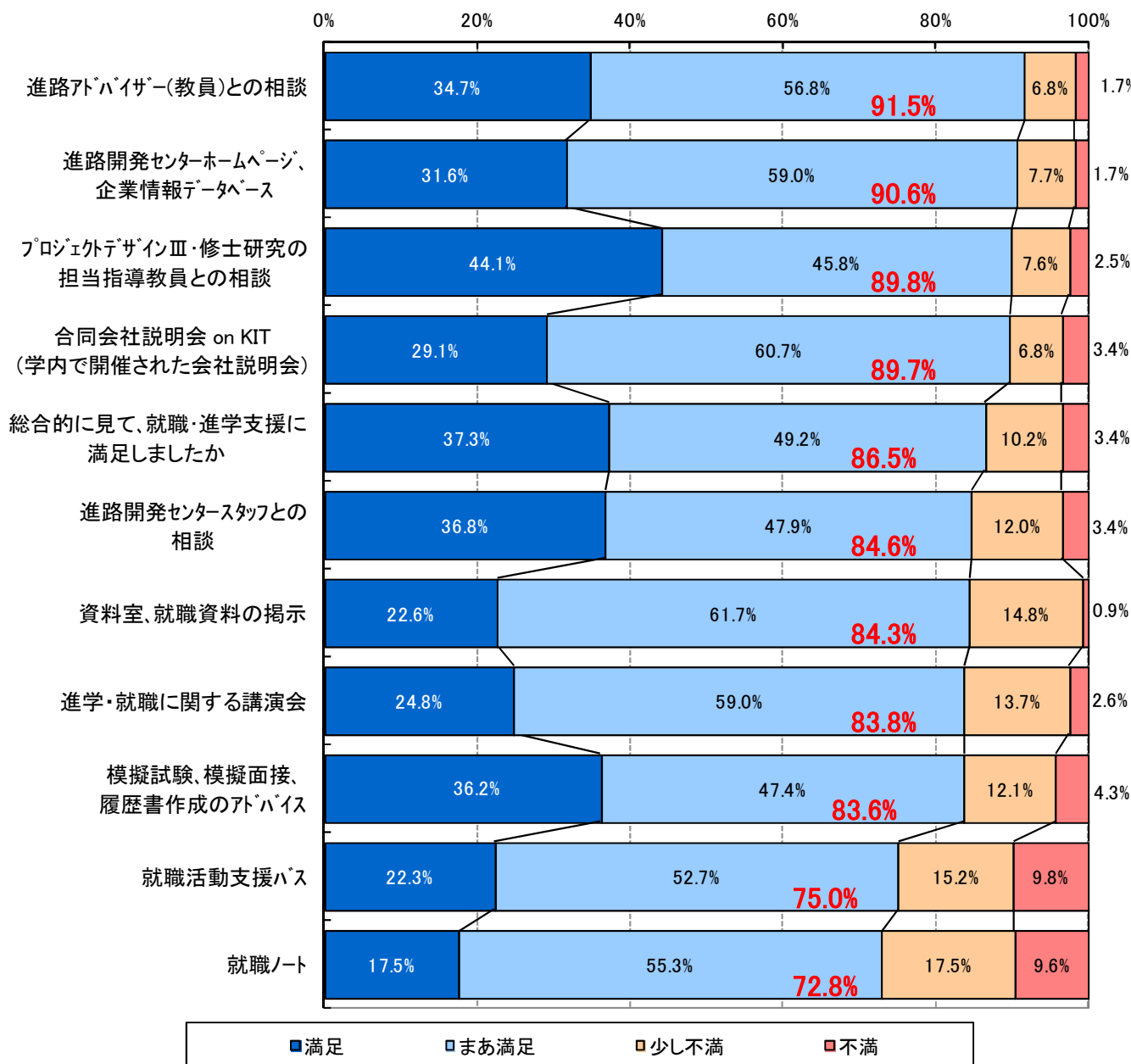


<7-2>就職・進学支援の評価

■就職・進学支援の評価

- 「卒業・修了生」には就職・進学支援の評価を聞いているが、まず、「総合的に見て、就職・進学支援に満足しましたか」を見ると、「満足」が37.3%、「まあ満足」が49.2%であり、合わせると満足度は86.5%で、十分に高いものであった。
- 上記以外の就職・進学支援策の評価を見ると、最も満足度が高かったのは「進路アドバイザー(教員)との相談」の91.5%であり、次いで、「進路開発センターホームページ、企業情報データベース」が90.6%、「プロジェクトデザインⅢ・修士研究の担当指導教員との相談」が89.8%、「合同会社説明会 on KIT (学内で開催された会社説明会)」が89.7%で続いていた。ただし、「満足」だけを見ると「プロジェクトデザインⅢ・修士研究の担当指導教員との相談」が最も多く、強く満足している学生が多い様子が見えられた。
- 一方、最も満足度が低かったのは「就職ノート」の72.8%であり、「就職活動支援バス」の75.0%と共に低さが目立っていた。ただし、いずれも7割以上は満足と答えており、決して低いものではなかった。

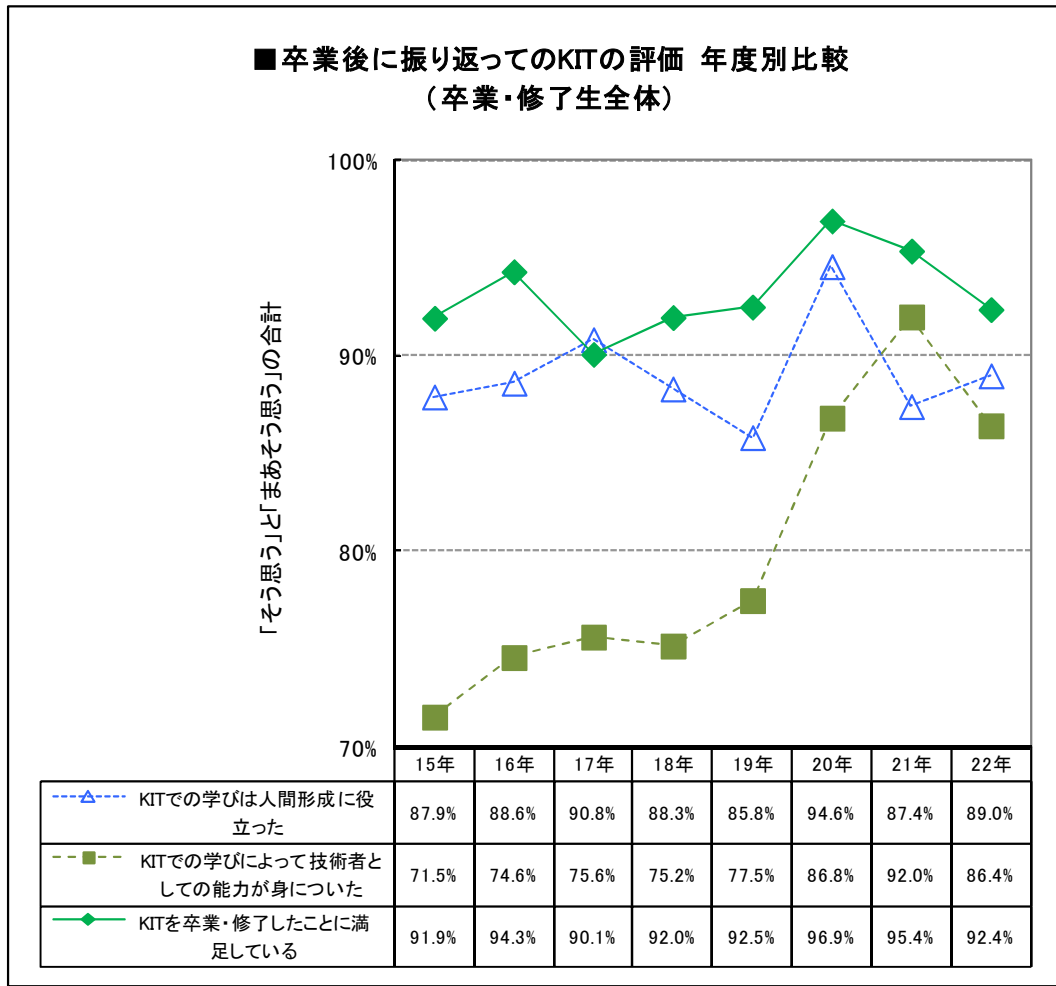
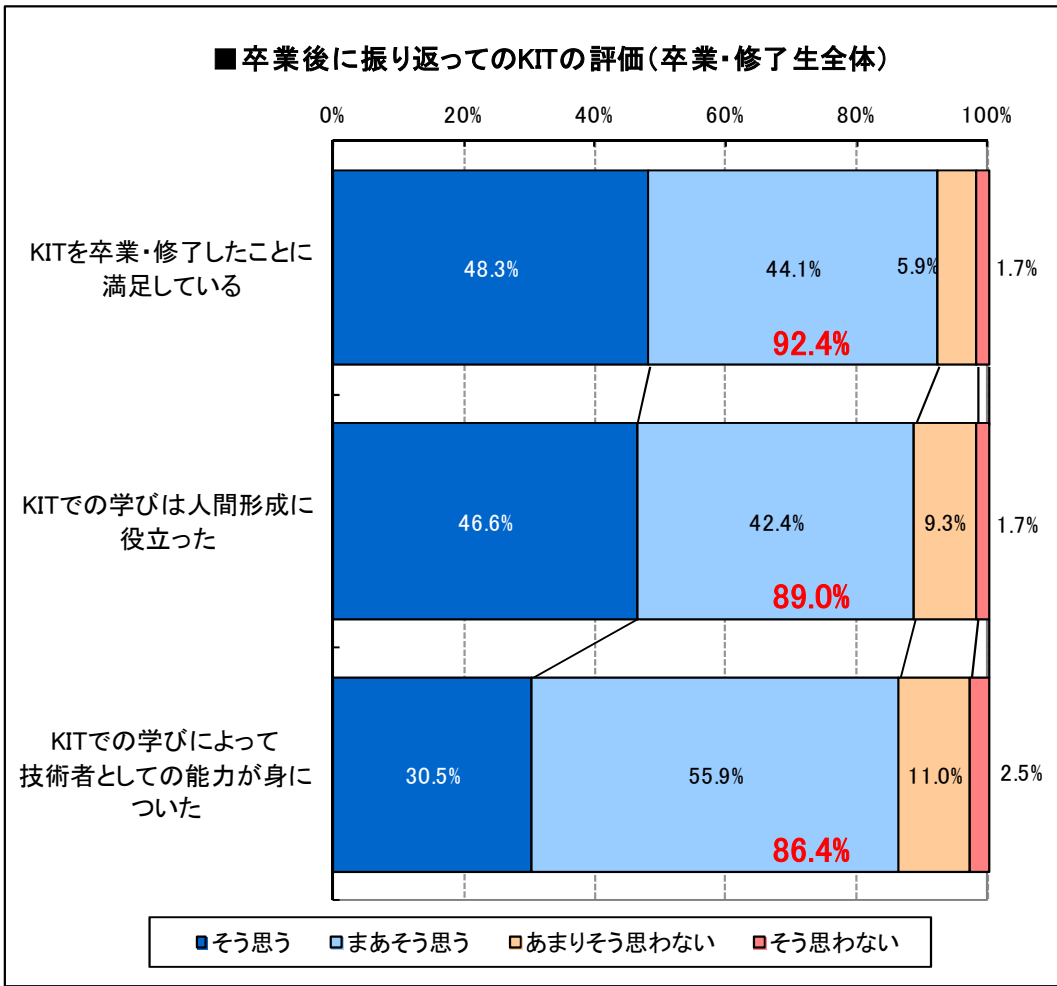
■就職・進学支援の評価(卒業・修了生全体)



<7-3>卒業後のKITの評価

■卒業後のKITの評価 年度別比較

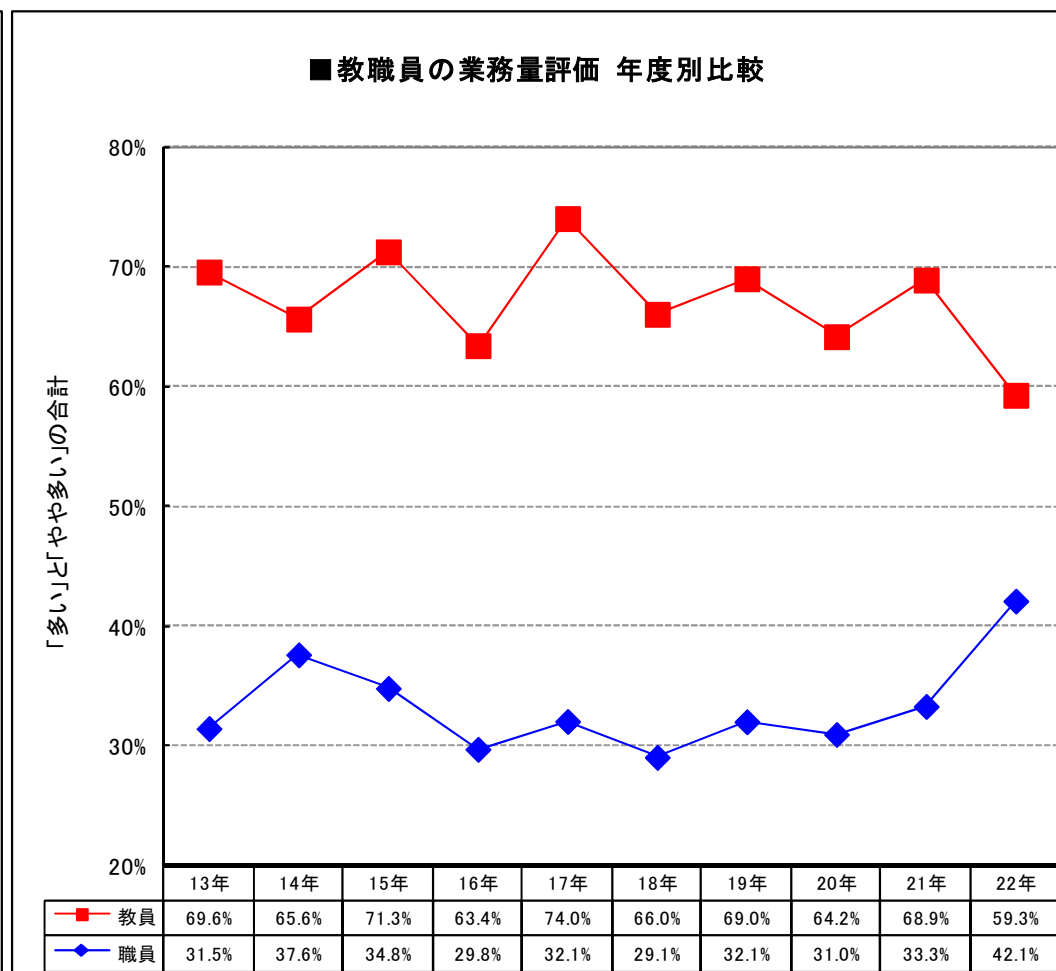
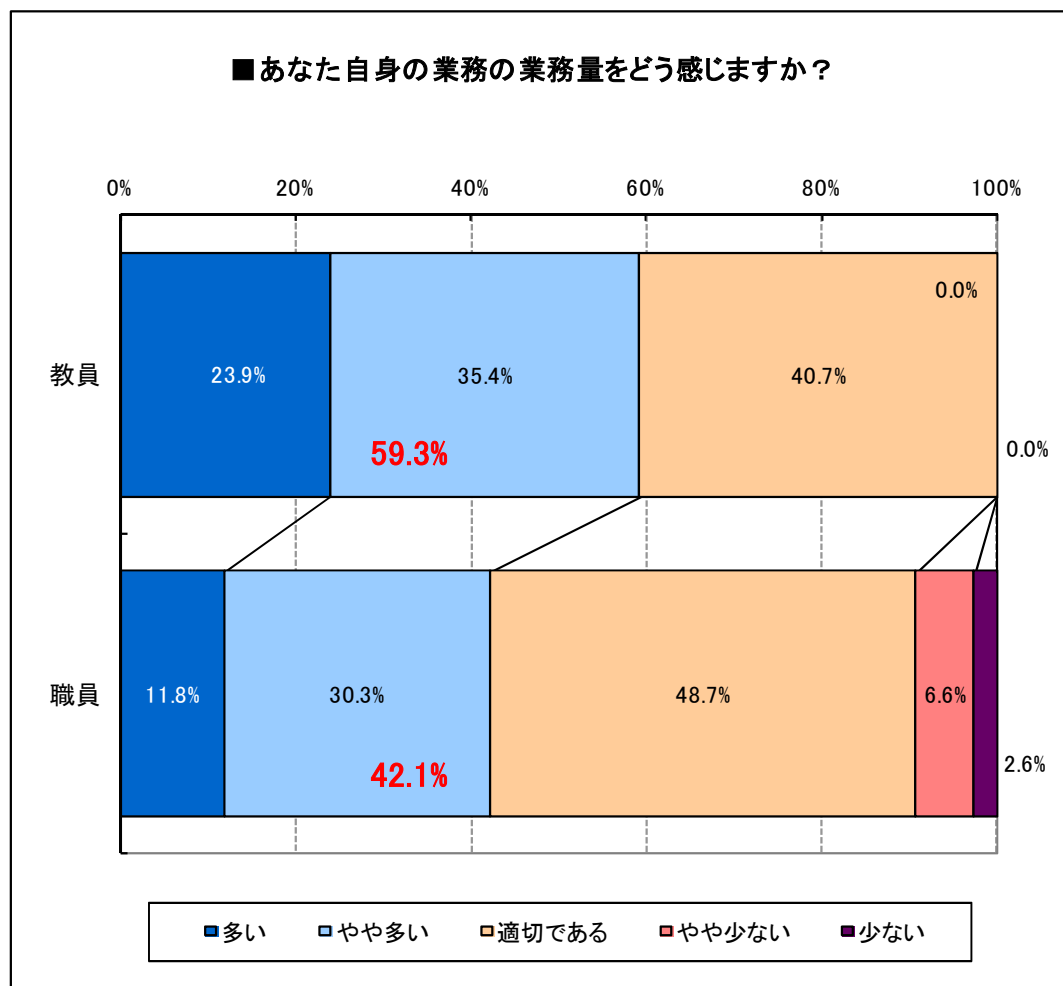
- 卒業後に振り返ってのKITの評価は「卒業生」と「修了生」のみに聞いている。
- 「KITを卒業・修了したことに満足している」に対しては「そう思う」が48.3%、「まあそう思う」が44.1%であり、合わせると満足度は92.4%であり、非常に高いものとなっていた。
- 上記に次いで、「KITでの学びは人間形成に役立った」は89.0%、「KITでの学びによって技術者としての能力が身についた」は86.4%であり、これも非常に高いものであった。内訳を見ると、「そう思う」は「KITでの学びによって技術者としての能力が身についた」でやや少なかった。
- 年度別の比較を見ると、「KITでの学びは人間形成に役立った」は前回は1.6ポイントとわずかに上回ったものの、「KITでの学びによって技術者としての能力が身についた」はマイナス5.6ポイント、「KITを卒業・修了したことに満足している」はマイナス3.0ポイントとなり、満足度が低下する結果となっていた。



<8-1>業務の状況に関して

■自分自身の業務量

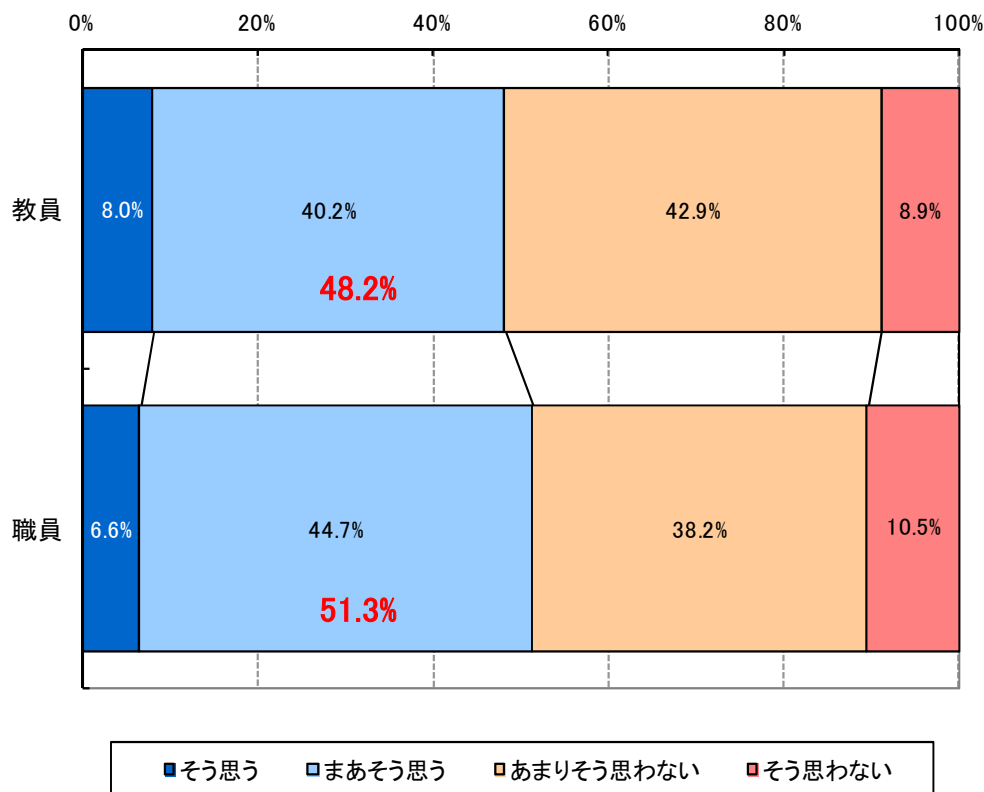
- 「あなた自身の業務量をどう感じますか？」に対しては、「教員」では「多い」が23.9%、「やや多い」が35.4%であり、合わせると59.3%となり、約6割が業務量が多いと感じていた。そして、「適切である」は40.7%、「やや少ない」「少ない」は共にゼロであった。
- 「職員」では「多い」が11.8%、「やや多い」が30.3%であり、合わせると42.1%が業務量が多いと感じていた。そして、「適切である」が48.7%と約半数であり、「やや少ない」が6.6%、「少ない」が2.6%であった。
- 「多い」と「やや多い」の合計の年度別比較を見ると、「教員」は前回は9.6ポイント下回って過去最低となっていた。一方、「職員」は前回は8.8ポイント上回って過去最高であり、両者の意見が分かれる結果となっていた。



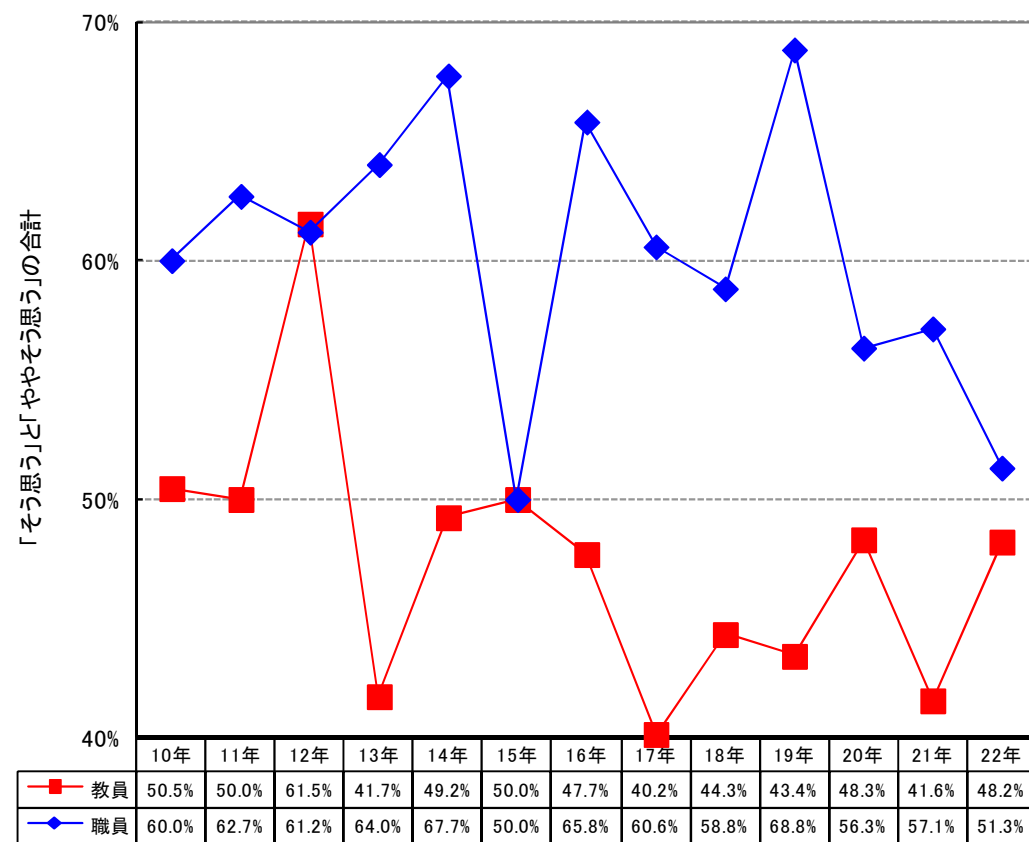
■ 自分自身の業務改善状況

- 「あなた自身の業務は昨年度より改善されていますか？」に対する「教員」の回答を見ると、「そう思う」が8.0%、「まあそう思う」が40.2%であり、合わせると48.2%が肯定的な意見であった。そして、「職員」では「そう思う」が6.6%、「まあそう思う」が44.7%で、合わせると51.3%であり、「教員」を3.1ポイント上回っていた。
- 肯定的な意見の年度別比較を見ると、「教員」は前回は6.6ポイント上回っていた。一方、「職員」は前回は5.8ポイント下回っており、15年に次いで過去2番目の低さとなっていた。

■ あなた自身の業務は昨年度より改善されていますか？

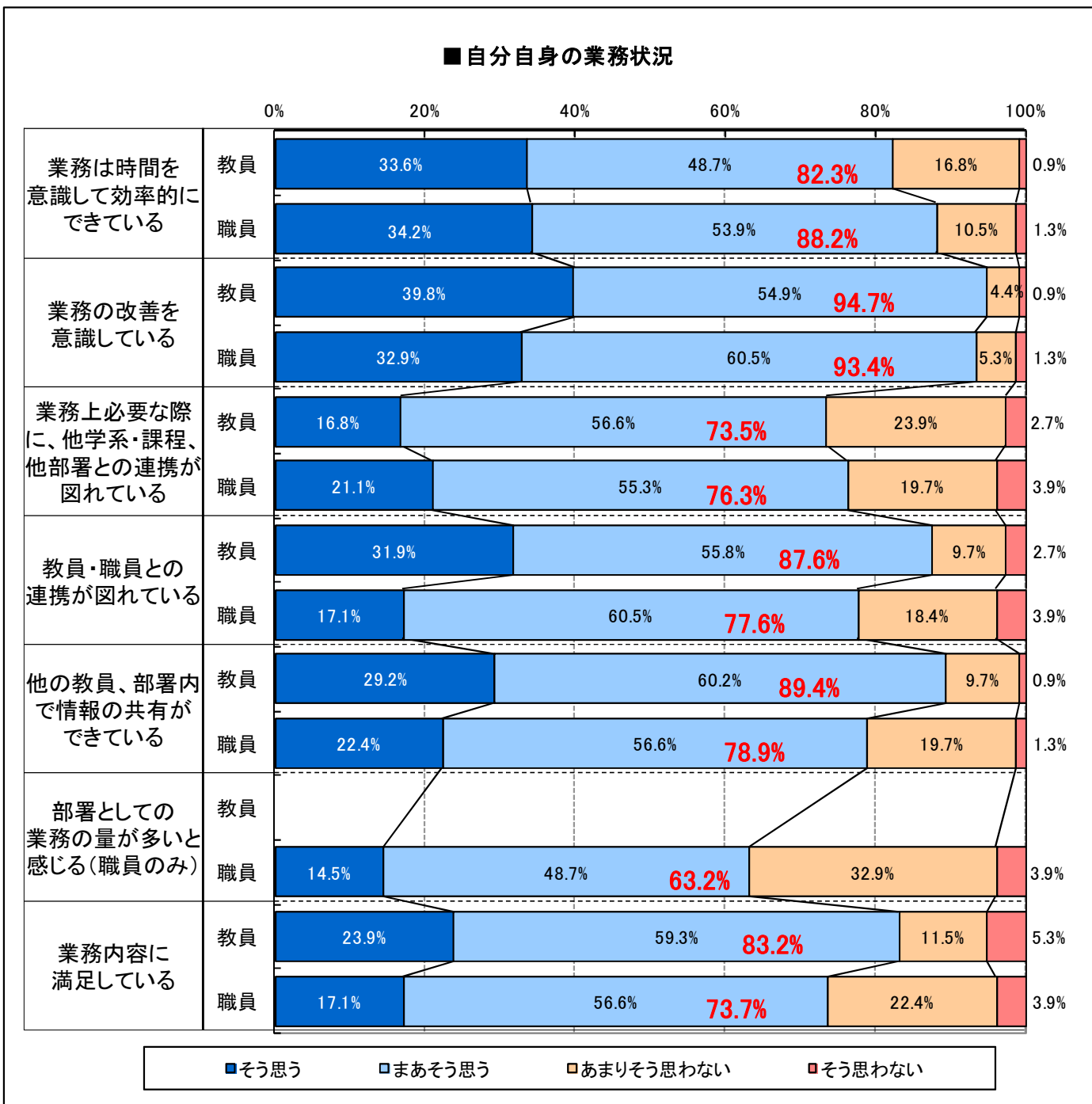


■ 業務の改善状況 年度別比較



■自分自身の業務状況

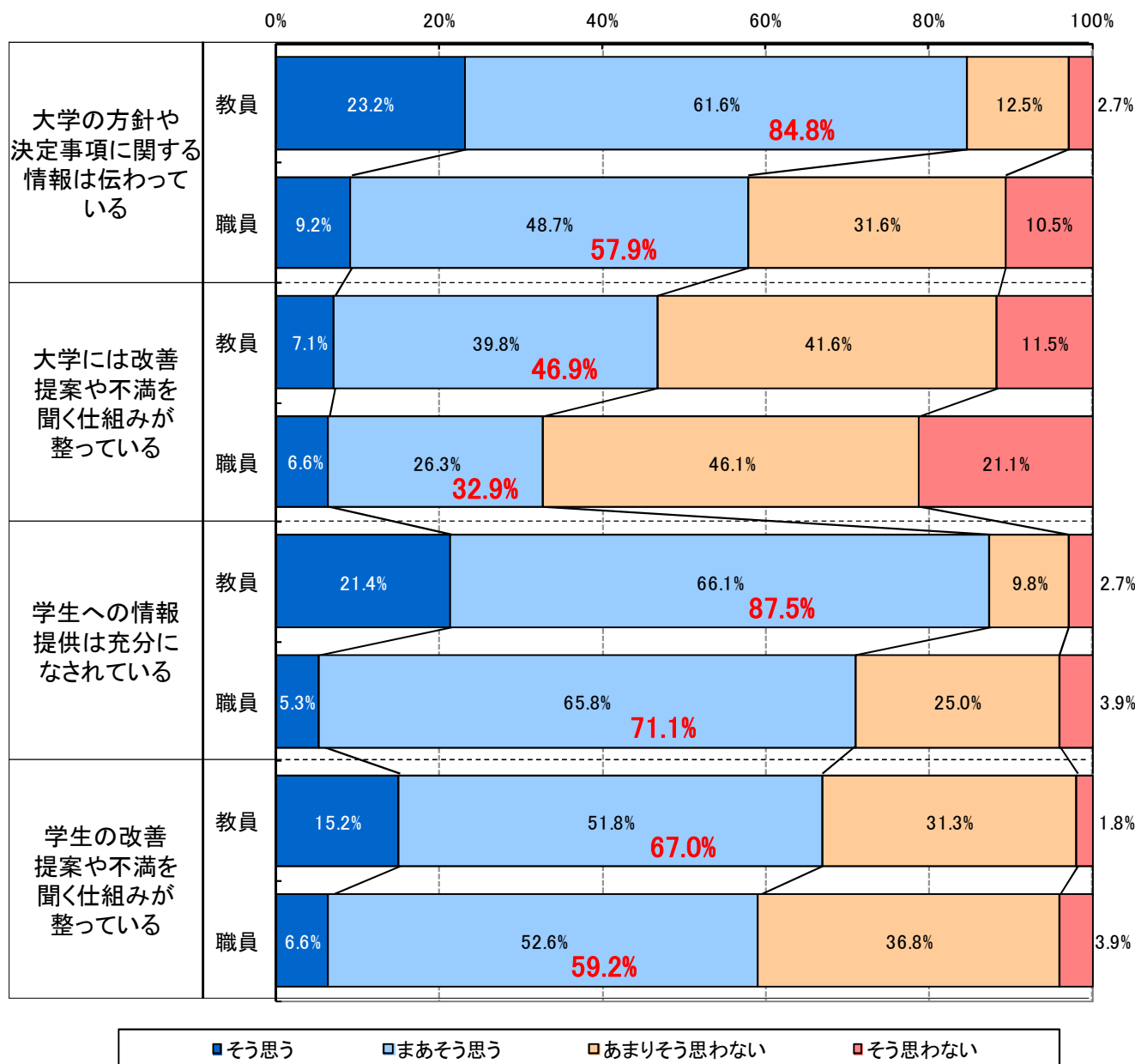
- 自分自身の業務状況に関して、最初に「業務内容に満足している」の肯定的な意見を確認したところ、「教員」は83.2%、「職員」は73.7%であった。いずれも低い満足度ではなかったが、「教員」の方が9.5ポイント上回っていた。
- 満足度以外の項目を見ると、「教員」「職員」共に「業務の改善を意識している」で肯定的な意見が多く、「教員」が94.7%、「職員」が93.4%と、差は見られなかった。同様に「業務は時間を意識して効率的にできている」も「教員」が82.3%、「職員」が88.2%で、差は少なく、この項目は「職員」の方が肯定的な意見が多かった。
- 一方、教職員共に低かったのは、「業務上必要な際に、他学系・課程、他部署との連携が図れている」で、「教員」が73.5%、「職員」が76.3%であり、これもわずかに「職員」の方が肯定的な意見が多かった。
- 「教員」と「職員」の差が大きかったのは、「教員・職員との連携が図れている」と「他の教員、部署内で情報の共有が図れている」と「他の教員、部署内で情報の共有ができている」であり、いずれも「職員」の低さが目立っていた。



■大学の改善への取り組み状況

- 大学の改善への取り組み状況の評価は、全項目で「教員」の方が肯定的な意見が多く、高い評価となっていた。
- 「教員」と「職員」の評価に差はあるものの、教職員共に「学生への情報提供は充分になされている」の肯定的な意見が最も多かった。特に「教員」では87.5%が肯定的な意見であり、高い評価となっていた。
- 上記に次いで、「教員」では「大学の方針や決定事項に関する情報は伝わっている」が84.8%で評価が高く、「職員」では「学生の改善提案や不満を聞く仕組みが整っている」が59.2%で続いていた。
- 教職員共に肯定的な意見が最も少なかったのは「大学には改善提案や不満を聞く仕組みが整っている」であり、「教員」は46.9%、「職員」では32.9%と、特に「職員」の不満の大きさが感じられた。

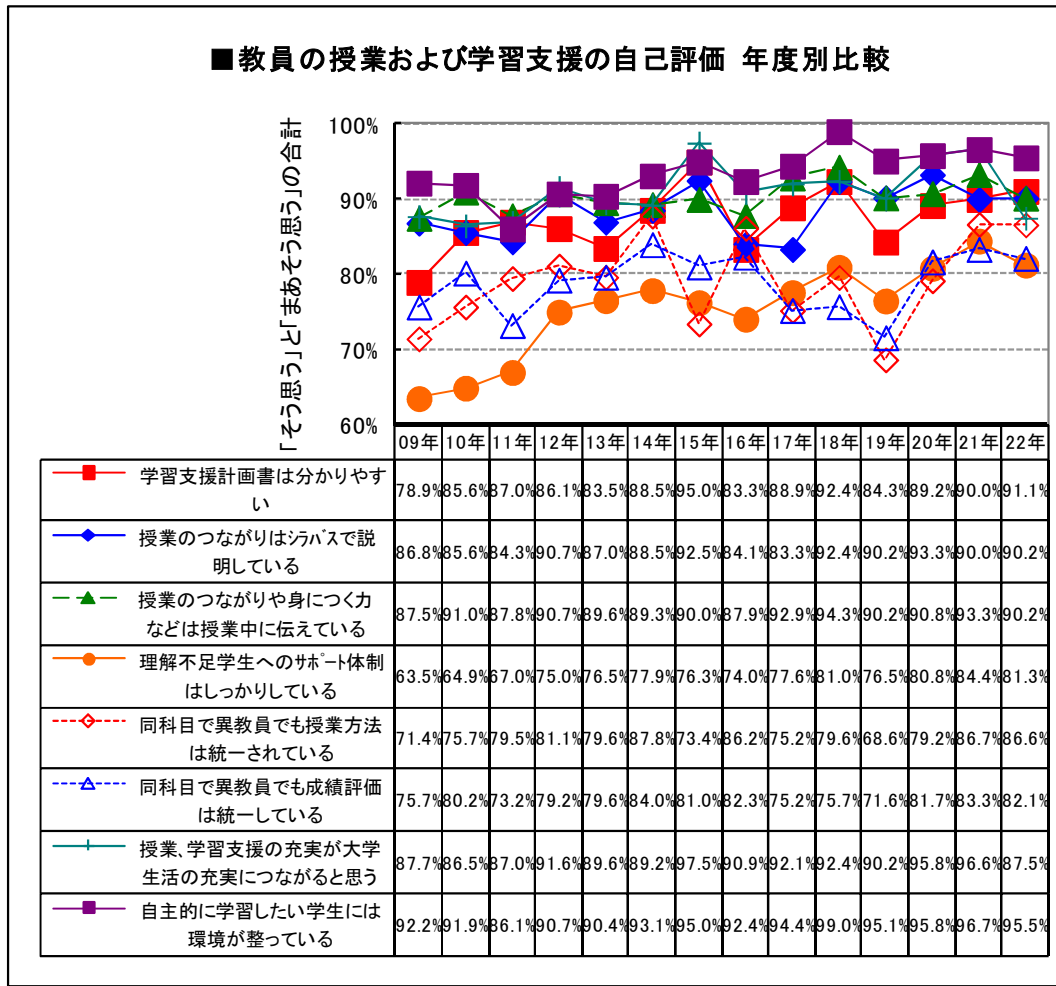
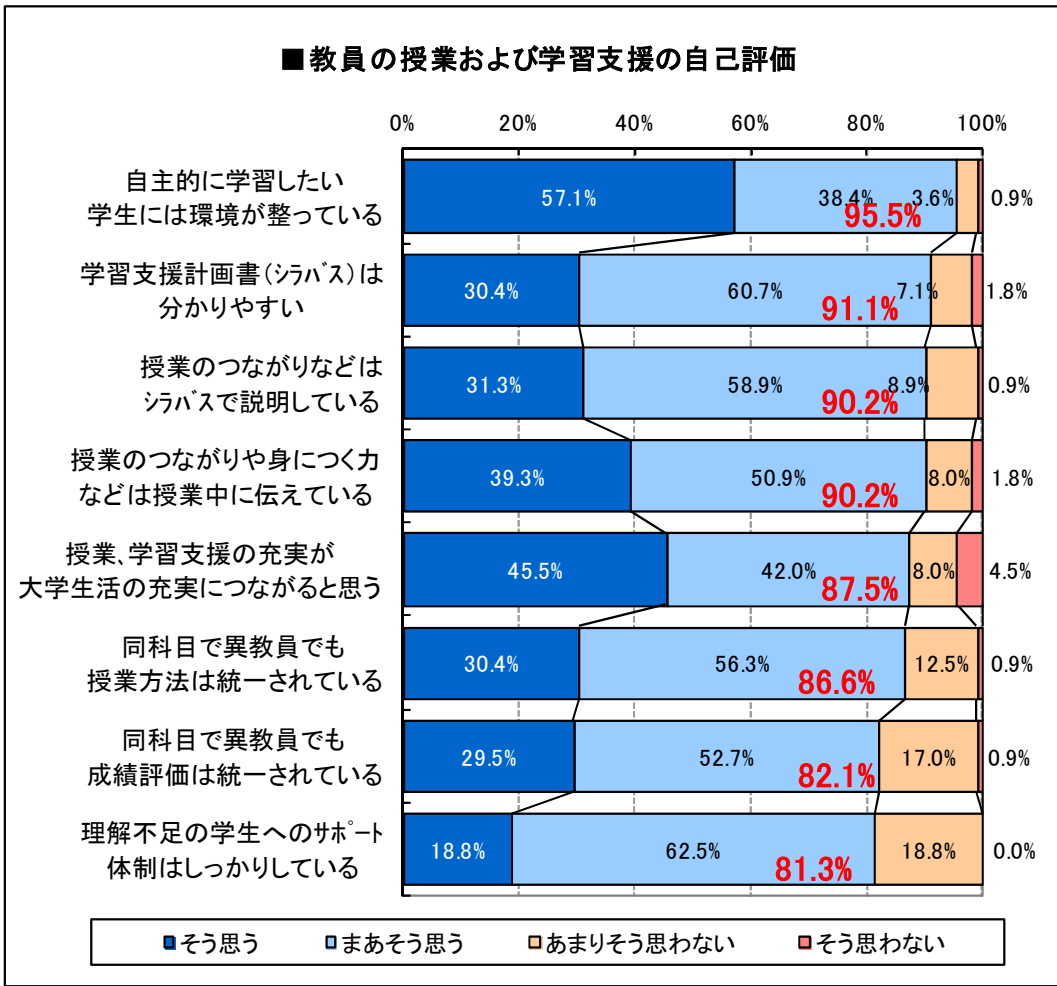
■大学の改善への取り組み状況



<8-2>教員の授業および学習支援の自己評価

■教員の授業および学習支援の自己評価

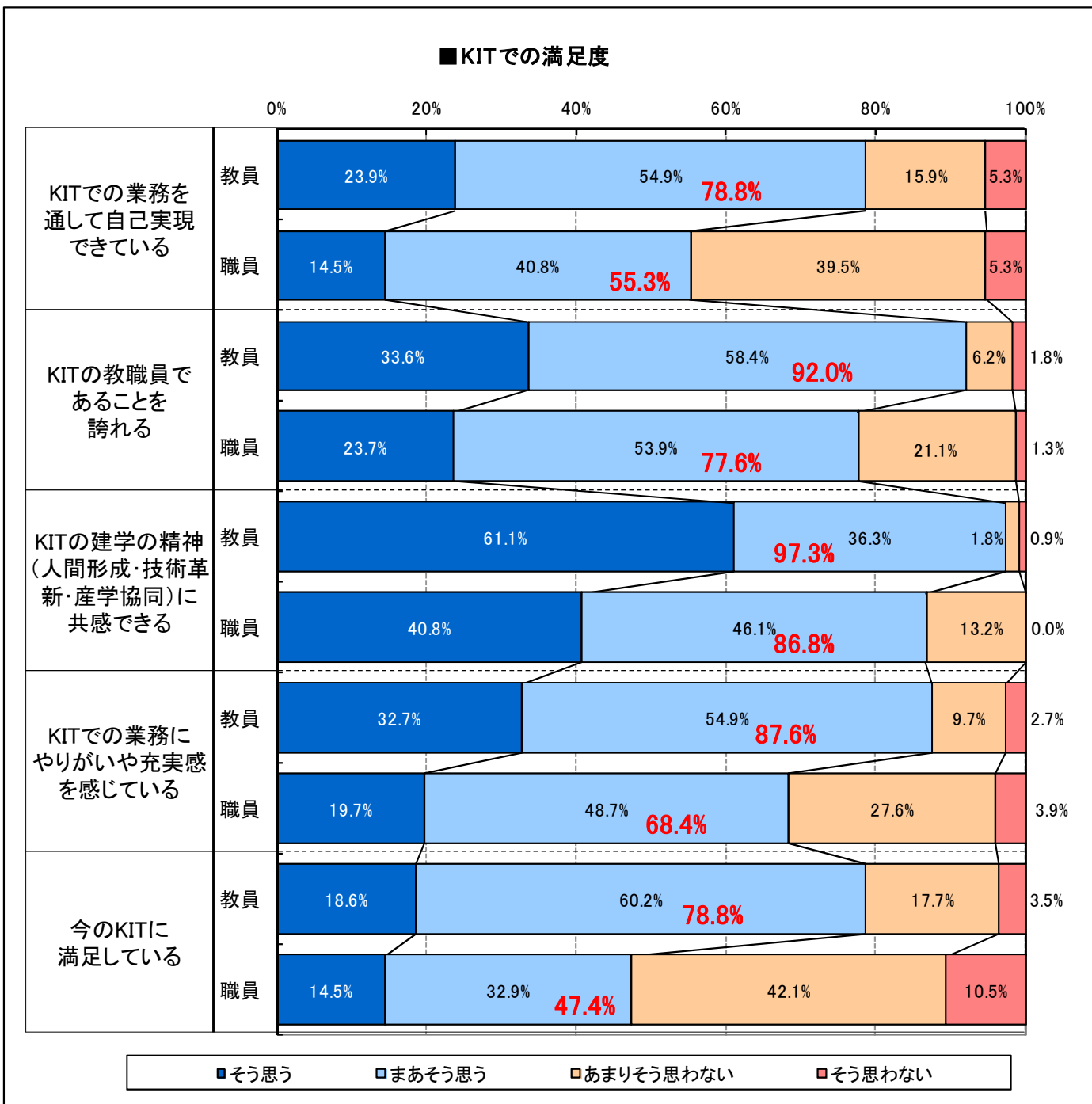
- 授業および学習支援の自己評価は教員のみに行っているが、肯定的な意見が最も多かったのは「自主的に学習したい学生には環境が整っている」の95.5%であり、「そう思う」が57.1%を占めるなど、非常に高い評価であった。次いで、「学習支援計画書(シラバス)は分かりやすい」が91.1%、「授業のつながりなどはシラバスで説明している」と「授業のつながりや身につく力などは授業中に伝えている」が90.2%で続いていた。
- 一方、最も低かったのは「理解不足の学生へのサポート体制はしっかりしている」の81.3%であり、「そう思う」(18.8%)の少なさも目立っていた。次いで、「同科目で異教員でも成績評価は統一されている」が82.1%、「同科目で異教員でも授業方法は統一されている」が86.6%であり、「同科目で異なる教員の対応」の自己評価がやや低めであった。
- 年度別に比較したところ、「授業、学習支援の充実が大学生活の充実につながると思う」は前回から9.1ポイントと大きく低下していた。これにはコロナ禍による価値観の変化の影響もあるのではないかとと思われる。他の項目の変化はわずかで、大きな課題は見られなかった。



<8-3>KITでの満足度

■KITでの満足度

- 最初に「今のKITに満足している」を見ると、「教員」では「そう思う」が18.6%、「まあそう思う」が60.2%であり、合わせると満足度は78.8%となっていた。そして、「職員」では「そう思う」が14.5%、「まあそう思う」が32.9%で、満足度は47.4%であり、「教員」を31.4ポイントと大きく下回っていた。
- 上記の満足度も含めて、すべての項目で「教員」の方が肯定的な意見が多かったが、教職員共に最も多かったのは「KITの建学の精神に共感できる」であり、「教員」は97.3%、「職員」は86.8%であり、両者の差も10.5ポイントと最も小さかった。
- 上記に次いで、「KITの教職員であることを誇れる」は「教員」が92.0%、「職員」が77.6%、「KITでの業務にやりがいや充実感を感じている」は「教員」が87.6%、「職員」が68.4%となっていた。



継続的な改善活動のために!

在学生・卒業生・教職員

2022 KIT総合アンケート調査結果[報告書]

- | | |
|-----------|--------------|
| ■発行日 | 令和4年12月1日 |
| ■発行者 | 学校法人 金沢工業大学 |
| ■調査票設計・分析 | 有限会社 アイ・ポイント |
| ■編集 | 金沢工業大学企画部CS室 |
-

無断複製厳禁